

Inventory of Zenichi Kawazoe Scrapbooks

Scrapbook No.: BOX K4 #5

Scrapbook Title:

Primary Date range: 1962-1964

Dates outside of range:

Eastern sequence:

Western sequence: (HONGWANJI)

Contents description: BUDDHISM IN HAWAII, FOLK STORIES OF JAPAN,
NINJA, *HISTORY OF JAPANESE & HAWAII RELATIONS

*LILIUOKALANI, KALAKAUA, KAZUKUNI & JAPANESE EMPEROR,

NEWSPAPER: MAINICHI SHINBUN, SATURDAY TIMES, HAWAII
TIMES

Inventory of Zenichi Kawazoe Scrapbooks

Scrapbook No.:

Scrapbook Title:

Primary Date range:

Dates outside of range:

Eastern sequence:

Western sequence:

Contents description:

(Mixed)
1962-1964

Gift of K. Kawazoe
3/89

Scrapbooks

Add to: Hawn
Rare

(per M. Chou)

Fumigated- Jan. 1989

Bookplate
attached

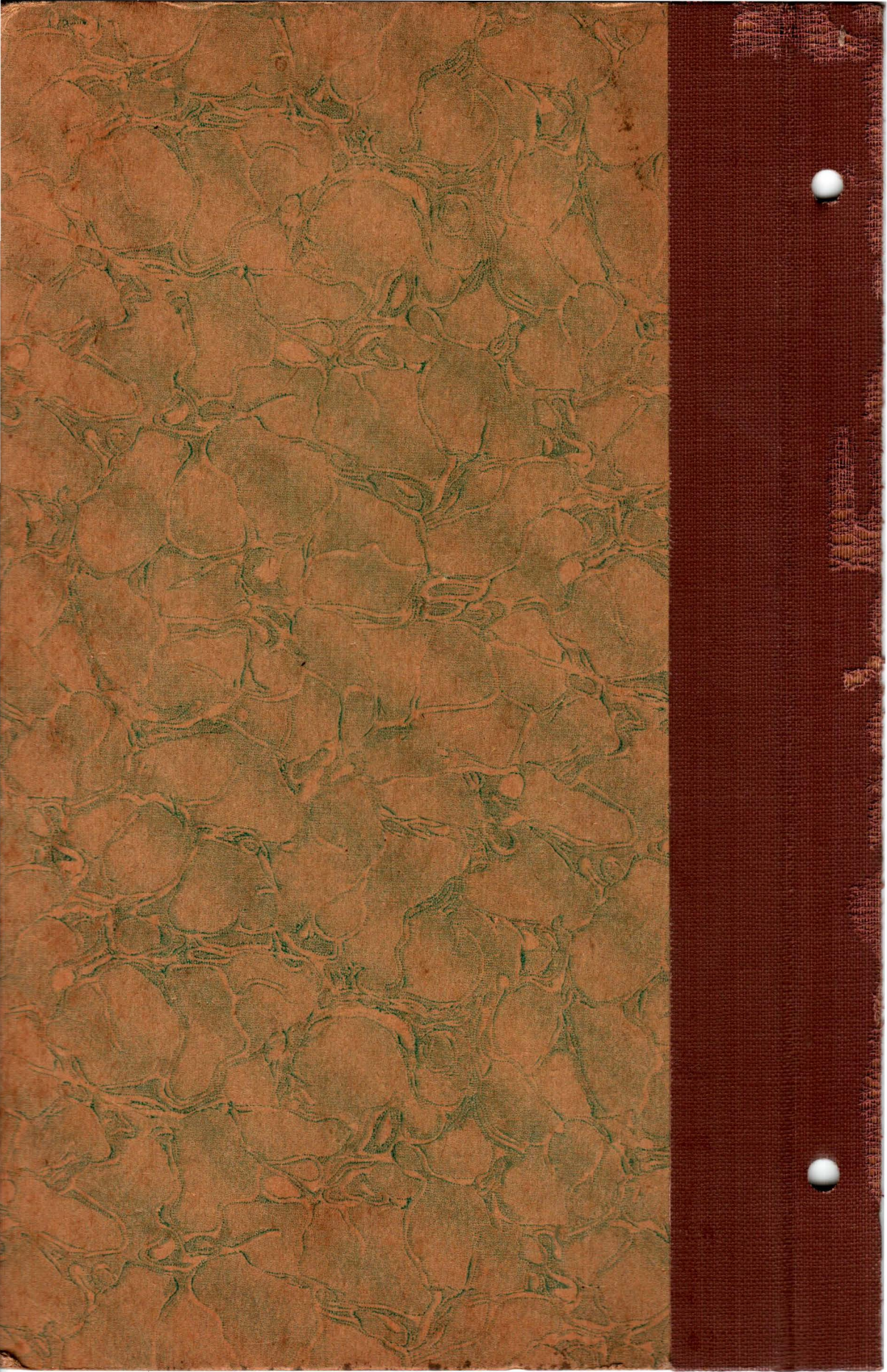
he makana ā

University of Hawaii at Manoa Library

Kenpu KAWAZOE



G/E
h





美貌者小染の漂流

ハワイに漂着後桑港で一生を終る

東京 山下 草園

(四) 杉田も死罪 小染漂流す

與力鈴木藤太郎の死罪で自由な身になつた小染は、杉田大藏が伊豆の下田で一かきの海産物問屋になつてゐることを風の便りで知り、矢も楯も堪らず、柳橋の津之國屋も賣り拂つて金に變じて下田に向つたが、東海道藤澤の宿まで來ると、重罪人を輸送する軍鶏籠（トーマルガゴ）にぱつたり出會つた、それには『杉田大藏こゝ鶴屋平四郎』と書いてあつた

小染はハツと思ふ息がこまりそうであつたが、氣

をこり直して役人に哀願し軍鶏籠に取りすがらうにしてかき口説いた、大藏は『無益ぢや、すべて無益ぢや……』と叫んだが、小染は『みんな私のためです』と身を懷かせて泣いた。こうして別れたきり泥棒稼業の大藏は獄門に斷罪され、魂の抜けたような小染は江戸には歸らず下田から浦賀へかけて、うつろ

に乗つて西國札所巡りのため、浦賀を出帆したがこの船が遠州灘で時化に遭い、六十日間漂流した後、小染は助けられてホノルルに上陸し暫らく滞在したのである

な身を藝者稼業にさらしてゐた、彼女は安政三年二十八歳を迎へた後に、亡き二人の菩提を弔うため、遠州榛原郡川崎村の和泉屋源太郎の持ち船で荷物船天神丸

ゴシツブ

半山雲雨

斷崖絶壁描難成
滿目風光削玉清
古戰場頭豈無感
半山雲雨半山晴

○
斷崖絶壁 描くこゝ成り

難し
滿目の 風光玉を 削りて

清し
古戰場頭豈感無からんや
半山は雲雨半山は晴る

今から四十年前の一九一五年、桑港に開催されたパナマ運河開通記念博覽會世界宗教大會に、日本各宗、佛教代表として出席し、そ

の歸途ホノルルに杖を曳いた日置默仙禪師が絶景ヌアヌ・バリに遊んだ時の所懐で、この位よくあの絶景を詠じた詩は、ない云つてよからう

殊に半山は雲雨に包まれてゐるのに、半山は晴れてゐるを詠じてゐるが如き、同時に人生その物の姿でもある云ふ可きか
私自身は知らないが、人傳にて聞くに當時マウナケア街に錦亭云ふ飯屋があり、その主人は禪僧上りで、専ら島津和尚のニツクネームで通つてゐたそうだが先きの大本山永平寺貫主で一代の高僧日置默仙禪師

をヌアヌ・バリに案内したのがこの島津和尚で、禪師は島津さんのため自筆のこの詩を贈つたがこの書は今は、ヌアヌ街の曹洞宗別院に秘藏されてゐる、しかしこの書が別院に納まるまでには一つの因縁話がある

島津和尚が禪師から贈られたこの書は後に、私の同郷の先輩で勿論今は故人の高橋直市氏の手に移り、更に高橋さんから書畫骨董好きの新聞人だつた故芳我日下氏の所有になつた
その芳我さんが夫人獨りを遺して當時の日本人病院で他界するや、その蒐集品は友人達により整理された

ミ云ふこゝである
遺族の爲めミ云ふ意味もあつたであらう、二百弗でこの書を引受けたのが、これも既に故人の山本熊之助氏であつた

ミころが山本氏の死に接した未亡人は、この書を所有了た芳我さんも、山本さんも相次いで他界した所から、或はこれは在家に置く可きではないのだらうと思つたのである
山本家は元來淨土宗だがこの書が禪宗高僧のものである所から特に曹洞宗別院に贈られた、ミ云ふのである
(樞)

美貌藝者小染の漂流

ハワイに漂着後桑港で一生を終る

東京 山下 草園

(一)
ハワイへの漂流者では、紅一點のみられる江戸の隨一の藝者津之國屋小染について、彼女が二十八才の時、後にサンフランシスコに件われて、そこで一生を終つてゐるので、日本人の歸化第三號ではないか、さういふ想像説を書いたが、この小染の日本に於ける行狀、つまり漂流前の物語を『津之國屋小染』という標題で、『文藝春秋』の『物』新年特別號に井上友一郎が二十八頁にわたつて書いてゐる、これは彼女の數

奇な運命を書いたもので、面白く讀ませるが、漂流後のホノルル滞在や、サンフランシスコでの、彼女の生活については記述がない、然し物語中に、從來知られなかつた記録が、あれこれ可なり出て來てゐるし、漂流後のこゝを述べた僅か二十一行中にも二、三の新資料を提示してゐるのは興味深い

この小染については、既に二十餘年前に矢田挿雲が『江戸から東京へ』の中に詳しく興味深く記述してゐる、これにも資料が多く、この度びの井上友一郎の

著に基いたものであり、木原者の資料は矢田挿雲の『江戸から東京へ』の中の物語によつたものと思われ、また戦時中だした拙著『日本布哇交流史』には矢田挿雲の記述を、一、二の雑誌から参考にして三頁半にわたり書いた。最初に上げた木原著『布哇日本史』には『邦人漂着史』の中に次のように書いてゐる
十一、安政六年(一八五九)江戸の藝者小染(興力鈴木蘇吉郎の愛妾)三

(二)
小町娘お染
杉田と知る
小染は本名お染といひ、江戸神田今川橋の裕福な材木商津之國屋惣兵衛の一人娘であつたが、生年十八才李の花のような、ようちようたる美人で早くから今川小町さほめそやされてゐた、偶々その頃評判の浮世繪師歌川豊國の錦繪東都百美人の中に唯一の素人娘として描かれ、更に羽子坂の押し繪になつて隨一の人氣をなつた

餘り評判が高いので、錦繪から出羽秋田二十四萬石の領主佐竹右京太夫に思慕せられ、遂に説き伏せられて下谷三味線堀の同侯の上屋敷に妾奉公に上つたが、いさこさがあつて、この老奥女中松崎を酒席で三味線をもつて叩き、座敷半に入れた、父の惣兵衛はこのことを聞いて上野の宮様侍杉田太藏に泣きついて、その助力により遂に王寺一品親王殿下の御聲がかりで、お染を座敷半から出して實家へ戻らせることになつた
この杉田太藏といふ宮様侍は、當時二十六才で、黄の肩衣になす紺の袴、黒髪を大たぶさにして、すくつき立つた姿は繪双紙の團十郎そっくりといふ美男子

…「珍書發見」の續篇…

日本布哇關係史話

東京 山下 草園

〔四〕

「布哇」が出版されたのは、ハワイ王朝が革命によつてくつがねされ、リリウオカラニ女王が退位された明治二十六年（一八九三）の前年のことである、時の皇嗣は「カイウラニ」王女であつて、この人こそおの先帝カラカウア王、おのの現帝リリウオカラニ王の兄妹が、當時日本の山階宮定鸞王で後に小松宮、更に元帥海軍大將東伏見宮依仁親王なられた方に、めあわせようご努力されたその主人公である

日布皇室の婚禮に朝議賛成

「カイウラニ」王女は當時の山階宮との婚約の間は、明治十四年（一八八一）二月八日に來朝せられたカラカウア王が、直接明治天皇に申込んだことに始まるのであるが、ここで瀬谷の著書中「布哇皇室の現時」（明治二十五年現在）からこの話に關係のある人だけを抜萃するに次の通りである

皇帝「リリウオカラニ」陛下、一八三八年九月二日

降誕、一八九一年一月二十九日即位、故ドミニス親王殿下（元米人）と結婚、父は「カバアケア」母は「ケオホ・コロレ」陛下の妹なり

皇嗣「カイウラニ」殿下は一八七五年十月十六日生れ母は故皇妹「リケリケ」内親王、父はクレグホーン閣下（元スコットランド人）一八九一年三月九日皇嗣陛下に宣下

この問題については日本にもハワイにも公文書の記録は残っていないが、信ずべき記述は種々あり、この中英文では W・B・アームスワングの「Around The World With The King」の中の第四章から十章までの記述である、和文では『聖將東郷平八郎傳』『東伏見宮依仁親王傳記』の中に明記してあり、その他二三ある、森田榮著の中には志賀重昂がヌ青の金曜會で講演したものを訂正して掲

録」を五十九頁にわたつて詳述した
この話は結局成立せず、翌明治十五年（一八八二年）三月二十日ホノルルに着いた特使長崎省吾光範書記官ミ隨員石川・和田によつて謝絶したが、一時は日本の朝議は賛成に傾いたのであつた、日本の記録から調べた當時の様子はまだハワイには傳はられていないので簡単に次に附して置く

〔五〕

明治天皇の裁
定で謝絶

次の一文は「日本布哇交流史」（昭和十八年版）中「カラカウア王の來朝秘録」の第二十節の要約である
『明治天皇陛下はカラカウア王の退去後（單獨おし

のびで謁見）直ちに東伏見宮有栖川宮、伏見宮、北白川宮、山階宮各親王殿下をお招きになり、皇族會議を開かれ、續いてこれを廟議にかけられた
そこで徳大寺宮内卿、三條太政大臣、岩倉右大臣、井上外務卿初め參議諸卿らは御前會議に於て、このハワイ國王の御申入れを聴許せらるべきか否かに就いて忌憚なき意見を交換した結果、大體賛成に傾き
「ハワイ國王の御申入れを御受諾せられて山階宮定鸞王殿下「カイウラニ」王女との御婚約を御聽許あらせられては如何であらう」云々のことに取纏めて、直ちにその旨陛下に奏上した
明治天皇陛下には何か御心に期せられた所もあつたものか、奏上の趣きに幾分耳を傾けられたようにみられ

「珍書發見」の續篇… 日本布哇關係史話

東京 山下 草園

〔一〕

布哇タイムスの「ゴシツ
ブ欄」に發表された川添櫻
風子の「珍書發見」とい
一文が、こりもつて、その
「珍書」瀬谷正二著「布哇」
を、所有主のホノルル市小
島書店主小島定吉氏の好意
で寄贈された、早速全巻を
一見し、所々拾ひ讀みして
その貴重な文獻であること
を感じた、これは目下調査
を要記を進めてゐる「ハワ
イ日系人全史」の好資料で
あるが、この書中にある二
三の記述に基いて「珍書發
見」の續編を書き、この書

の寄贈者の意志の一端を生
かし、また布哇の讀者に報
告したい

最古書「布哇」

「布哇」は本文百三十頁
地歴・風習・宗教・教育・
文化・商産・經濟・政治・
交通・動植物等廿九節（中
國史抄一節十六頁）緒言
目次十六頁、附録三十四頁
合計百八十頁の菊判で、地

圖の外カット數葉を挿入し
てゐる、この種のものとし
ては小冊子であるが、然し
仲々要を得た纏め方で、當
時のハワイの全貌を知るに

は、寧ろ他の大冊よりも遙
かに簡明正確で判りよい

この書は先に紹介せられ
た通り明治二十五年（一八
九二）十月七日東京日本橋
吳服町七番地忠愛社書店の
發行で、恐らく「布哇國政
府内務省移住民局監査官」
の一人として明治十八年
（一八八五）に渡布した著
者が、退官して歸朝後數ヶ
月間に書き上げたものであ
ろう、明治二十五年といわ
ばハワイ王朝が革命で崩壊
し東郷艦長の浪速艦がハワ
イに進航した前年で、この
頃までのハワイ事情を知る

好い文獻である

この「布哇」は日本人に
より日本語で書かれたハワ
イ事情の纏まつた書物では
最初のものである、ハワイ
の日系人評傳を中心に書か

〔二〕

瀬谷は先覺者

瀬谷はこの書を出版した
後、即ち明治二十六年（一
八九三）一月二十五日に「布
哇國移住民始末」という二十
頁の非賣品のパンフレット
を出して、ハワイ國の移民
條約違背の實例と公民權の
剝奪の件を突き、日本朝野
の覺醒を促してゐる、この
頃リウオカラニ女王は退
位して王朝は崩れ、ヒロの
日本人同盟會が日本人參政
權獲得運動に乗り出し、日
本政府に建白書を提出した
が、瀬谷もこれに呼應して
右のパンフレットを出した
ことは明かで、或はハワイ
の有志に選ケイして日本政
府に陳情したことも考へられ
る、いづれにしても瀬谷は
この當時の先覺者の一人で

あつた、この「布哇」を日
本で出版したのはハワイの
重要性を日本及び日本人に
知らしめ、更にテンミして
顧みられない約二萬のハワ
イ移住民に對する適切な保
護と對策を促す一助とする
意志に基いたもので、彼の

先見と努力に改めて敬意を
感じらるものである
瀬谷著「布哇」を見るこ
さすがに明治二十五年頃の
匂いを所々に感ずる、印刷
にしても、その用語にして
も古文獻の色がこく、最近
は「パール・ハーバー」ミ
音譯する真珠灣を「ホルル」
灣といふ、頁を全部「ミシ
巻頭を「巻首」とし「目次」
を「目錄」としてゐること
も、その一つである

…「珍書發見」の續篇…

日本布哇關係史話

東京 山下 草園

〔三〕

女旱りの國

書中の「人口」の項で、
各國人男女別人口は興味深いものの一つである、一八九〇年末の調査結果を掲げているが、それによる總人口は八萬九千九百九十人で、クツクのハワイ發見當時四十萬人にみられたものが激減したことを述べ、土人が一割足らずになつたこと記している、そして附録はこの土人各口の激減を十種の理由を擧げて説いているが、民族の悲劇として興味深い當時の各國人の男女別を

見るに、男子に較べて女子の数が非常に少いのに驚くが、その中最も甚だしいのは、日本人よりも古參の移住者である支那人で、男子一四・五二二人に對し、女子は僅かに七九七九人で五分〇九毛に過ぎず、支那人が排斥される一因はこれであるとしてゐる、日本人は男子一〇・〇七九人に對し、女子二・二八一人で、男一人に對し女は二人強さう不均衡である、つり合ひのされてゐるのは、雜種さ布哇出生外國人だけで、その他は各國人にも不均衡がみ

れず、全體の数は男五八・七四人に對し、女三一・一七六人(男子の五割〇三)に過ぎず、全く女ひでりの國であつた、いづこでも開

拓時代はこのように女子が非常に少く、風俗の紊亂や道德のたいはい、賤業、不面目の所業がはびこり、そこに幾多の犯罪が生れたが、ハワイもその例にもれず、この當時は各國人の男女間に生ずるトラブルや、女のやりこりで喧嘩沙汰が多かつた、この頃既に日本人間にも賭博と醜業、飲酒が盛んとなり、無賴漢の横暴が目につく出たのは翌年即ち明治二十七年(一八九

四)のころであつた

最初の日本船

王朝の標語

『國史抄』の項の中で、最初に掲げられてゐるのは次の通り、日本船の漂着である

『千二百七十年、日本船「マワイ島」の北岸に於て難破し船長「カルイキアマン」外男女各々二名土人のために救はる』
この一項は從來の想像説に

有利な斷定を與へる重要なものである、前回も書いたように、この漂流船を『日本船』と明確に記したことは、船長「カルイキアマン」(但し既述の通り輕井喜衛門の轉訛か)を明記したのはこの書が初めてで、その出所據り所は詳でない

にしても、これは非常に有力な決定で、從來の研究に確實性進境を與へるものである

また書中九十八頁に掲げられたカラカウア王朝の「弗銀貨のカットも、日本書に現れたものとしては珍しい、裏一面にはハワイ國王カラカウア一世・一八八三の英字ミ中央に同王の顔の側面像を現し、表面には中央にハワイ王朝のキシヨウを刻み、これをより巻いて下方に「アカヒ・ガラ」1 Dミ記し、上方には「Ua Mau Ka O Ka Aina Ika Pono」

という有名な王朝の標語を記してゐる、英文ハワイ歴史を讀むと、この一語はハワイの獨立を度々脅かされたカマヘメハ第三世カウイケアオウリ王が、列國にハワイの獨立を承認せしめた時叫んだ語で「國家の生命は正義の前に不滅なり」という印象の強い意味である

美貌藝者小染の漂流

ハワイに漂着後桑港で一生を終る

東京 山、下 草 園

であつたが、もともとは下谷坂本二丁目の卑しい紙屑買の重兵衛の伴であつた、しかも彼は天保七年、十二才の頃繁三の本名で津之國屋に丁稚奉公し二年後に僅かのことで暇を出されたが、偶然なことで上野の大僧正に救われ、美貌と才覚が認められて、その頃飛ぶ鳥も落とす權式の上野東叡山寛永寺輪王寺一品親王のお氣に入りの侍にまで出世した、彼もまたその頃お染に戀慕していたのである

大盗を殺し

人氣が出る

お染は父惣兵衛につれら

れて上野の杉田の所へ助けられたお禮に伺ひ、これが縁となつてお染の方から熱を上げ、柳橋や木挽町でひそかに逢ふ瀬を樂しんだが然し杉田大藏は野望を抱いていたので、もう少し出世

するまでは二人が一緒になることをこばみ、やつとお染をなだめさせて三年後に結婚するさうな誓約書を取り交し、當分密會をさせることにした

ところがお染は佐竹侯の一件で世間の噂がさめるまで本所柳島の別荘に乳母の附添いで移り住み、つれづれに清元を教へた、お染の

美貌と美聲と三味線はたちまち近邊の評判となり、遠くの方からも色々な藝者が藝さ色さを目當に通ひ弟子となつた、この中に一人のつべりした嘉吉という男があり、遂に或夜すきを見て脅迫し、お染を手ごめにしたが、お染はその後で策を設け、大酒家のお染は彼を酔いつぶした上絞殺した、所がこの男は大盗だつたのでお染は無罪となり、この事が又人氣とこゝし

與力鈴木藤

吉郎の惡計

お染は間もなく名を『小染』と改め、柳橋から藝者

に出て、裏河岸の家には『津之國屋』の看板を掲げた、こうなるは一層評判となり、彼女が金に不自由せず、男になびかぬさういうので、彌が上にも人氣を呼び引張旗である

ここに與力の上席で郷里に巨萬の富を擁し、花柳界漁りをしてゐる鈴木藤吉郎という男があつたが、彼は最も小染に熱心で、色々手を變へ品を替へて口説いたが、何うしても小染がなびかぬので、何か隠し男があるに違ひないさ注意して

いたその頃、杉田大藏も藝者『小染』のてんやわんやの人氣に堪まりかねて、遂に三年間待つさうな誓約をホゴにして二人は料亭で度々逢ひ、色々な遊びに夢中になつていた、この事を嗅ぎ

つけた與力の鈴木は秘かに杉田の豪遊の場所を洗つていたが、その中に東叡山寛永寺から宮様のお手許金三千兩が紛失したさういふ訴いが來て、上席から鈴木に相談があつたので、雀躍りした鈴木は杉田大藏が怪しいさ彼の一件を上申し、これが元で杉田は上野を追放になつたのである

鈴木藤吉郎の惡事

露見し死罪

上野を追放された杉田大藏は失望落膽して、深夜小染の家に轉がり込んだが、ここで氣を持ち直して町人となり再出發するため悲しむ小染に送られて伊豆の下田に向けて出發した

一方與力の鈴木藤吉郎は愈々自分の天下が來たさういふ染を口説き小染も一た

の底では戀しい杉田のことが忘れられず、その杉田を追ひ拂う原因を出したこの鈴木が憎いので何かして仕返しをしたいさ考へる様になつた、ところがこの鈴木は秋田縣の特殊部落の出で、彼の父は巨萬の富をたくわねたが一人息子の藤吉郎を世に出すため表面親

子の縁を切り、素性を秘して陰から莫大な金を貢いでいた、そしてこの秘密を知る唯一の者に藤吉郎が可愛がつてゐる北町奉行附おう

まや仲間幸吉があつた、小染はこの幸吉から秘密の一人を嗅ぎ出して訴へたので、藤吉郎は素性を秘し

いつわつて公職についていたこと、お倉米賣占めなどの罪狀が發覺して遂に死罪となつた

善志十話

(六)

いまや中国の聖賢の物忘れの語を述べたが、忘れるとを礼賛する人々もとり少なくない。忘の字を用いた句の多いことがこれを証する。忘機といふのは世機を忘れること、すなわち世俗の欲念



カッタ・片岡 球子

や俗事を忘れることが、世塵(じゆん)を外に時酒の中に人生のすべてを忘れた二代の時聖季(ときせい)白などは「われ酔(よ)は君また染(し)む。陶然(とうぜん)としてともに機を忘(わす)れ」と歌っている。同じ唐代の詩人儲光祿(ちよくわく)もまた「華(は)王は滄(そう)海(かい)の(じょう)かく(かく)所在能(よ)く機を忘(わす)れ」として陶機(とうき)の(じょう)かい(かい)を忘(わす)れ、二語にほめてゐる。当時忘機の二字はこれらの人々の好んで用いたことであり、機を忘れるとはこれらの人々の切なる願ひであつた。

忘機といふ言葉もある。

開祖(かいそ)明(めい)は自ら五柳(ごりゅう)先生(せいしん)を伝(でん)作(さく)つて自分の生活(せいかつ)状態(じょうたい)を述(の)べてゐるが、中に「世に文章(ぶんぼう)を著(しやく)すは目(め)を損(そん)つたの(し)み、すなはち口(くち)の(れ)いた、そしてこれらの連中は「忘言(わごん)の契(けい)り

が志(し)を示し、機(き)を得(え)失(しつ)に忘れ、これをもつて自ら終(し)つてしまふ」とかいてゐる。しかも酒(さけ)が好きで飲酒(きんしゆ)の時(とき)が多く、酒(さけ)をもつて憂(うれ)ひを忘(わす)れるの良薬(りやうやく)となし「この忘(わす)れ物の物(もの)を丸(まる)くつめて、わが世(よ)を遺(い)つゝするの情(なさけ)を導(みち)く」と詠(よ)じたこともある。それが病(やま)を東(とう)離(り)の下(した)に探(たづ)み、悠(ゆう)々(々々)然(々々)として南山(なんざん)を見(み)た時

忘機・忘言

諸 橋 轍 次

Sept 19 1962

には、日々移りゆく山中(さんちゆう)の気象(きさう)にも、あるいはまた心(こころ)なく時(とき)が(ねむ)るに(づ)ける鳥(とり)のかげにも、宇宙(うちう)の神秘(しんぴ)を感じたものと見え「この中に真意(しんい)あり、弁(べん)せんと欲(ほつ)して己(おのれ)にいつてを忘(わす)れ」と述(の)べてゐる。忘言(わごん)の二字(ふたご)がここに出(で)てきた。詩情(しじやう)に響(こ)み入(はい)るには「種(しゆ)の心境(こころがた)は、だれにでもあつたものである。『聖来(せいらい)』(じらい) 師人(しにん)の問(と)には盛(も)れこの語(ご)が用(もち)いられるようになつた。

右(みぎ)に用(もち)いた忘言(わごん)とは少し意味(いみ)は違(ちが)つた。「忘言(わごん)の交(か)わり」(わごんのかわり)といふ言葉(ことば)はとくに六朝(りくぢよう)時代(じだい)から隱(いん)君子(くんし)の間(ま)に行(な)なれてゐた。竹林(しんりん)の七賢(しちけん)など

は私の親(おや)く接(けつ)した文壇(ぶんだん)科(か)大学の最初(さいしよ)の学長(がくちやう)、三宅(みやけ)米吉(みやけ けいきち)先生の逸話(えきだ)を伝えよう。先生(せんせい)はまことに口数(くすう)の少ない人(ひと)であつた。しかし「夫(そ)の人の言(こと)は、言(こと)えは必ず中(なかつ)にあつることありてやかまじし教授(けうじゆ)会(かい)でも先生の一言(いちごん)一決(いつけつ)ま、なごが多(おほ)かつた。この先生(せんせい)はかつて教(し)えたりあり、また無(な)二の親友(しんゆう)であ

り、同じ歴(れき)史(し)學者(がく)である「趣味(しゆみ)の日本史(にっぽんし)」の著者(しやくしや)、新保(にいほ)繁次(はんじ)氏(し)を訪(たづ)ねたことがあつた。新保(にいほ)氏は三十年(さんじゅうさんねん)来(こ)肺病(はいびやう)を病(やま)ふおの人(ひと)であつた。たから、その時(とき)もたしかどこかに軀地療養(きうちりやう)をしてゐたのである。先生(せんせい)は朝訪(あさほう)問(もん)して夕刻(ゆふこく)までおられたるが、例(れい)のとおり何(なん)もしべらない。お昼(ひる)の時刻(じふく)に宿(しゆく)の女中(にようぢゆう)が食事(しきじ)のメモを持(も)つてきたのをみて「ワシ(わし) (牛肉(ぎゅうにく))とい

は私の親(おや)く接(けつ)した文壇(ぶんだん)科(か)大学の最初(さいしよ)の学長(がくちやう)、三宅(みやけ)米吉(みやけ けいきち)先生の逸話(えきだ)を伝えよう。先生(せんせい)はまことに口数(くすう)の少ない人(ひと)であつた。しかし「夫(そ)の人の言(こと)は、言(こと)えは必ず中(なかつ)にあつることありてやかまじし教授(けうじゆ)会(かい)でも先生の一言(いちごん)一決(いつけつ)ま、なごが多(おほ)かつた。この先生(せんせい)はかつて教(し)えたりあり、また無(な)二の親友(しんゆう)であ

「忘言(わごん)の交(か)わり」といつたから、こんな「忘言(わごん)の交(か)わり」について述べてみよう。忘言(わごん)の交(か)わりとは自分の年(とし)が先方(せんぽう)の年(とし)より長(なが)じておるにかかわらず、年(とし)を忘れて先方(せんぽう)の人(ひと)と交(か)わることをいふ。後漢(ごかん)の時代(じだい)に孔子(こうし)の後裔(ごがい)といふ人(ひと)があつた。年(とし)はすでに五十(ごじゅう)にも達(いた)してゐたが、彌衡(やけい) (ひやう)といふ人の逸(えき)才(さい)なるを聞き、その人がまだ三十前後(さんじゅうぜんご)の弱冠(じやくかん)であつたにかかわらず、自分の年(とし)を打ち忘れて彌衡(やけい)と忘言(わごん)の交(か)わりを結(むす)んだといふのである。中国(ちゆうごく)では長幼(ちやうこう)序(しよ)ありといふて年の長幼(ちやうこう)が社(しゃ)会(かい)秩序(たつぎ)の上に大きな意味(いみ)をもつ。そのような社会(しやかい)であるからこそ、美談(びだん)としてこれらの話(はなし)が伝えられてゐるのである。(東京(とうきやう)教育(きやう)大学(だいがく)教授(けうじゆ)、諸(しよ)橋(はし)轍(てつ)次(じ)

善志十話 (二)

中国に留学していた時、古本を買い集めることに趣味をもっていた。当時、武内義雄君や、いまは亡くなった岡崎文君など競争してよい本を少しでも安く買い取ることを得意としていた。南京の古本



カ ッ ト ・ 岡 球 子

屋を訪ねると、かねて買いたいと思っていた五孔通考の原刻本があった。値はたしか四、五十銭ということであった。当時、われわれ仲間では、買いたいのがあったら、まず知らぬ振りをすることがよく、買いたくない顔をしていると本屋の方では正直の値をいってくる。自分の店がいく分も他の店より安いということとを隠すに遠い。その處に乘じてその本を買いとるのがコツだという極めて幼稚な策略があった。ところが、これは私が後から北京の老舗文堂の老主人から聞いたことであるが、われ

われの用いた幼稚な策略など、南京で右の書を見つけた私はいさう値を聞いたのち、知らぬ顔してその店を出た。ちょうど昼食の時間でもあったから、ある食堂にはいり、八宝飯を食べながらゆくり今後の書肆(し)との作戦を考えていた。フト食堂を出て、またもとの書肆に行こうと考えて南京大街を歩いていると、うしろから

南京大街の食い逃げ

14 Sept 1962

諸 橋 轍 次

「金をくれ」「金をくれ」という者がある。当時の中国には乞食(こじき)が多くて、人につきまとうことは常のことであつた。だから、いすれまたその種の乞食であつと、はじめのうちは気にもとめずにいながら、あまりいつまでも後を追うてくるので、ふりかえて見ると、何だか見なごとのあるやうな顔だ。そこで念を入れて聞いてみると、それは前の食堂のボーイであつて、私が料理代を払わずにきたことがわかつた。外国のしかも南京大街の真ん中で、アワヤ食ひ逃げの罪を問われようとした。そのボーイが寛大な人であつたからいいやうなもの、私としてはとんでもない侮辱を犯す失敗であつた。この先生がある時三葉病院に入院中の同僚、今井彦

三郎さんを見舞に行つたことがある。文藝まで行つたが、今井という名がどうしても思ひ出さな。病室を訪ねてみようにもその方法がない。さんさん苦心した結果、当時、阿人とも大東文化学院に勤めていたので、その学院に電話かけて「たんに三葉病院に入院している韓(へい)の長い国語の先生はだれだつたか」と問い合せ、やういふ名を聞いて病室を訪ねたといふことである。その話が学院の笑い草になつたが、そのころ私も学院に關係してゐたので、とても語りはやしたものである。ところが同じやうなことが私の身の上にも起つた。私は学校卒業後一年間、群馬の師範学校に奉職したことがある。その卒業生はまことに重厚というか篤実というか、五十年も経過した今日、なお年に一回ぐらゐ会を開いて招待してくれる。ありがたくもあり、うれしくもあるから、都合のできる限り出席して楽しむことにしていた。ある年の例の会に出席して通知していたが、突然行かれぬことが起きた。そこでお断りのため、その会員である講談社の橋本君を訪ねた。ところが、その時ちょうど前の話と同じやうに、橋本という名がどうしても思い出せない。色々苦心の結果、受付の女の子にたれかこの社の重役で群馬出身の人はないかと問うたが、知らぬという。では重役を撮影した写真はないか、見せてくれと頼んで、見せてもらった写真によつてようやく見当をつけ、これと指摘して、はじめて面会を遂げたことがある。どのみち物忘れの處で人の事など笑われた柄ではない。

(東京教育大名誉教授、橋本は筆者)

善志十話 (三)

昔々、五十年前も前に心理学の講義を聞いたことがある。その時、教えられたことは、忘却という現象は、脳の皮質から記憶の皺(しわ)が消えることで、これは人間進化のために大切なことだ。もし



カット・片岡球子

この忘却といふことがなければ、新しい知識のはいって来る余地がない。古い皺が消えなければ新しい皺ができようがないというような説であった。ちょうど今日のテープレコーダーを一度消してしまわねば新しい音を吹きこまれないのと同じような原理と聞きとられた。こんな説が今日でも通用しているものかどうか知らないが、私はそれを聞いた当

時から、今日まで「怪しい少年であった。毎日々々々の重なる殺人が出征軍人として花々しく送られて行。場所には村社の境内でそこには村長はじめの村の有力者が集まり、かわるがわるの言葉を送る。最後に送られる人があるにないつを述べる。ある時、その軍人の一人それはふん軍曹という階級の人であったと思ふが、告別の辞を送る。自分は昔から軍人の三忌といふことを聞いている。出征の命を受けたら家を忘れる、軍に臨んだら親を忘れる、いよいよ陣中鼓の音が盛んになったら身を忘れるという。自分もいまはその考へになつたと思ふ。悲しいこと、うらめ

(み)はそんな簡単なものではなかつたと思ふ。しかし、この説のうち、忘却は人間の進化のために大切な役割をするという意見には大賛成だ。どうせ凡夫のわれわれは、思い出さくない多くの経歴をもっている。悲しいこと、さびしいこと、うらめ

死期を忘れて庭掃除

諸 橋 徹 次

Sept 16 1962

少年であった。毎日々々々の重なる殺人が出征軍人として花々しく送られて行。場所には村社の境内でそこには村長はじめの村の有力者が集まり、かわるがわるの言葉を送る。最後に送られる人があるにないつを述べる。ある時、その軍人の一人それはふん軍曹という階級の人であったと思ふが、告別の辞を送る。自分は昔から軍人の三忌といふことを聞いている。出征の命を受けたら家を忘れる、軍に臨んだら親を忘れる、いよいよ陣中鼓の音が盛んになったら身を忘れるという。自分もいまはその考へになつたと思ふ。悲しいこと、うらめ

しいこと、ねたましいこと、痛ましいこと、すべてこれが亡霊のようにいつまでもわれわれから離れないとしたら、こんな苦しいことはないだろう。記憶は大切な、忘れることも大切な。それは、ちょうど人間は生きたいと思うのは本音が、ざりとて、いつまで経っても死なれないといつたら生きる以上の苦しみを感ずるのと同じような関係ではあるまいか。要は記憶すべきことは記憶し、忘るべきものは忘れればよいものと思ふ。

日清戦争の起こった時、私はまだ八つか、九つのはやだと答へた。古今の感だ。

(東京教育大名誉教授、題字は筆者)

：「珍書發見」の續篇：

日本布哇關係史話

東京 山下 草園

たので、大臣らの中には一
時も早くお待ち兼ねのカ
ラカウア王にこの由を申上
けては、取急ぐ人もあつた
然し明治天皇は深い御思慮
があつて、愈々さう御決
意の色は示されなかつた』
このようにして、明治維
新前後の功臣を集めた御前
會議の賛意も後に、明治天
皇の御裁定で謝絶となつた
のである

を發展せしめ、これによつ
てハワイの外來勢力を排し
所謂『バランス・オブ・パ
ワー』を實現する方策であ
つたさういふ根據がある、ま
た明治天皇がこれを斷られ
たのは『米國の勢力圏を犯
すようなことは好ましくな
い』さういふことが、主な理
由であつた、カラカウア王
は又日本人移民のハワイ渡
航許可について願われ、こ
の交渉に關連して井上外務
卿は日本に於けるハワイの
治外法權撤廢方を懸望した

〔六〕

カイウラニは
皇子を戀せず

カラカウア王の來朝は、
お忍びの姿で、侍從長C・
日・ジャッド、移民事務長
官W・N・アームストロン
グ（前記者者）及び從者ロ
バートを伴われたが、日本
では布哇總領事代理R・W
アーヴィンが報を受つた、
だので、國賓待遇で非常な
歓迎ぶりだつた、カ王を最
初に驚かし昂奮せしめた事
は、王の坐乗されたオシア
ニツク號が横濱港に入るミ

折柄、港中の英の二艦、露
の七艦、佛の一艦、日本の
三艦、十三隻が各々登陸禮
儀を施し、港内は砲煙につ
まされ、砲聲が轟き、野毛山
にこだまするさういふ壯嚴さ
であつた

それからまた、カ王が一
歩埠頭に上陸せられるミ、
日本の軍樂隊はハワイ國歌
『ハワイ・ボノイ』をりゆ
りようさ奏し始めたこと
來賓は再び昂奮せられた、
これは會てハワイに住んで

いた基督教信者の婦人が持
つていた樂譜で、前以て稽
古されたものであつた
さて話題は前に戻るが、
カイウラニ王女は、この婚
約の話が進められた時は僅
かに六歳で、一方山階宮は
十五歳であつた、カイウラ

ニの意志は全然確かめる由
もなく、カ王の意志で計畫
されたもので、日本訪問の
前後にこの計畫は皇妹のリ
リウオカラニにだけ打明け
られた形跡がある、リリウ
オカラニは兄王に希望も政
策も全く同調で、王位に即

かれて後一八九一年（明治
二十四年）三月九日に皇嗣
として英國留學中のカイウ
ラニ王女（一八八八年渡英）
を決定し、兄王の計畫を踏
まれた

一方山階宮はその後小松
宮となられ、明治二十六年
（一八九三）には東郷平八
郎大佐を艦長とする浪速艦
に士官候補生として坐乗し
てハワイに來航せられたが
當時カイウラニ王女は滯英
中で、勿論破談になつたこ
の兩者は一生相見ることば
なかつたのである

善志十話 (五)

莊子の中に彫陵の花園に遊んでいた夏の蟬（セミ）が木陰の美しさを楽しんでその身を忘れたという話が出てくる。ある時、莊子は彫陵という大邸宅のあるところへ遊歩に行つた。その時、弾（いしゆ）



カット・片岡 球子

み」といふもの、今日ならば鉄砲であらうが、それを持参して行つたのである。ところが運もよく大きな鵲（カササギ）がその園の中に飛び去るのを見た。元來この園は個人の私有地であるか、あるいは公共の遊園地であるかはわからぬが、とにかく無断ではいふことは禁ぜられていたのであるけれども、いま大きな鵲の飛び入つたのを見つけた莊子は、これを捕えたい一念、矢も楯（たて）もたてず鉄砲がつかいで園のかきこめて鵲のあとを追つた。

鳥と木に止まっている鵲は、何物かを見つめてはいふ。何を見つめていたのかと鳥の目の先をながめると、そこには小さな鵲（カマキリ）がカマを振り上げている。つまり鵲はそのカマキリを捕えようとならつてゐるのである。さうしたそのカマキリの様子を調べる、これは木の葉の陰に隠れている小さい鵲をねらつてゐるらしい。鵲だけは何も知らずに木陰の涼しさを楽しんで一切を

は、体（からだ）の大きなものと一大奮りを待たつつもりで歩いていくと、後から呼び声が聞こえてきた。「オオオ、そこにおるものはたれた。この園は無断ではいふことは禁ぜられてゐるのだぞ」という聲。備（つ）の人の注意であつた。つまり鵲や鵲の、身を忘れ形を忘れ真を忘れたことをあわれんだ莊子は、禁を犯してはならぬという身の分を忘れたといふのである。

昔、私は教生を引率してある小学校を参観したことがある。たしか一年生か二年生のかわいらしい児童の教室であつた。国語科の授業であつたが修身科の授業であつたか忘れたが、受持の教師は眞（まこと）大事業を成し遂げた嬌保（けうほ）（「はなはたはきい」）の話をしていた。その中で言がいかにか苦しいものか、いかに不自由なものかといふことを児童に実感させようとの意図であつた。児童に向かって「みな、目を閉じて。手であてて。らん。あけてはいけません」と注意せられた。児童は先生のいわれるとおりに目を閉じて、目に手をあてて「暗いよ、何も見えないよ」などとさわいていたが、そのうちにある児童が手を挙げて「先生、先生」といふ。「何であつた。」（東京教育大名教授、榎手は筆者）

彫陵の莊子

諸橋 轍

Sept 18 1962

忘れていた。その姿を見た莊子は、はじめて感じ、然として嘆息した。バカなものだ、鵲は自分の木陰を楽しむことは知つてゐるが、その身がいまにも鵲にやられることを忘れてゐる。鵲はまた鵲を捕えようとする欲念のために、その身がいまにも鵲に襲われようとするのを忘れてゐる。そのまた鵲はカマキリを襲おうとして夢中になつてゐるが、その身がいまにも私の鉄砲にやられようとする境遇を忘れてゐる。

「鵲は美陰を得てその身を忘れ、鵲はその形を忘れ、眞（まこと）は利を見てその眞（まこと）を忘る」世の中のこと

忘れた。その姿を見た莊子は、はじめて感じ、然として嘆息した。バカなものだ、鵲は自分の木陰を楽しむことは知つてゐるが、その身がいまにも鵲にやられることを忘れてゐる。鵲はまた鵲を捕えようとする欲念のために、その身がいまにも鵲に襲われようとするのを忘れてゐる。そのまた鵲はカマキリを襲おうとして夢中になつてゐるが、その身がいまにも私の鉄砲にやられようとする境遇を忘れてゐる。

「莊子はいつちも生死は一条の綱（なわ）といつてゐる。生きてゐる間、死んでからの先とが合して一つの網であり、それ全体が一つの人生だといふのである。この言葉は現象（げんさう）のみに執着する人の迷いを解く戒めとして、まことに必要である。」

ところが莊子はまた人が死を畏（おそ）れてゐるのはおろかなことだ。年若（わか）して家出したものは、ついに故郷（こきやう）に帰ることを忘れるが、彼らはまたその愚（おろ）かに等しい。「弱（よ）弱（よ）にして帰るを忘れてはならぬ」と言つてゐる。そして鵲（りき）の話を引いて、はしめは音（おと）の殿様（だんやう）（と）

（と）をきこつた鵲（りき）も、嫁（よめ）でからは王侯（わうこう）の生活の楽しさに喜んで、これならはもうと早く嫁（よめ）ばよかったと悟（さと）つたと同様、臨終（りんしやう）のきわまで死を厭（いと）（う）う人も、死んでみれば存外（ぞんがい）楽しいので、これならはもうと早く死ねばよかったと思（おも）うかもしれぬと、さんざん帰（かへ）ることを忘れるの愚（おろ）かさとしてゐる。ともあれ、莊子は一面には忘却（わく）の論者（ろんしや）であつた。

（東京教育大名教授、榎手は筆者）

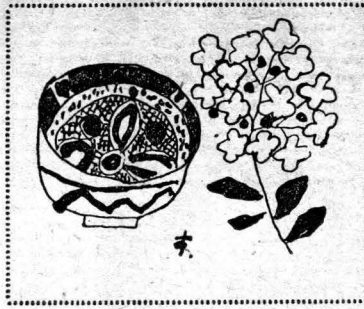
樂人十話

(九)

の二になったわけだ。

しかし、こうしたすばらしい科学の発達とは逆に、人間の心の問題は少しも進歩していない。現にようやく上陸したばかりの南極の所有権についても、各国間でちかちかいわれているのだから。実に人間というものは困ったものではないか。アメリカとソビエトの確執を中点として、あらゆる国が不安におびえている。どうしたら地上に平和が来るであろうか。どうしたら人間が深い安堵(どく)の息を吸えるる。

一日一日と地球は狭くなるばかり。私がヨーロッパに留学したころは、いちばん近江道を通って、東京からベルリンまでは十日ぐらいかかったもの



墓無用論

047
1962

山田耕作

時が来るであろうか、あるいはそういう時代は永久に来ないのではないであろうか。

それがいまはどうであろう。また開通はしていないが、東京、北京、ウランバートル、モスクワ、パリを、わずか十八時間で飛ぶ、というのだから大した速さだ。

いすれにしても、五十年で、十六日以上かかった道が、わずか十八時間で行くというのだから、地球は五十年前に比べると、大さうばにみて、十五分

人間は、たれでも、裸身のままで、この世の中に生まれてきたのだ。その生命が、たれから与えられたかも知れないで、そして親の愛によって成長し、教育を与えられ、社会人となって活躍し、ある者は富を得て幸福な生活を営み、ある者は失敗して悲惨な社会苦を味わい、ある者は社会の裏面に浮くひ上がれないような悲境に陥るばかりでなく、時には、してはならない罪をおかして社会を騒がすというような不幸な生涯を送ったりするが、そのいずれも、一度は死の門をへらなければならないのである。

列してカゼを引き、そのまき病天について死ぬ、というような悲惨な目に会う必要もなくなる。墓町の首相官邸で刺された大義経(たけなす)は、真疑(まぎ)のほどは明らかではないが、絶対に葬式には出なかったということだ。その理由としては「自分は生きていく人のために忙しく働いているのだ。死んだ人は切主(きりぬ)まかせにして、死んだ人の葬式に出く、カゼでも引いて死ぬことがオレの務めではない」そうはつきりいわれたそうだ。

この言葉をお手本にしたわけではないが、私も実は、恩人が親友の葬式以外には、絶対に出席しないことにしている。大きな寺で衆人環聚(しゆじんゑう)の中で、演技的なお焼香をするよりも、その日、その時、その人の手紙でも開いて、その人をしのび、静かにその人のめい福を祈る方がどれほどいいかしない。

人生をどうと、山の姿のあるまじに考えられぬものか。結婚という人生のサミットははてに、晴れやかにし、誕生と葬式は内輪(うちわ)だけの静かなものには、しえないものであろうか。もとより、社会のために貢献した、真に偉大な人物を祭る場合は別だ。それでも私としては一つ注意をうけた。

それは、この話のはじめの部分に、つながりを持つ。つまり五十年の間に科学の力は地球を十五分の一にしてしまった。そしてこの率は年ごとに倍々まわってくる。あるいはパリ、東京間を、一日で往復しうるときが来ないとは限らない。世界がこんなにも狭くなっているのに、一体墓場(むらば)というものを作る必要があるかといいたのである。

(作曲家、題手・カッポ 鈴木信太郎)



秋のリズム

—⑧—



スズメおどしのテープが揺れ渡ったコガネ色の稲穂も重くた

れ下がった。これも豊年。鎮守の森からは景気のよい、また、たいこの祭りばやしも聞こえてきた。全国では史上最高の収穫量といいい、広島県下でも二十七万二千五百トと平年作の五割増が見込まれている。

明治以来、一年ごとに反当たり収量は増え続けていまでは一

石(百五十鈴近く)の増収。江戸も低い。広島県も例外でない。時代の草肥料の時代から有機肥料が使われるようになってボツボツ、化学肥料でステップ、最近の農業、機械化時代でジャンプといふ。みどころは三段とびで豊作をもう豊作ならぬ平年作にしてしまった。これは苗しろ期の天候不順がちよっぴり気づかわれたがその後、成育は順風満帆、心配されたイモチなど病虫害も防除に成功し、二十日、二十日の厄日も無事。コメのなる木は豊作一路を進んだ。

進む農業・機械化 消えゆく牧歌情緒

豊作

農村に機械がはいった。農家は労働力と経済的ゆとりができレジャーを生んだ。農家の二男、三男はもとよりの長男までが同都離村の傾向が強くなった。お天気と農業は西日本から変わるという。中卒生の農料へ残る率は山県が最

(写真は豊作をうたうアゼ通を走る耕運機。広島市郊外)

(おわり)

広島県下にも農用トラクター、動力耕運機は一万台はいり、もう飽和状態だといふ。農耕も急ピッチに改良される。役用牛も年々減ってきた。将来ヘリコプターでタネまき、刈り取りは機械で、という時代も遠くない。苗しろ田にカエルが鳴き、一本足の力カシがスズメと蓋

な牧歌的情緒は年々失われてゆく。

大東京を築いた人びと

6月7日
1962

女の記事で出発す

この「新聞雑誌」の第一号（明治四年五月発行）の初発（しよっぱつ）の記事が女から始まっているのは、すぐる注目すべきことである。新聞というものは（今はラジオ、テレビなどもふくめて総じてマス・コミュニケーション）は、女に、そっぽを向かれては商売にならない。しかしジャーナリ

木村 毅

ジャーナリズム確立の先頭をきる東京日々新聞と報知新聞が発行されてから九十年になる。

ともいうべきもので、明治天皇が初めて牛乳をのみ、牛肉をめであったかというようにうかが

「二月中皇后の宮、東京城内吹上（うきあげ）の御苑に於て、みずから養をかいたまわんとこの御事に、上州岩鼻県に命ありて蚕桑に事なれたる女四人を差出すべき旨を仰せ下さる。三月月上旬に四人の女えらばれて出京し、御苑内に

ところが、折角、女の記事にしながら、個人の名前をかくてない。今ならすべし記者が断つて、出生地から年齢まで、細かにほしり出さねば承知しない。だが明治初年のジャーナリズムはそういうプライバイシは全くのぞいていない。漢文では、夫人は「何々氏の出」と生家の姓だけかいて、名はかかないのがしきたりになっており、わたしなどは物をしらべるのに、しばしばまごついたことがある。

上州女、宮廷に入る

その他は、いわゆる妻婦の高橋お伝や、夜風お衣（きぬ）や、鳥道お松のたぐいだ。封建は廃絶したばかり、世の中は下サクサの状態で、女は社会的存在としてナッシングにも等しいのだから、このほかには有名女性というものはな

すなわち後の両新聞は明治五年の創刊だが、その前年の明治四年（一八七二年）に「新聞雑誌」という、それこそ名前のとおり、新聞と雑誌のあいの子のような刊物が、木戸孝允の庇護によって刊行された。

ら、海外報道は世界最初の労働者政府として、マルクスやレーニンのはめたてているバリ・コミニ

ズムが「女性」の威力を発見したのは、二十世紀に近くなつてからのことだ。それなのに日本ではその三十年も前に、カンでさうり当てる。明治文化研究の大先輩の石井維新三傑で明治政府の大黒柱といわれた木戸孝允がスポンサーの刊



明治4年に発刊された「新聞雑誌」第1号＝新聞全集第6巻上から

「当春吹上御苑に於て皇后の宮へ蚕桑の業を教え奉りし四人の女ならびに取まりせし者共へ勲勞の御賞賜あり。左の品々下され、各故郷へ帰された。皆皆大に面目をほこすなるべし」

とここでことは、日本のほめての新聞の「官板バタビヤ新聞」が出てから百年にあたり、近代シ

て、これから取材しているのだ。している。

「二月中皇后の宮、東京城内吹上（うきあげ）の御苑に於て、みずから養をかいたまわんとこの御事に、上州岩鼻県に命ありて蚕桑に事なれたる女四人を差出すべき旨を仰せ下さる。三月月上旬に四人の女えらばれて出京し、御苑内に

「二月中皇后の宮、東京城内吹上（うきあげ）の御苑に於て、みずから養をかいたまわんとこの御事に、上州岩鼻県に命ありて蚕桑に事なれたる女四人を差出すべき旨を仰せ下さる。三月月上旬に四人の女えらばれて出京し、御苑内に

「二月中皇后の宮、東京城内吹上（うきあげ）の御苑に於て、みずから養をかいたまわんとこの御事に、上州岩鼻県に命ありて蚕桑に事なれたる女四人を差出すべき旨を仰せ下さる。三月月上旬に四人の女えらばれて出京し、御苑内に

「二月中皇后の宮、東京城内吹上（うきあげ）の御苑に於て、みずから養をかいたまわんとこの御事に、上州岩鼻県に命ありて蚕桑に事なれたる女四人を差出すべき旨を仰せ下さる。三月月上旬に四人の女えらばれて出京し、御苑内に

「二月中皇后の宮、東京城内吹上（うきあげ）の御苑に於て、みずから養をかいたまわんとこの御事に、上州岩鼻県に命ありて蚕桑に事なれたる女四人を差出すべき旨を仰せ下さる。三月月上旬に四人の女えらばれて出京し、御苑内に

善志十話

(一)

が、どなたでしたか」と尋ねた。問題はなかったのだ。が、つい問ひおぼれてしまったので、どうにもあてがまきまわらない。最後に宅の近くまで来たので、いよいよお別れした。思ったから「私はここで失礼しますが、お宅はどちらでしたか」と、いらぬことをいいたのが失敗のもと、その人はぐらぐら笑って「お隣ですよ」といわれたので、何ともしじつが合わなかった。

とり違えたこともあり、これはた一回の失敗ではあるが、羽織を間違えて帰ったこともある。はじめに付属中学に赴任したころ、元来がいなか出であり、ことに学校卒業後間もないので、よくネクタイを忘れたものだ。教室に入る前に同僚に注意せられたから、大した失敗はなかったが、とにかく余分のネクタイはいつも教官室に用意しておいた。ある時、電車に乗って腰かけていたら、私のすぐ前に三毛雪蘭嶺がツリ皮にさらさらさかかって立っている。そこで立って席を譲ったが、その時窓のガラスにうつった自分の姿を見ると、またネクタイがついて

私は元来記憶がよくないためか、物事を忘れることがまことに多い。記憶がわるいというよりは、あるいは不注意のために忘れるのが多いのかもしれない。つい先日にも図らざる失敗をした。朝早く散歩し



カッ ト ・ 片 岡 球 子

忘れた帽子は手にあった

諸 橋 轍 次

Sept 13 1962



ていると偶然傘で顔見知りの人に出会った。先方も「ニコニコ」していたから、もちろん私を知っていたに違いない。「おはよう」というあいさつだけで済めばよかったが、私の歩いていく方にその人も足を運ぶので、いつとはなし、天気のことや、自動車の多くなつたことなど、さしざわりのない話をすよぶようになった。しかし、どうしてもその人が、どこの人か、何という人か、思いたすことができなかった。最初に会って声かけられた時に、「失礼です

人はよく年をとると忘れっぽくなるというが、私はむしろ今より昔の方が忘れっぽかったように思ふ。人の顔を覚えることのへたなのは、いまの一例でもわかるとおりだが、歩いた道なども、後で考えて、てんで見当がつかない。たびたび行なこのある地点を人に聞かれて、地図を書いてやることもあるが、私の書いた地図で、よくわかったとお礼をいわれたことはほとんどない。たいていの場合、「あの地図は間違っていました」と、小言をいわれるのが関の山だ。身ににつけるものは以前はよくタをはいて会に出かけて、より遅延してきた。帽子を

パーが私のクツにはめられていた。先輩の先生「児島吉郎」という教授がある。ナシが好きな人だ。このところあるから、国に帰ったついでに新潟の名物「アリノコ」を持参して夜同家を訪ねた。それは確か小石川の久堅町であったと思う。門をはいって「ご免」というと、女中が出てきた。さう、そのナシを差し出して、先生に上げて下さい、諸橋ですがというところ、ちょっとお待ちを」といって奥に行った。しばらくして奥様が出てこられて、「失礼ですが、どなたでしたか」という。顔を見ればいつもの奥様のようだが、妙なことをいう人だ。いつも知っている顔にと思ひながら、児島先生はお出でになりませんかといふと、その奥様は笑いながら「アッ、児島さんならお隣ですよ」といって先に差し出したナシを返してきた。心の迷いがある

と知っている人の顔まで変わって見えるものだ。ある時用事があって新潟泊五郎先生を訪ねたことがある。要件も済んだので、お暇(いとま)すると、何なかあたまが寒い。フト気がついてみると頭に帽子がのってない。さてはまた忘れたかとあわてて、ものの玄関にひきかえすと、私を見送って下さった先生はまた玄関におられた。「何か忘れものしたのか」「イヤ、帽子を忘れまして」と申し上げると、先生は笑いながら「君、手に持っているじゃ。ないか」といわれた。平素物忘れをするという心のひけ目が、頭の寒いと感じた瞬間に、こんな軽鬆(こころ)の態度となつたものであつた。

善忘十話

(四)

物忘れの強い人は昔にも多かったものとみえる。



カッター・片岡 球子

年來連れてついていた妻を忘れたという話をした。その話を聞いた孔子は、いやそれどころではない。もっとよくなはたしたいものもある。夏の姪や殷（いん）の輔（さへ）う。王は自分の身を忘れれたと答えたといふよりぬ。

この夏の舞主といふ男は曲がった鉤（かぎ）かねをの
ばし、鉄をなわなつたといふから、よほどの力持ち
に違ひない。それが末喜といふ女に迷つてからは、民
の膏血（こうけつ）（うけけ）をしほつてせうたな三昧（まい）（ま
い）にふけり、肉の山（山）肺（はい）に人の林を作つ

て貴(せい)を一つした
酒の池には船を通らすこと
もでき、酒の糟(かす)で
作った堤の上に登れば十里
の遠きを見むとができた
といふ。そして二十か度
打つて懸れた同心を繋めれば、牛炊するもの三千
人がすぐさま集まつたといふから恐つしい。かくて
ついにわが身も殿の湯王に亡(は)のぼされた。
湯王は非常な聖人であつたが、紂王の時代になる
とこれがまたひどい男であつた。猛獸を手搏(てく)うち

楽しんで憂を忘れる

諸
橋
轍

次

Sept 17
1962

地獄の連行を案じていたのであつた。ところが凡夫の身は、たまふこれという悪事を働いた覚えはないにしても、な何とはなしに過去が悔まれ將來が案ぜられ、くよくよその日を送る。いわゆる「よしなさに威々(せきせき)たり」といふことがまめかされた。私、十年をとたら、そうなくぞん望みはもたないが、覺醒めの時もまた夢の中でも、せめて楽しんでもつて憂を忘れる心境にならうといふねがう。

孟子には物忘れの事実は伝えられていないが、流
車范「己」の「れを忘れ民を忘れ人を忘れ」た
話も多く伝えられている。齊の宣王は魯國という華
夏(中華)を招いて魯に王詣の禮を認めたが、孟
子はこれに對して「民の樂しみを樂しむ者は國を
またざる樂しみを樂しむ。民の樂えを變へる者は國
もまたざる樂えを變へる。樂しむにふさわしくて、
變へるにふさわしくないのは、必ず王詣を行なう
ことができ」と教えている。そしてその時、いま
諸侯は流連の樂しみにあつて民の言ひみを忘
れている。流れに従つて下りて反かえるのを忘
る、これを流といふ。流れに従つて上りて反か
える、これを連といふ。昔の明君は流の樂し
みにあつたから、あなちもまたの忘注意なら
ばかたうと墨子論(下)しているのだ。諸侯
違ひが王に於ては修徳の要諦として「何ぞその本反の
れ」になつてゐる。反と忘れの「反」は、い
はれわれにあらはれぬものなりといふ。

(東京教育大名譽教授、題字は筆者)

にした。ところが、無王にも劣らぬ腕力家であった。単に腕力がよければいいのではない。智恵にももつて膽か心を振ふせうに足り、言はもて自分の非行を飾るに足るといわれながら、悪知恵にかけて人も並みずべれた。この男がまた妬心だ。きくに心を感むられながら、暴虐も一層はなほしたく、妬心の腹をこたへ、燭槍ほうちくの刑を作したり、いさめる人があれば重人の心には七の穴があるといつて忠臣を殺したり、さんざんの悪事を働いたが、その結果おれがまじ間の武士になされるのである。身を忘れる人の身の行く末は恐ろしいもの

な。その時の孔子の言葉は、憤を発しては食を忘れ、樂しみてはもつて憂を忘」というのであつた。この語の中にあるように、いわゆる天縱の大才であつた孔子でも食を忘れるまでに憤発してはじめた大器を完成したものである。この言葉も結構だが、私がいままでにも増して強く心を引かれるのは後の句「樂しまつてもつて憂を忘」という一句である。自分に悪いことをした覚えもないとせば恐れも心配もないはずだ。孔子は内にえりみて疚（やまし）からずんばそれ何をか憂へ何をか懼むぞこれに教えている。事実、孔子はその境地に立つて夫

裏オアフ回顧(五)

五十年間の變遷

カネオヘ 若本義一

Oct 12 1962

『岩屋』と呼ぶ

別天地扱いにされて来たワイマナロの地形は、後は切り立つたようなコアラウ山の脈の山に圍まれ、前は海で砂糖もその他の荷物も全部小汽船を利用していた。住民の交通は只一本のヌアヌ・バリ道路で、カイルアのヤウナベリを經由する約三哩の谷間の細道、そこをワゴン(荷馬車)が週一回又は二回位ストアの商品を運搬していたが、その三哩の間に距離こそ短いがヌアヌ・バリ以上の急坂があつて而も泥道だから、大雨降時には馬車も通れない程の田舎であつた。

今でこそオアフ一周道路が出来て、どちらからでも行けるワイマロになつたが五十年前には、元來道路を引き返さねば通過できない行き詰まりの、本當の「別天地」であつた。昔は期限付きの條約の切れぬ内に、他耕地からワイマナロに逃げ込んで来る者が多かつたので、逃げ込むには屈強な所という意味か、その頃のワイマナロを「岩屋」と呼んでいた。重病入でもあれば戸板に乗せて数名の者が交代しながら療いで、ヌアヌ・バリの

長い坂道を越えてホノルルに出るといふ有様であつた。朝早くワイマナロを出発しても徒歩だから、ホノルルに着くのは晩方までかかる。この不便であつたのだが、こうした不便な片田舎であつたことは、今の若い住民には知る者はなし、想像もつかないだろうし、感慨が深い。

開發は道から

一九二二年にマカプウ燈台の下からワイマナロ・キヤンプまでの新道路が完成した。道路工事は繼續され、一九三二年にはホノルル市の東方ワイアラエ道路からココヘッドを經由してワイマナロの中心を通り、カイルア道路の交叉點に至るまでの新道路「カラニアナオ

レ・ハイウエー」が敷設され、世に出たワイマナロとなつて来た。この新道路はモカプウ岬に駐屯するカネオヘ海兵隊(マリン)基地に通ずる軍用道路として使用されている新道路の完成により、これまで片田舎であつたワイマナロも、交通の便もよくなりホーム・ステッドには多數の住宅も建ち、商店やレストランは元よりサービス・ステーションも開業している。農業地域にも澤山の立派な住宅が出来ている

が、特に農業は有望で農耕と共に地方一帯の大發展が約束されている。

日語校を待望

ワイマナロには公立小學校が一枚あり、ハイスクールはカイルア高校に通學となつていた。日本人間にはワイマナロ本願寺(本派)とワイマナロ日本語學校があつた。但しこれは戦前のことである。

ワイマナロ日本語學校は一九〇五年の創立で、當初は故安井開教使(安井美然氏の實兄)や宮地觀一氏らが教鞭をとつた。本願寺開教使が校長を兼ねたので、澤蓮城師、藤井惠壽峰師を経て最後に與那原良宣氏夫妻が學校に専念し、戦争勃發まで繼續されて来た。

戦争勃發と同時に與那原校長は抑留され、古い歴史を持つ學校は閉鎖となつた。戦後にはワイマナロ製糖會社も廢耕解散となり、元の住民も散りふとなつたので、本願寺も日本語學校も運命を共にして閉鎖のまゝ今日に至つてゐる。今では州政府の方針も變つて、府の土地を二・三エーカーに割つて農家にリースする事となつたので、日系人の人耕も段々殖えてゐる實情だから、將來は再びお寺も日本語學校も再開の日の来ることを信じ、その日を待望する次第である。

0410

想出でのまゝ

京都にて

牧野虎

次1962

【一】 ミス・スチーブン スの親切

桑港につくと直に汽車に
乗つて紐育に向つた。車内
で同席したシカゴの學校教
師ミス・スチーブンスの親
切は忘れられない。夫は後
日物語であるが連絡は、こ
こで述べておくのだ。私が
ニール大學入學劔々ローカ
ル・ニュースらん内に『マ
キノと云う學生が窃盜（五
十弗）の疑いで收監せられ
たとあるのを見つけ、驚い
て速達便で急送しようかと
尋ねて來た。私は即答、全
然誤聞だ。御心配無用と御
禮狀を差しあげたことであ
つた。

紐育につくと直ちに第五

街に美術商を営む山中商店
を訪ねた。夫は先輩村井貞
之助氏（後の村井銀行業務
擔當常務）が、私の爲に紹
介しておいてくださった爲
めである。山中K支店は
東洋美術専門店で、當時は
市内にある日本商店第一級
の立派な店で、その店員達
はいづれも身ごしらえも整
つて居た。私は元來、牧師
志願の爲めニール大學神學
校留學を志して渡米した
ので、貧乏牧師覺悟の上で
ある。それが斯かる立派な
ホワイト・カラー・ビジネ
スにかゝわつて居たら、夫
こそ廂を貸して母家を取
られる惧れがあるとて、即
坐にお断り申して引きさが
となつた。

（つづく）

想出でのまゝ

京都にて

牧野虎

次1962

【二】 初恋のホノルル 相賀ハワイ・タイムス社 長机下。

秋風吹きそめて今や東山
三十六峯は山紫水明の特色
を現わしつゝあります。常
夏（とこなつ）のハワイに
住われて居られる方々に、
貴誌を通じて遙かに敬意を
表し得るは私の感謝おく能
わざることあります。ホ
ノルル港は私の海外旅行の
最初の足跡地で、云はゞ初
戀の間柄とも申すべきであ
りましょう。夫は一八九九
年夏、六十三年前のこと

にお見知りを得たお蔭であ

で、同志社同窓の先輩奥村
多喜衛牧師を訪ね、生れて
始めてパシヨウの實（パナ
ナ）を味わい、レモンの香
をかいたことでした。その
レモンをめづらしがつて熊
々國許へ郵送したこと、今
の若人には珍聞でしょう。
私は最低旅費の切りつめ
た用意しかないのを知つ
て、熊本自由黨幹部の田中
賢道氏は契約移民輸送監督
と云う肩書をつけてくださ
つた。それは私は同志社卒
業（明治廿五年夏）劔々私
立熊本東亞學館教師在任中
にお見知りを得たお蔭であ

（つづく）

ります。
その船内（英船ベルジャ
ン・キング）で私は船長に
對し、日本の文化の進歩を
誇り「帽子や靴は全國に普
及している」と云へた。と
ころが船内見廻りの際、裸
のまゝ帽子をかぶり靴をは
いた人々を指しながら「君
の説は事實だ」と冷かさ
れて赤面せざるを得なか
つた。

Oct. 9 1962

配所

古屋翠溪
Oct 9 1962

美空抑留所

【25】

（百十九）
バラツクて快氣祝

病院から出ると、久しぶりのよい天気で、一面の雪へ太陽が輝きまぶしくて眼が開けられない、しかし氣持は上々で、元氣よくバラツクへ戻った。

みんなは相變らず喜んで迎えてくれた、しかし、氣兼ねや遠慮があるので、自分の家へ歸つたような氣樂さではない。

前の度にくらしたので、今度はメスホールへは行かずに、隣のベッドの更科眞里開教使が親切に言つて下さるので、それにあまえて更科さんをお願いして、食堂の歸りに持つて來ていた

だく。

他の親しい友達も、更科

さんが氣さくにやつて下さるので更科さんにまかせてしまつた形となつた。

私もそのまま更科さんの

好意を受けて續いてお願い

したが、寒い時ではあるし

誠に氣の毒ではあつた。更

科さんの厚意は今だに忘れ

られない思い出である。

同縣人の先輩であり親友

である三枝欽三氏が私の爲

に快氣祝いをして下さると

てチキンを買つて來て、す

きやきバーターを催し、ド

ミトリ・メート一同を招

待して、にぎやかに一夜を

楽しんだ。

三枝さんはキャンティン

つたから、特に私の退院を喜んで祝つてくださったのである。

次の週には、私自身で快氣祝いをして、皆さんに感謝の微意を表することにした。別にご馳走の材料とてはないが、チキンとビーアはあるので、尾崎澤さんがチーフ・コック格で、いろいろ世話をしてくれたので賑やかにバーターを催すことが出来た。

正月の催し

フルーに罹つた爲に、元日の催しに出席出来なかつたのは残念であつた。

松井さんや小幡さんも一度新聞へ書いたが、この催しはまことに大がかりで、

門松は山から大きな松の木を伐つて來て祝賀會場は勿論、メスホールの入口へ立

てて正月氣分を出した。

ここは所長を始め當局者が我々の境遇をよく理解し

て、まことに寛大であつた爲め、みんな娑婆つ氣を出して、大晦日には、餅を掲いたり、すしや煮しめ其他いろいろのご馳走をこしらえて、春バラツクに配給して、メスホールは二日間休みとなつた。

新年祝賀會場の正面には「八絃一字」と大書した額を掲げ、祭壇は紅白のんだらで飾られ賄氣がだだよつていた。

祝賀式は、村上實氏の司會で、先ず會衆一同で「君が代」を合唱し、佐伯市長の賀辭、松井書記長の祖國へ送るメツセージ朗讀、萬歳の音頭は市川潔氏の順序で威勢よく行われた。

祝賀會場へ隣バラツクの獨伊組の代表としてメーヤーほか役員二十餘名が、黒シヤツ揃いで物々しく乗込んで來て一同を喜ばせ、且つ景氣を添えたのは時宜を得たことであつた。

Oct 6 1962

Oct 6
配所
古屋翠溪
1962

美空抑留所

【24】

フルーで入院して
薬攻めに遇う

北國の冬もたけなわにな
つて、寒暖計は零度以下に
下る日が續いた。

ゴルフアーも魚釣もさす
がにへこたれて、バラツ
ク内に閉じ籠るほかなか
つた。

基打は碁を打つから少し
も退屈しないが、他の人達
はひまつぶしに朝から晩ま
で石磨きをやつていた。

そんなところへフルーが
流行してきた。外へ出て日
光に當ることもなく籠城し
ているので、フルー菌の奴

等がよい氣になつてのさば
り出し、忽ち六七人がやら
れた。

私も、捕えられて以來一
度も風邪をひかず意張つて
いたが遂々やられた。

同寮の人達の中で、先ず
當山さんと竹間さんが入院
した。他に寢込んでいるの
が繁本、出目、大川、尾崎

木村富次の諸氏である。
松井さんや小波津ドクト
ルの勧めで私も入院する。

生れて初めて病院のベッド
へ寝るのである。

十二月二十一日であるか
ら既に病院では立派なクリ
スマス・ツリーを飾つてい
たが楽しい氣分は起らな

つた。
室内の温度は調節してあ
るので工合がよろしい。看
護婦も親切で感じはよい
が、肺炎豫防の薬を、三時
間毎に吞ませる薬攻めには
閉口した。

病院の手當がよろしいの
で、四日の入院で、クリス
マス・イブに退院した。

自分の家へ退院ならとい
が、退院してもバラツクな
ので、アットホームの感
じは出ないが、同寮の人達

が喜んで迎えて下さるので
やつぱり嬉しい。

私が入院してから後に入
院した人もあるが、病室が
無くて入院出来ずに、バラ
ツクに寝ている人が七人も
おつた。

フルー流行の爲にクリス
マスの催しは何も無いが食
堂へ行つたら、ターキー其

他たいしたご馳走が出て、
キャンデーやナッツの配給
もあつて、みんなニコニコ
と喜んだ。

バラツク・メートの人達
が、寒風に當るのはよくな
いから食べ物を持つて来て
やると親切に言つて下さつ

たが、遠慮してメス・ホー
ルへ行つたのが悪かつたと
みえ、またぶちかえし、十
二月二十九日に再び入院
した。

終日高熱の爲に苦しむ。
こんな苦しさは生れて初め
てのことである。流行感冒

以外の大病ではあるまい
か、と氣を廻し、精神的に
も苦しむのであつた。

次の日は熱も百二度に下
り氣分もよくなる。イタリ

ア人の牧師が病院へ来て、
祭壇を造つて禮拜をするの
で、どうしたことかと思つ
たら、一月元日だからとの

ことであつた。

病中日月無しで、うつか
りしていたが、午後になつ
て、オーダーの小高とい

う人が、思いがけなくも、
雑煮、煮染、五目飯等を、
ダクタールの許可を得たと
言つて持つて来て下さつた。

熱も下つているし、珍ら
しいのと有難いのがいつし
よで實にうまかつた。

熱は無くなつたのに身體
の調子が逆も變で、何共云
えない氣分である。これは
薬攻めの爲であると、オー

ダリーも云うし自分でも
そう思われるので、薬は吞
む振りをして捨て、絶藥
する。

二日ほどすると、絶藥の
効があらわれて、氣分もよ
くなり食欲も盛んになつ

た、しかし鏡を見ると眼の
充血はとれず、目つきはま
だよくないが、ダクタールの
許可で十一日目に再び退院
した。

1962 ハワイの古跡指定に 調査・研究を行う

ハワイ州経済開発局は今春、クイン知事の要請に應じ、ジョージ・メーソン氏を委員長とする一委員会を組織して指定さるべきハワイの歴史的な古跡の調査研究を行つた。

その目的は州内の最も重要な古跡を選び、ハワイの歴史および文化を記念するためである。

古跡研究委員会にはハワイ旅客局、ビンショップ博物館、州公園局その他の政府機関の代表者や各島の代表者が委員に選ばれた。

研究委員会の提案諸項

同委員会は研究結果報告書をクイン知事へ提出したが、

古跡記念建設は、六カ年計画で、次の諸項を提案している。

一、公式なハワイ古跡記念法を行ない、これを州土地資源局、州公園部の管轄に置く。

二、顧問委員会を設置して古跡記念の標識、その他を作ることを援助する。

三、六カ年計画は州政府の大改善計画に呼應して行われるもので、年々七千五百萬ドル支出して毎年十カ所づつ古跡記念を設置する。

同研究委員会は歴史古跡として数カ所を提案しているが、その中にはオアフ島カイルアのウル・ボ・ニイアウ、カワイ島のワイルク川なども含まれている。

愛息の當選祈りつつ 三力谷マサ刀自急死



子供を十人、大學卒業させた賢母

皆さん：どうかパーシーを當選させて下さい：と訴えていた副知事候補パーシー三力谷氏の母堂三力谷マサ刀自（七十五歳、廣島縣佐伯郡五日市）が、けさ七時クアキニ病院で心臓マヒのため急死した。

三力谷刀自は、十人の子供をみんな大學を卒業させた賢母である：と去る土曜日サタデー・タイムスに大きく紹介されたばかりである。三力谷刀自は、本紙記者が訪問した時も

「年をとっているのに、あまり一生懸命パーシーのため応援したので、耳を悪くしました」と語っていたが、けさイキを引きたる時も「どうかパーシーが當選してくれるように」と祈願していたという。

（写真は三力谷刀自）

0410 1962 コロンビア大學から 角田氏に名譽博士號

目下東西センターヘンニアスカイラーとして招かれてゐるコロンビア大學教授角田柳作氏は去る六日コロンビア大學の新東洋部圖書館開館式に招かれた折、同大學から名譽文學博士號を授けられた。

角田博士は同大學の招待で去る九月廿七日コロンビア大學へ歸り、同大學アジア研究部の擴張に伴つてこの度オープンされたケント・ホルの献堂式の際、グレイソン・カーク總長から博士號證を授與された、カーク總長は同證書を授與するに當り

「角田博士は日本の歴史、文學、思想に關する一權威である、博士が東西兩文明の交流に貢献した所頗る大であり、全人類に奉仕した功績少からざるものがある。角田博士は偉く學者として永くコロンビア大學にその名を留めるであらう」と激賞した。

角田博士は一九二七年渡米して以來四十五カ年米國で生活し、コロンビア大學に招聘されて同大學に日本文庫を創設し、多數の専門的資料を日本から集め、現在書籍の数は五萬五千冊の多數に上つた。

角田博士は来る二十日頃歸布し、明春まで東西センターで研究に當ることになつてゐる。

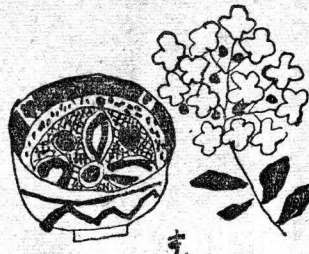
なお、角田博士は布哇タイムス紙編集長角田健作氏の嚴父である。

写真は去る六月來布した時の角田柳作博士

樂人十話

(六)

明治時代の音楽といえは、上野の音楽学校があったばかりで、他には何もなかったといえる。つまり官立の音楽学校一つが、その頃の日本楽壇の全部だったのだ。つまりめていさな、今日でいう「楽



私どもの上野にいたころは、それほどではなかったにしても、演奏会などというものはなかなか聞けなかったものだ。音楽会といえは、二年一回くらい開かれる宮内省の楽人を中心とする明治音楽会と、各国の大使館で、向こうの人々による演奏が一年に一度、あるかないかであった。それも特別のツテがなければ絶対に耳にするとはできなかった。

そのころ、横浜に英国の金持ちで、デヴィスとい

れざる客がえ、とつてい家の中へなどはいくことはできない。窓の外から演奏を遠く聞きするのである。寒い冬の夜などの苦心は、今の人々の思いも及ばぬことであつた。寒風にあふるながら二音をものささめきに聞き入るわれわれの顔はとてもあわれなものであつたらしい。それも前もって交響の巡査の了解をしておかないと、つまみ出されるので、そういう慮でもすいぶん苦労したものだ。

東京の演奏会といえは、神田美土代町のYMO Aホールや、神田橋側にあつた和強楽堂くらいが会場と、いって今ではかけも形もないが、和洋混交の演奏があつた。それも曲目は蘭曲や

明治時代の音楽

山田耕

Out 3
1962
作

壇」などというものはその頃の日本には存在していなかったのだ。

したがって音楽会といえは、春秋、同の母校の演奏会があつただけなのである。

もっとも幸田延子女史の時代には、上野で演奏会を開くとなると、だれも聴衆が来ないので、上野の山下まで学校の職員が出向いて、聴衆を勧誘したといふことだ。そして来てくれた聴衆には学校で、菓子包みを渡したといふのだ。今日の日本では全く考えられないことではある。

う人があつた。英国人としては珍しい音楽愛好家で、アマチュアとしては、なかなかいい腕を見せた。セロ奏者でもあつた。ときおりこの人の家でフライベート・コンサートが開かれるのであつたが、私どもとしては、これが最上級の音楽的馳走(ちそう)であつた。この人の独奏や、某夫人の独唱や、弦楽四重奏などを聞いて、私どもはとても興奮したものだ。そのころ東京から横浜へ行くのは汽車によるほかになかつたし、それも学生の身としては、なかなか安くはない汽車賃だったので、そのつど賃金の厄介にもなつた。そして、せっかく演奏を聞き、その人数を出かけても、私どもとしては招か

(さ)つまむや三曲合奏の間を縫って、提琴(バイオリン)の独奏やピアノの独奏がある程度だった。聴衆にしても上野の先生がスチージに出ると、会場の聲に手をついて、丁寧なおじぎをしたものだ。私が留学するちょっと前から、ようやく活気を見せはじめたといえ、現代の日本の楽壇の隆盛と比べると今、雲泥の差というよりは、ほんの少し、それも一切の演奏会は「慈善」という名目以外には絶対に許されなかったものだ。

私ども卒業する前から、弦楽四重奏の研究を多々賞を中心として続けてきたのだが、卒業と同時に、つその発表演奏をしようともくろんだ。そして会場

はYMO Aホールと決めたのだが「慈善」の目的以外は劇場以外には許可をしない、錦町署の署長がいいはるので、私は賞と渡り合つてその不合理をせめた。ついでには、君たちの主張に合致するものがあれば、許さうといふのだ。私は警察条例の集められた本を、ベジからページへと、二時間もおかかって調べた。ところが見物という部分に「演奏」という文句を見つけたのだ。これは「仮設観物」として許可することになっているので、つまりYMO Aホールは劇場ではないが、かりに設ける見物物として許可するのだ。私どもは、そういう逃げ道をたづね、日本最初の「慈善でない演奏会を開きたのである。そのころ私は上野の桜木町のある下宿屋にいた。私の室の向こう側には道路をへたてて道本憲吉と蘭蘭道君がいた。毎晩のようにマンドリンやギターの音が聞えた。私どもはすぐにはがきへ走り書きして向うへ通信すると、翌晩には先方から絵の走り書きにいろいろ書き添えた返事が舞い込むといふようになった。それとても楽しいものだった。私は学校には内証で、母校へ教員に行つたので、ちよとボエムの舞台に見られるような「ミシー」やロゼッタはいないにしても、ボヘミアンな生き生きした生活が続いたものだった。何しろそのころの上野は、あつたものだった。名は忘れたが何とかが、日本國の先生がいて、毎日牛にまたがって美術学校へ通つてきたものだ。かと思つと三浦環は自転車に乗せてそれを追い抜いては上野通いをしていた。一切が派手で晴々としていた。何か芸術的香気に満ちあふれてもいた。

(作曲家・題字・カット)鈴木信太郎

九十九歳の高齢で鏝鏢

カチマヤー宴を壽ぐ

Sept 25
1962

マノアの普久原ゴゼイさん

マノアのプハラ・ライズ三〇四七B請負師普久原朝榮氏の祖母、ゴゼイさんは今年九十九歳の高齢を迎えたが毎日ニコニコして大元氣で暮している、彼女は沖繩越來、北谷村の生れで一九五三年に呼び寄せられて來布したがハワイが好きで以來ズツと永住している、まだ眼もハツキリして縫物もするし、耳もよく聞こえる

ジョを樂しんでいる、琉球最後の國王、尙泰候の時代から今まで一沖繩では昔をトニー(唐の世代)ヤマトニー(大和ー日本ーの世代)アメリカ・ニュー(アメリカ・ニュー(アメリカの世代)というーを暮してきたこの老媼の話は實に興味津々で若い人たちが集まるとウチナーグチ(沖繩語)でとき々歌をまじえて面白く聞かしている



ゴゼイさんの子供は五人、孫は十九人、曾孫は六十七人で、曾孫の普久原朝治君に先日女兒が誕生したので曾々孫を見たわけである沖繩の風習では九十九歳にはカチマヤー(風車)の祝宴を催す、これは風にクルクル風車を遊んだ子供の時代に復活するという意味で『白壽』の祝いともいわれている、普久原家では來る十月七日(サンデー)晩に曹洞宗別院ホールで、この目出度い花のカチマヤー宴を催すことになった寫眞はいつもニコニコしている普久原ゴゼイさん

随想

た。このおきだいう人生五十年の背にあらえし

れたのに、年齢をかくしたの正月そり、髪をそめたり、不孝問なうさう、んて石を立てたりする。長寿

近頃、このひた男の平均年齢も過ぎたようである。

老人である。過去をふりかえして、風袋を引いても、はるかに何十年かかすんでいるの

しかし、子供で無我夢中で

う動定しなおしても知れたものである。

すこしたういまで、さう

でも老人はきものかな。山登りをしたって三合目よりは四合

代の二十いまで

目、四合目よりは五合目と、たんだん見晴らしがよくなり、木や草や石までが親しい友だちに昇ってくるではな

の風袋(ふた)を引くと、正味四十

いか。人事だ。微妙で複雑で、そのからへりがわかって面白くないか。

か五十いなものになる。少年時代、

若いものじ。まをしないで自分から引こんで、けつったのしい。富沢賢治ではないけれど、そんな老人に私はなりたいと、自ら修業中である。

学生時代は、蝶(ちやう)にたとえられ

た。四合目よりは五合目と、たんだん見晴らしがよくなり、木や草や石までが親しい友だちに昇ってくるではな

ば、いわは長虫の時

てはない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

代、一人歩きの時

てはない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

ではない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

てはない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

ではない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

てはない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

ではない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

てはない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

ではない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

てはない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

ではない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

てはない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

ではない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

てはない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

ではない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

てはない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

ではない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

てはない。何と蝶(ちやう)にたとえられ

1962

吉田小五郎



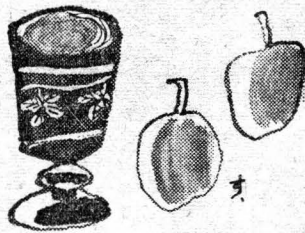
遠暦

(日本切支丹史研究家)

樂人十話

(四)

日本最初のオペラ上演といへば、ミウラ・タマキ（三浦環）からだといえよう。それは明治三十二年七月二十三日夜のことであった。上野の音楽学校の講堂。ケーベル博士といふ、そのころ東大で哲学を担



当していた人の伴奏を行なわれた。博士は専攻は哲学ではあったが、そのころ日本在住の外人團では草

感したピアノの名手でもあった。そのときから数えたら、かれこれ六十年にもなろうといふのに、以来いっこうに発展をみせぬわが國のオペラ界ではある。

もっともそのころの日本は、技術的にみればとても幼稚な楽壇ではあったが、求めるところ、とても真の日本であったのだ。ピアノでもうやべんなチ

ネ程度の方しかない楽壇ではありながら、気分的にはひとから、カフキと同型のオペラが発達しないという理由だ。これもケーベル博士のような人格者のいたそのころの東大だったので文学の面でも森鴎外や夏目漱石を生んだ時代的傾向ともいえる。やがて日本のオペラは帝國時代から淺草時代を経て、ローシエ氏や原信子氏の升屋橋際の帝國館時代となり、やがて藤原義江の活躍となり、このころでは、毎年のようにNHK主催の豪華なイタリヤン・オペラの上演により、はじめてオペラらしい空気に

オペラ談義

山田耕作

6月 1962

触れられるようになった日本のオペラ界だといふのに、しっかりと進展を見せないのは、一体どうしたところである。われわれ日本民族とオペラは無縁の間柄だといふのだろうか。いや私にはそうは思われない。

交響楽の方面ではすでに数々の作品もみられてい日本であるのに、オペラとなると、その作品の数も貧弱なものだ。

交響楽と日本とは、実のところ全く無縁だ、といえるのに、日本のオペラともいえる、カフキの演奏

とにかく日本の文壇に一人のホフマンスタールをえられぬことは残念でならない。これは恐らく私一人の懐（なつ）きではなく、日本の作曲界の願望でもある。

たしかに期会や藤原歌劇団の存在は、日本の楽壇にも、オペラ運動が展開されているという証左にはなるが、それ以上の力とはなっていない。

日本の作品としては、私の「黒船」団伊玖磨君の「夕鶴」清水脩君の「修禪寺物語」などの作品はある。しかしそれに続く作品は見当たらない。NHKも創作オペラの制作にはある程度の熱意はみせてはいるが、日本のオペラを浮き上らせる力とはなっていない。それは前にも述べたように、真のオペラ台本を創作する作家の誕生をみないことが主たる原因となっている。もし日本には、オペラのようなものは不必要だと断定しうる理由ともいふべきものがあるならば、何とか研究しなければならぬ問題ではあるまいか。

オペラ台本の素材はあり余るほどある日本である。またすぐれた詩もある日本である。それには日本の音楽家たちも、邦語歌詞をもっと美しく、正しく発音するための努力をも惜しんではいられない。もしいいオペラの台本が得られれば、日本の作曲界は欣然として作曲の筆を進めるに違いない。ようやく上野にもオペラ部が設けられると仄聞（うわさ）さへして喜んでいる。どうか音楽の面ばかりでなく、声楽の世界にも、いさ少しく熱雨がそそがれるよう、そしてこの國がこの面でもうばに成長するよう、切に希念してやまない。

（作曲家、歌手・カフキ・鈴木信太郎）

042 配所
1962



【百十七】

美空抑留所

組育本因坊其他の人々

或日、折田亥作君と碁を打っていたら、宗我部幸君がやつて来て、『僕のバラックにニューヨーク本因坊と呼ばれている碁の強い人がいるが、君ひとつ来て打つて見ないかねというので、『どのくらい打つ人かね』と聞いてみたら、『僕は死活が解る程度の碁打だから、實力は分らないが相當打つらしいよ、バラックに五六人打手がいるが其中では一番強いので、本人もニューヨーク本因坊と自認していて仲々天狗だよ。』とにかく来て打つて見給え』と、しきりに勧めるので行つてみた。

先づ握りで、私が黒番になった。其頃の私の棋力は七級であつたから、先では逆も勝てまいと思つたが、とにかく黒で打つた。

ところが先方は案外弱くて、中押で私が勝つた。次には私が白で打つたが、これまた先方が投げて、私の勝であつた。それでも、本

因坊殿は自信たつぷりで、もう一番と挑戦するのであつた。

ニューヨークには、日本の會社員などで相當強い人が居る筈だ、私の知つてい

る人でも、コロンビア大學の角田柳作先生などは初段級であるから、他にも有段の人が居るにちがいない

が、この人はコックであるから、そのグループの本因坊であろう。

この人のグループは、殆んどコックやウエターで、何十年の間、日本とも音信を斷つてゐる人達である。

従つて、其氣風も一般人とは大分變つてゐる。

アメリカゴロというほど質の悪い人達ではないらしいが……、氣の向くままに轉々とさすらいの生活を續けた人達である。

この人達は、日本のスパイの嫌疑が懸つて抑留されてたものらしいといわれている。

こういう人達の生息に就いては、以前、吉田信二畫伯が、ラジオで、委しく興味深く、連續して話したこ

とがあるので、記憶している人も多いと思う。

こうした人達が、ニューヨーク、ボストン、アラスカ等から十七八名抑留されたが、その共通點は、全部が獨身で、年齢も略同じくらいで、平均五十六歳見當である。

そのうち、約半数は正當の旅券を持つて入國したので無く、ニューヨークやヒラデルヒア、ボストンあたりで脱船した人々であるとのことだ。

これらの人々は、終戦の際、母國へ歸還したかどうか、其後の消息は知る由もないが、奇しき運命の人達ではある。

訂正

この配所轉々の『九十八』美空抑留所の『四』の項で日布時事の小幡君が大きなサツカーの脊髄へ釣針をひつかけて、大騒動をしたと書いたが、小幡君の話によるとあれは小幡君ではなくて、同じ日布時事社員ではあつたが、加些支局長の井芹虎雄氏であつたとのことだからこゝに訂正する。

29 配所 古屋翠溪

【百十六】

美空抑留所

【22】

メキシコ人と思われる

寒くなると、冬帽子とか手袋とかいった物の特別注文が多いので、私はミゾラ・マーキヤン・マイルへ度々行った。

一日、顔馴染になった美しい白人の女店員としばらく話したことがある。その時「あなたはメキシコ人ですか」と聞かれたのは意外であつた。

メキシコ人が日本人に似ているとは豫て聞いてはいたが、私は見たことがないので、馬鹿にされたとも思わないが、尊敬されたような気はしなかつた。

「私は日本人です」と言つたら、彼女はビツクリしたような顔をして今更のよう私の顔を上げしげ見るのであつた。

真珠灣爆撃のことはアメリカの津々浦々迄知れ渡つていたが、日本人が何百人

もミゾラに抑留されていることは彼女たちは知らなかつたのだ。

ミゾラには戦争が始まつて以來何百人もの日本人が出入りしたが、新聞にも出ないので誰も知らないのである。

「どうして私をメキシコ人としたのですか」と聞いてみたら「日本人がこんな所に居る筈はないからメキシコ人と思ひました」との答えである。

「メキシコ人がこの邊に住んでいるのですか」と聞いて「この邊には一人も住んでいませんが、季節労働者として毎年入り込んで来ます」と言うのであつた。私はちよつと侮辱されたような気がして不愉快になつたことである。

キャンブへ歸つてからメキシコから來ている笠島初太郎という人に、メキシコ人のことを聞いてみたら、メキシコの大多数は殆んど無學で、怠惰で、インデ

アンのような性格を持つてゐるとのことだ。だから、國は豊富な資源を持つてゐるにもかかわらず、發展しないのである。という話であつた。

ミゾラ・マーキヤン・マイルの美人店員が、初めメキシコ人と思つた男が、豈圖らんや、ボールハバーを爆撃して何千人の米國海軍を戦死せしめた日本國の國民と聞いて驚いたのもどうりである。

私は、驚いている美人店員に「私は軍人ではないが戦争になつた十二月七日の午後四時に拘引され、妻や米國市民である五人の子供をハワイのホノルルに残して遠い大陸の茲に抑留されているのだ」と話したら、敵愾心を持つた様子もなく「それはお氣の毒ですねーしかし國と國の戦争ですから仕方がありませんわ」とアメリカ娘らしくあつさり言うのであつた。

それから後は、この美人店員と心易くなつて、この娘さんが、他のデパートメントへ迄案内して便利をはかつてくれるので、ミゾラ・マーキヤン・マイルへ行くのが楽しみであつた。

インタ ロジャース司令官消息 宮本ドクターから報告

寄書

一九四一年十二月七日、真珠湾爆撃直後、監禁された日系人中百七十餘名が二月廿一日グラウンドにて米大陸に護送され三月十日ウイスコンシン州キヤンプ・マコイに到着した同キヤンプに七十餘日過したが、當時我々の司令官として濃厚で理解あるアイヴン・ロジャース少佐はインタニースの印象に残る實に立派な軍人であつた

われわれが戦争突發の日からサンドアイランドに監禁され、渡米まで約二カ月半在所中當時司令格のアイフラー大尉は、軍人捕虜とシビリアン・インタニースの區別さえ御存知なく、われわれに惨酷極まる非人道的待遇を與えたことはサンドアイランドに監禁された人々のみが知る事實であつた、その生々しい傷手と記憶を持ち數千哩離れたキヤンプマコイでロジャース少佐の如き眞に米國人の典型的

人格者を司令官として迎えた時は、諺にある地獄で佛に會つた心境でわれわれは異句同音に感謝し當局と協力した
終戦後同司令官の消息が判明せず何時もインタニースの間に噂になつていたが、當時最も昵懇の間柄であつた宮本一男ドクターは米大陸の友人知己にその消息を探していたところ、漸く判明し現在オクラハマ州ムールドラウにて健在である旨ロジャース氏より前週宮本ドクター宛ウイスニンシン時代より戦時中及び終戦後の動靜につき詳報が達した由である

その一節に終戦まで日本軍人捕虜の世話と歸國まで斡旋し更に支那に派遣されウイDMAIA將軍麾下でマンヤール元帥の命により中共と蔣介石の和睦運動にも參與、更に東京に進駐しマクアサー元帥の情報部に勤務後キヤンプオーツに歸還し大佐で退役し現代は先代よりの農園を経営し悠々自適な退生活を送り健在の由また東京在勤中、捕虜第一號の舊巻中尉とは一週間ホテルの同室ですこし九州からワザ／＼松江中佐も上京この他澤山の人々と再會しウイスコンシン時代の回顧談に花を咲かしたと附記されていた
(小幡記)

裏オアフ回顧

五十年間の變遷

カネオヘ 若本義一

ワイマナロ

何時の時代にも榮枯盛衰はあるもので、ワイマナロ砂糖耕地にもそれが來た。

一九三五・六年頃から陸軍のペロース飛行場が設置されて、製糖場の高い煙突は二十五呎も切り取られた。飛行の障害になるからであるが、その上に黍畑の一部も飛行場用として收用されたのである。

黍の耕作面積は減るし、終戦後は労働賃金の上騰など原因して收支償わす、遂にワイアナエ耕地と同じく廢耕の止むなきに至つた。

かつてワイマナロ耕地は一九四七年を以て、六十八年間の製糖産業の幕を閉じたのである。

閉耕當時は多數の労働者も一時不安を感じていたが、ワイマナロ農業開發會社という會社が設立され、全耕地と建物のリース權を買収して住宅も希望者に分譲し、黍耕地は農家にサブリースする事になつた。

ワイマナロの總面積は約七千エーカーと云われているが、其の殆んどは州政府（當時は縣政府）の所有地である。ホーム・ステッドと

ペロース飛行場（軍用）及び山岳地帯を除き、現在開發されている土地は約三千エーカー以内である。

閉耕當時、縣政府とのリース期間は六十年残つていたのであるが一九五三年、時の縣知事サムエル・キング氏により、元からの農業家、養鶏及び養豚業者に限り土地を分け賣する事になり、カイルア、カネオヘ又はホルル方面から多數の事業家が土地を購入して移住して來て、今までの黍畑は野菜畑や養鶏場、養豚場等に變つて來たのであつた。

二世の活躍

人は八、九英畝から小は一英畝位に切り賣りされ、支拂いも向う二十五年間の長期、但し立派な住宅を建てる事という好條件であつた

その後、政府の方針が變つて分賣は中止となつた。農家發展のためには惜しい機会を失つた譯である。

然しながら此處で最も力強く感ずることは、分賣された土地約五百エーカーの中、四百エーカーは日系人が買収しており、而も一世は僅か第二世の青年事業家たちが新しい知識と抱負で、活躍してゐることである。人別すると小養鶏業が約二十軒、養豚業約十軒、花作業（主としてアントリアム）約十軒、その他パイア及び野菜となつて現在に至つてゐる。

これら永代地の外に、多數の日系人や比島人その他の農家が、リース地で各種の農産業や搾乳場などを經營している者もある。

カイルア及びカネオヘ地方

が道路改善の結果、住宅地帯として及びビジネス區域として異常な發展を來したために、この中地方の農作地が激減したので、ワイマナロはオアフ島における唯一の農作地となつた。觀があり、一カ年の各種農産物は

大した額に上ると云うことである。

面貌を一新したワイマナロはまだ開拓の餘地があるので、各種農業の耕作地帯として伸び行くものと有望視されている。

作家・森鷗外
生誕100年



近代小説最高の『雁』

軍医で活躍、陸軍総監に

Sept 25
1962

こころは、明治時代の有名な作家・森鷗外が生まれてからちょうど百年になります。それを記念して、このほど東京文京区に、『鷗外記念図書館』ができ、たくさんの方がおとすれています。そこできょうは、この有名な森鷗外がどのような作品をかき、どんな一生をおくったかを伝えましょう。

森鷗外が生まれたところは、石見国（今福井県）二ツ目の島根県です。家は代々医者で、その地方では名のある一家でした。本名は森林太郎で、四歳のころには、すでにむかしい漢語やドイツ語、オランダ語で、

文の本を読む勉強をしていたのです。七歳のときには、医者で、あつた父（森静男）から、オランダ語を習い、東京に移った十一年のときには、ドイツ語も通じたのです。学校も、いまの大学にも通学しています。

父の作品を紹介したり、訳詩集の「おもかげ」は、そのころの「雁」をはじめ「青年」という小説などをつきと書きました。小説だけでなく、劇のための戯曲も書き、文学のあらゆる方面で活躍したのです。

鷗外の最初の小説は、そのあくる年、一八九〇年にでました。その作品は、だれにも知られていない「舞姫」という作品で、作家としてのとき世に認められたのです。三十一歳のときには、アンデルセンの「即興詩人」を訳して、鷗外の名は高まりました。ヨーロッパの文学を、みごと日本に合ったままとめたこの作品は、原作よりすぐれている、とうわさされたほど、みごとな作品だった品です。

父の作品を紹介したり、訳詩集の「おもかげ」は、そのころの「雁」をはじめ「青年」という小説などをつきと書きました。小説だけでなく、劇のための戯曲も書き、文学のあらゆる方面で活躍したのです。

鷗外が生まれたところ、石見国（今福井県）二ツ目の島根県です。家は代々医者で、その地方では名のある一家でした。本名は森林太郎で、四歳のころには、すでにむかしい漢語やドイツ語、オランダ語で、

早くからヨーロッパの知識をえていたこころは、明治時代のよい文化人として活躍した鷗外を理解するうえで、忘れることはできないことです。

父の作品を紹介したり、訳詩集の「おもかげ」は、そのころの「雁」をはじめ「青年」という小説などをつきと書きました。小説だけでなく、劇のための戯曲も書き、文学のあらゆる方面で活躍したのです。

鷗外が生まれたところ、石見国（今福井県）二ツ目の島根県です。家は代々医者で、その地方では名のある一家でした。本名は森林太郎で、四歳のころには、すでにむかしい漢語やドイツ語、オランダ語で、

早くからヨーロッパの知識をえていたこころは、明治時代のよい文化人として活躍した鷗外を理解するうえで、忘れることはできないことです。

父の作品を紹介したり、訳詩集の「おもかげ」は、そのころの「雁」をはじめ「青年」という小説などをつきと書きました。小説だけでなく、劇のための戯曲も書き、文学のあらゆる方面で活躍したのです。

鷗外が生まれたところ、石見国（今福井県）二ツ目の島根県です。家は代々医者で、その地方では名のある一家でした。本名は森林太郎で、四歳のころには、すでにむかしい漢語やドイツ語、オランダ語で、

在米日系人の歴史

July 市民社はキン然と後援

「ニューヨーク八日發共同」

在米日系人の一世紀に亘

る「苦難と栄光」の歴史を
まとめて出版するという画

期的な計画が進められてい
る。

日系市民の団体である、
全米市民協会と、カリフォル
ニア州立大学（ロスアン
ゼルス）の共同事業で、経
費三十萬ドル、四、五年を
有する大掛りなもの。

日系人の歴史に関する体
系的著作は、これ迄皆無と
いう事情から、今度の研究
には各方面から大きな期待
が寄せられている。

一八六〇年に日米修交条

約が結ばれてから既に百年
今では米大陸に住む日本人

移民（一世）とその子孫

（二、三世）の総数は約二

十五万人に及んでいる。

これら日系人は、他国か

らの移民に比べると、数こ

そ少いものゝ産業面、文化

面等で、米国に大きな貢献

をして来たが、その物語が

充分に伝えられた事は今迄

になかった。

この状態を是正しようと

決意した、全米市民協会は

二年前に全国實行委員会を

組織し、日系人史出版の構

想を練つて来た。

そこえカリフォルニア大

学も「この計画には学問的

価値がある」と関心を示し

た為、両者が共同事業とし

て進める事に話がまとまつ

た。總經費の内二十萬ドル

は、ロックフェラー、フォ

ードなど有名財団の援助に

頼り残り十萬ドルは全米各

地の日系人社会の間で募集

するが、七月中には目標額

を達成、秋には細かい予算

を組んで、本格的な研究がス

タートする予定である。

研究の陣頭指揮は、ボス

トン大学教授のスコット・

宮川博士とカルフォルニア

大学の歴史学教授一人（未

定）が執る事になつてゐる

宮川博士は、既に研究の

骨組みを作る作業に没頭し

ている。

関係者の狙いは、この著

作が客観的な学問的方法で

貫かれ、在米日系人の歴史

の決定版となる事にある。

附記 我が市民社は欣然と

モラルサポートをすること

になつた。

川柳ウイロー社

カワイ支部の發足

Feb 27 1962



カワイ島の川柳人、上田紅溪氏から築山快夢起氏あてに、「川柳ウイロー社カワイ支部」の發足した嬉しい來狀があつたので、前週廿三日夜、割烹「やまと」で開いたウイロー社二月句會の席上で築山氏から報告があつた。

七名で、席題の「台所」と「達筆」に取り組んで互選を行い、更に今後を協議し川柳ゲームなどに興じ十一時頃に散會したが第一回の集まりとしての意義ふかい句會だつたさうである。尙この報告を受けたウイロー社一同は同好趣味人の支部發足を大いに喜び、加咭支部の三月課題「とら」と「スタート」を作句して應援の意味で送ることを申合せた。

多久志氏の鄭重な禮狀

日本川柳界の大家、大阪の麻生路郎氏主宰の「川柳雜誌社」同人の幹部の一人である川柳人で、尼崎自動車株式會社事務取締役若本多久志氏が視察觀光の實業團一行と共に來布したので去る一月廿六日料亭夏の家においてウイロー社新年句會を兼て若本氏歡迎會を催したのに對し左の禮狀が來た。

りません。殊に夏の家の句會は略同じ年輩の方々であつたせいもあるうか、國を異なれ同じ血の流れた、而も同じ趣味に生きる人々として心あたたまふ思いがしましたお心盡しの數々、只々感謝の外ありません。大阪の三月句會にはフィルムやスライドを公開してつたない話ですが、會員にハワイのいろ／＼を説明するつもりです。どうか今後とも川柳を通じて永らく交宜を賜わります様お願い申し上げます。と共は在布中の御歡待に厚く／＼お禮申し上げます。どうぞ皆様によろしくお伝え下さいますようお願い申し上げます。

人種差別

人種差別

「欧州は英國でせよ、
こゝほどの人種差別はありま
せんよ」ユダヤ人の記者が
語った。筆者がワシントンに
いた時のことか、ミシシッ
ピの黒人差別問題の記事を
見ると、そんな古い話と思ひ
出す。

こゝなく差別を感じた時があ
るぞうだ。たとえば自動車事
故の時、その場にいた警察官
さへが、見なかつたといつて
証人になつてくれなかつたとい
ふ。こうして異人種の集ま
るところには、差別とまでは
いわずとも、ある種の感情が
起くるのを避けられないのが、
人間の弱さらしい。

「英國」をさへも、と、その
記者がいったのは、歐洲では、以上、人種の偏見は人情の常
英國人が一番人種
差別をするという
ことなうから、
ヒトラーのよう
な人間は別と
いふ。
「憂々帳」
1962
が長い間をそいで
きた人種差別撤廃
の努力を、筆者は

て、概してアングロサクソンには人種差別の傾向が強いといふこともかもしれない。パリでは、黒い男が白い女を伴よく腕を組んで歩いているのを見かけながら、大陸の方が人種差別がないのだというし、事実、筆者はその問題でそう不愉快な目にあつたこともなかつた。

しかし、パリに暮つた外交官にいわせると、やはりとても非常に感心・評価しているが、こんどのような事件が起こつたといふと、米国の風土は固陋の本部をおくに過ぎないとも考へたくなる。やはりスウェーデンの方がよかつたと思はれた。いたためには、米国民のよほは自分の義務が要する。もっとも日本人の過去の実績をみても、あまり米国人を非難する資格もなかつたが。

(6)

ガム禍

職員が鉄鎧のヘラのようなもので、入念に歩廊のガムを二つずつはがしているのを見た。

友人は映画館のイスについているのを知らずにすわり、そして普通化しこのガムなるボーンにガムがついて困ったとこぼしていた。要するにガムをかんぐるとだアトの始末が全然なされていらないのである。ガムの

占領軍の落し子の子の二つと

もの効用が、どんなところにあるの知らない

か、あれをかんぐていれば、せいせい歯がきれいになるとか、アゴの骨の運動にな

包紙には「カス」は「カス」の紙に包んで捨て下さい」と書いてある。ところが、ガム愛用者で、これを守っている人がまゝたくなひではないかと思つた。

列車やバスのなか、駅、映画館、公衆便所など、いたるところにガムのカスがはき捨てである。最近、旅行先のある駅の地下街で、一人の国鉄

の程度のことだ。むしろ被害の方が大きいようだ。

とすれば、愛用者によるマナーが守られないかぎり、はなからガムの製造を禁止して、いかにしろ、ガム愛用者はどんなものか。それができないなら、ガム愛用者は、はき捨てをこれに入れるよう法律でも強制するしかあるまい。

(一)

八方美人

英國のE・E・C参加問題を論議した英連邦首相会議で、マクミラン英首相に対する風当たりはすいぶん強かった。E・E・C参加には、英連邦だけでなく、保守党内にもとより労働党にも労働組合にも、強く反対する勢力があることは周知の事実である。

を避けるこのめにきうきうとするのが低姿勢ならいつも低姿勢でいることは、政治しないのと同じである。それとも、池田さんは幸福にも選択し決断しなければならぬほどの大問題に、これまでよくからなかつたとい

マクミランは、これほど反対を承知のうえで、なおかつ愛国心から、EEO参加を決意し

たのだから、もちろん彼はこの問題に政治生命をかけているので、その勇断のほどには全く敬服する。「政治は選挙」とマヤデスフランスはいったが、一つの政策を選び出し、その実現にまい進するが政治家の信念といふものだろう。

日本の政治家はこうだろうか。池田さんは低姿勢で有名

韓国の朴議長は、日韓交渉では一部の非難も寛宥するとはいったが、一つの政策を選べば反対や敵が出てくるのは当然だ。八方美人では政治はできないのである。

池田さん。低姿勢も度が過ぎると八方美人になります。そうなれば、低姿勢は正姿勢などとはいえませんね。

(○)

無目的の友情

長い間あったこともなければ、手紙一本もこない友人が、めずらしく電話をかけてくる。なにかと思つたらムスコの就職についての頼みである。私とどんな会社にいるかを知らないはずだが、学校の同窓会名簿でも見てわかったらどう。やは

り、あなたは全くハ帳ヲ争のほけしいこの音さたない友人が、突然面会にや

りなで思ひ出話をしているうちに、実はこんなとういう本を書いたので、紹介や宣伝について、なにぶん援助をしてほしいという。彼にとつて思ひ出話なんかどうでもいいらしい。あるいは、忘れていた友人が、長い手紙をよこす。はじめの半分は学生時代の回顧だが、後段になると、ある旨に商売のこと

で運動をしたいのだが、だれかしかるべき人間を紹介してくれないか、というわけである。学生時代や若いころからの友人はいひもた。少々ムリなことも気軽に頼める。持つべきものは友である。困った時に助けるのが本ものの友情という理屈もよくわかる。また、生存競争のほけしいこの音さたない友人が、突然面会にや

りなで思ひ出話をしているうちに、実はこんなとういう本を書いたので、紹介や宣伝について、なにぶん援助をしてほしいという。彼にとつて思ひ出話なんかどうでもいいらしい。あるいは、忘れていた友人が、長い手紙をよこす。はじめの半分は学生時代の回顧だが、後段になると、ある旨に商売のこと

で運動をしたいのだが、だれかしかるべき人間を紹介してくれないか、というわけである。学生時代や若いころからの友人はいひもた。少々ムリなことも気軽に頼める。持つべきものは友である。困った時に助けるのが本ものの友情という理屈もよくわかる。また、生存競争のほけしいこの音さたない友人が、突然面会にや

りなで思ひ出話をしているうちに、実はこんなとういう本を書いたので、紹介や宣伝について、なにぶん援助をしてほしいという。彼にとつて思ひ出話なんかどうでもいいらしい。あるいは、忘れていた友人が、長い手紙をよこす。はじめの半分は学生時代の回顧だが、後段になると、ある旨に商売のこと

(F)

ベッド談義

ではベッドのおシリの下になる部分のバネを強くして、へこまないようにしている。ベッドはわれわれがその上で一生の三分の一を過ごすところなのに、わが国ではベッドの歴史がみじかいせいか、研究があまりされていないようだ。

ベッドでいちばんたいじなのは寝心地ではなくて、疲労をまじけるときは、ベッドがだんだんタタミの上になれるフトンに近づいてきていくことになる。

われわれの先輩たちがあみ出したタタミが、これまでの日本のベッドミとフutonはこの点なかなか合理的で、あながちすてまられていた感がある。

ふわふわなベッドは気持ちいいが、おシリの下が引いて、そのために背骨がまがってしまふ。これでは疲労をときはすどころか、新たな疲労を加える結果になりかねない。

これをふせぐために、欧米

ではベッドのおシリの下になる部分のバネを強くして、へこまないようにしている。ベッドはわれわれがその上で一生の三分の一を過ごすところなのに、わが国ではベッドの歴史がみじかいせいか、研究があまりされていないようだ。

ベッドでいちばんたいじなのは寝心地ではなくて、疲労をまじけるときは、ベッドがだんだんタタミの上になれるフトンに近づいてきていくことになる。

(A)

茶の間



あつたので、一昨年の国連総会に代表としてニューヨークに行った時、ホテルの室にテレビが備えつけてあったので、暇な時には野球やゴルフの試合をテレビで楽しんで思ひ出がある。

ところで国連総会の実況はテレビで放送される。ある時ホテルに残っていた私の妻が、テレビのスイッチを入れた途端に、総会の席上でいま出て行つたばかりの夫が座下とみびをしてる姿が大きく写され、突然なのでびっくりしたといふことがあった。テレビに写されてい

ることは各国の代表も、もちろん承知のことである。しかし常にかまけておられないという態度で、見ているものの苦笑を買つて、撮つていられていると気がもよおして来る時など、眠ることもあつた。選手の行儀をよくする面では大いに役立つのである。私が

テレビの罪といふのは、写される側からいへば多少迷惑なこともあるという意味である。むかしローレルとハーディの喜劇に、ハワイに静養に行くといつて女房たちをたまし、シカゴの党大会へ出かけて遊んでいるのをニュース映画で見つかり大いにやられる場面があったが、競輪などの観客席がテレビに写つたら、あるいは悲喜劇があるかもしれない。

(外務省研修所長)

樂人十話

(七)

恋愛は一つの事業である。そう私はいう。事業であるからには盛衰もあり喜憂もある。その変化が実は恋愛を豊かにし楽しくするのだ。アスファルト道路を走るような、あまりにもたんなる「硬」(こ)のよきな恋愛など、私には耐えられない。美を生命と



044
1962

わが恋愛観

山田耕 作

男の頂部を襲つた(ぶちやうつ) 蔑(あべつ)するものだ。しかし、肉のみに終止するのが恋愛だ、なにより即断するのは仕事である。人間が肉のみで成るものなら別だ、どんな人間にも霊はあるのだから。霊も肉も、それを等しく貴び愛するのだから、本当の恋愛とは呼びえない。

たゞではならない。男性というハシゴに女性というハシゴを向かい合わせて、それを愛という繋ぎ金で結ぶからこそ、脚棚は安定度を持って立つるのだ。偶然として立っているから人の役に立つのだ。裏からいけば社会の迷惑にならずにすむのだ。一本のハシゴだけではどこかへ立てかけるのだけれど、その用をなさない。用をなさないというとは、女々しいことに等しい。相手をなしに恋愛は成り立たない。

方かその要求に等したとしないであらう。両性によって構成している厳固たる軌道は互いにその並行線を捨て、相等することになる。その瞬間、人生という軌道を生きて生活という列車は転覆してしまふのである。その意味からいへば私もまた、恋愛の失敗者であらう。あまりにも相手を自己に同化させようと焦つたため、相手は苦心の末、私から逃避してしまつたのであつた。

また肉の愛を否定するものはバリサイの徒だ。肉の愛によつてのみ人は、自己の永劫(えいこ)という化への一歩を踏み出さるのだから。それによつてのみ相愛し合う二人のエゴは自己の貴さ(きさ)と純粋さをたえて伸長してゆくのだもの。言葉をかえていへばそれは神の行ない給う人間創造の権利を、神に代わつて行使することなのだ。それほど神聖な行為はないのだ。それだけにこの人間創造という尊厳な権利はいなすらにもてあそぶべきではない。すなわち貞原益軒の端正なる房事となるのだ。それゆゑ肉の交わりこそはもつとも厳密に行なうべきだ。肉を卑下する考えは捨て去るべきだ。

山田耕 作

また肉の愛を否定するものはバリサイの徒だ。肉の愛によつてのみ人は、自己の永劫(えいこ)という化への一歩を踏み出さるのだから。それによつてのみ相愛し合う二人のエゴは自己の貴さ(きさ)と純粋さをたえて伸長してゆくのだもの。言葉をかえていへばそれは神の行ない給う人間創造の権利を、神に代わつて行使することなのだ。それほど神聖な行為はないのだ。それだけにこの人間創造という尊厳な権利はいなすらにもてあそぶべきではない。すなわち貞原益軒の端正なる房事となるのだ。それゆゑ肉の交わりこそはもつとも厳密に行なうべきだ。肉を卑下する考えは捨て去るべきだ。

し、協和を基とする音楽でさえ、協和音だけでは成り立たない。よし成り立つたとしても、そうした楽曲はおもしろくないし美しくもない。美しくないから、あきる。つまり長続きしないという上にもなる。だからといって楽しいとばかり、というふうな恋愛はほんものではない。恋愛を遊戯と見れば問題はおのずから別だ。

肉を否定した恋愛というものはありえない。肉にして、それは、いつも悲劇的な結果をもたらすもの

が、これは哀訴嘆願という武器で対着をしようとする。したがってそういう関係は恋愛の埒外(らちがい)に放り投げられるべきである。

対象なしに恋愛は成り立たない。だから、恋愛は

肉を否定した恋愛というものはありえない。肉にして、それは、いつも悲劇的な結果をもたらすもの

が、これは哀訴嘆願という武器で対着をしようとする。したがってそういう関係は恋愛の埒外(らちがい)に放り投げられるべきである。

円朝の速記ものから75年

チャンバラとアワヤ

いまから三十年ほど前に大宅壮一は「日本文学学校」を設立してチャンバラ科とアワヤ科を必修課程にしたいという遠大な抱負について書いている。この計画は実現しなかったが、戦後の代表選



手たちはいずれもこれらの科目を修得してきたのではないかと思ひ、なくなるほどに、このテーマをマ

スターしている。(もっとも新日本文学系の「日本文学学校」というのが現在あることはあるのだが、チャンバラ科を設置する英断はまたでもないらしい)ところでチャンバラ科は説明するまでもない。アワヤ科というのはアワヤ落

のハラハラ、ドキドキのファンシ

ンであって、大宅壮一はめぐりにきたるべき時代を予言したようなことになるわけだ。しかし年表をくつてみると、二十年から三十年で、一つの回帰というか、時代の年齢のようなものがあることが描かれていたのがわかってくる。そして昭和六年という時期は、事

脚光をあびたのは、昭和三十年前後の剣舞ブームからである。しかも吉川「武蔵」に特徴的だった剣の求道者タイプは西部劇ふうなガ

ン・ファイトにどってかわられ、剣は一万三坪式の武士のたましいから一個の凶器に変わってしまった。戦後風俗は殺しのスタイルにまで影響をあたえたというべきだろう。

ふしぎな回帰曲線

ごうみてくると、不思議に二十

尾崎 樹 秀 崎 樹 秀

吉川「武蔵」も登場

回帰する「大衆文学」

して大衆文学の場合も例外ではないのである。

75年の歴史にみる

明治三十年前後に円朝の速記物から出発した歴史が、日清・日露の戦争最中で家庭小説・ホヤク・タンテイものを流行させ、明治

の年代は昭和十年から四年にかけての吉川英治の「宮本武蔵」を完成させながら、軍国調のアラシのなかに埋没してしまっ

この文章は最近復刊された田河水泡の「のらくら」マンガを眺んでいて、ふっと三十年かき昔の思い出がよみがえり、そこにはた

ある。(文芸評論家)

大東京を築いた人びと

木村

殺 Sept 9 1962

五十年帰らず

この学者で、文化的な外交官のクレーンホフは、ある冬の日、坂道で落馬したのを、十八歳の青山光子に助けられ、それが縁のつながりて、ついに彼女と結婚した。

そのころのこの夫妻を見知っている人が、日本に、たった一人現存する。初代の東京都立大学学長で、いまの学正院会長の柴田雄一博士である。博士の家には当時めずらしい西洋館があつて、それこそこの新婦夫婦にかしていた。

「光子さんというのは、すばらしい美人でした。またクレーンホフが望みとした好男子で宮中の式日などがある」と、向こうの竜騎兵将

校の軍服をきて出かける雄風には「うちの母は日本人だから、このみんな目をそぼけたものです」くらいなこともしらないのだ」

光子は日清戦争のあとで、東京とけいべつされるようなことが

將軍姫さまと町娘

どうも「尻をつれて、夫の祖國のオーストリアにいったまゝ、昭和十五年の夏、支那事變の最中に死するまで五十余年間、ついに一度も帰国しなかった。

この父、この母

この母が中学にすめば、中学の教師、高校にすめば高校の教師を招いて、全科を習得した。彼女は江戸商家の、しかも特別に旧

家庭教師について、この母の諸教課を自分でさきに学んでおき、復習に何をきかなくても答えられるように準備しておいた。この母から

かわり、三味線、踊り、歌曲などは、くろとこの域にせまるほどの習練をつんでいた。

それがいきなり「三角形ノ内角ノ和ハ二直角ニ等シ」などと、まるで自分の観念になかったことを、年がいつてから、なれぬドイツ語でならう苦勞は並みたいていではなかった。

この母が大学生になると、大学

教授まで家庭教師に招いたのである。

「さすがに大学の学問となると、むづかしくて、わたしには、ついて行くのが困難でした」

とためいきをもらした。そうまでにしたから七人うんだこの母がみんなえらくなり、彼等の母にたいする敬愛と尊崇は絶対で、クレーンホフ自叙伝の第四章

うのだが、日本の女性に、東京の光榮とも、よろこびともしたのうまれに、さげられたかくも高く、清く、美しい心からの賛辞が、またと他にあろうか。

クレーンホフ・カレルギの「汎ヨーロッパ」あるいは「欧州連盟人の先祖はクレーンホフ自伝に思想」は一半を、世界宗教の統合の道の出とある。佐賀が京都の

光榮とも、よろこびともしたのうまれに、さげられたかくも高く、清く、美しい心からの賛辞が、またと他にあろうか。

クレーンホフ・カレルギの「汎ヨーロッパ」あるいは「欧州連盟人の先祖はクレーンホフ自伝に思想」は一半を、世界宗教の統合の道の出とある。佐賀が京都の



クレーンホフ・カレルギ氏と結婚した青山光子＝木村毅氏蔵

やユダヤ人問題の深き研究家だった父に負い、一半をすくれた母の思いやり深くゆきとどいた愛育に負っているのだ。

日本雑誌をよむ

クレーンホフ光子夫人が一代の

このおぼろげな、五十年も日本にかえらないのに、この時おぼろげなくも日本語をなした。妃殿下が、

「あなたは、半世紀も日本にかえらず、日本人とお会いになる機会も少ないでしように、よく日本語をお忘れになりませんね」

と申されたら

「はい、わたしは毎日日本の雑誌をよんでいます」と答えた。

「どんな雑誌？」

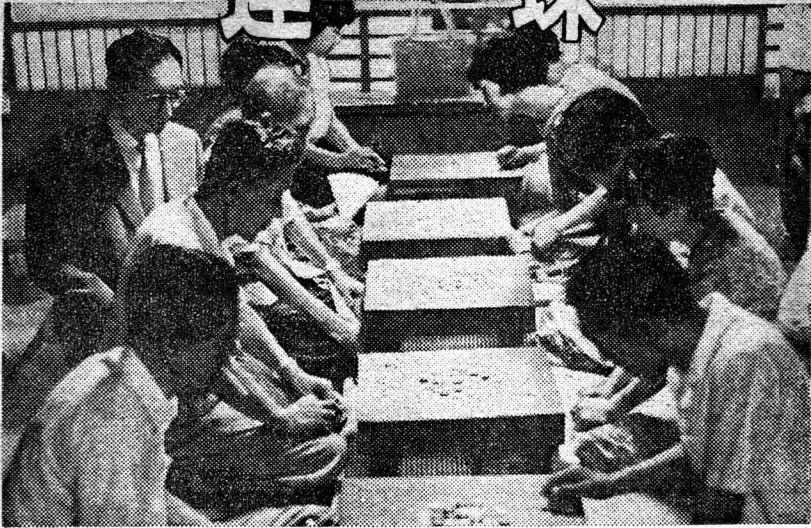
「主婦の友を毎月、日本からとりよせています」

この返答に、高松宮妃殿下が思わず微笑せられたという話を、わたしはそのとき、その場に立ちあつた人から、聞いたことがある。

ともあれ、そのころは「欧州連盟の母」として、光子夫人の名が、大陸の諸新聞に喧伝せられていたもので、この時のごとき自然、殿下の関心をひいたのであつたらう。

(題字：東京朝日新聞 東洋大郎氏)

連珠



碁石をにぎったことのある人なら一度は経験のあるのが「五目並べ」、だれでも簡単にできるのがこのゲームのミソ。たかが「五目並べ」と思っ
てはいけない。1000年のX

X 昔には、宮廷貴族や上流階級の間で連珠の原始形が社交術として行なわれていた。一時おとろえたが、最近ではまた、同好者がふえつつある。以下その現状を調べてみた。

日曜じゃー



連盟の本部は東京、福岡に置か
れ、大阪、山口など全国各地に支
部がある。さらに開基、将棋と同
じように段位・級位がある。段位
は初段から九段（名人）まで、級
位は九級から一級まで。

「開基をやります」と胸をはって
いうひと多いが「五目並べをや
っています」と鼻を高くするひと
はあまりいない。「五目は幼稚な
遊びで、一人前のおとなのやるこ
とじゃない」とひとり決めてい
るひと多い。ところが、連盟に
所属するひとの中には、重役、
商店主、一流芸能人、学校の先生
などチャンとした肩書きのあるひ
とがたくさんいる。

おもしろい郵便戦 だれでも簡単にできる

Sept 16
1962

が図面入りで「連珠必勝法」を連
載したところたいへん反響を呼
び、盛んになった。そして段位・
級位をもつて、技量の基準にした
同時に開基の定石と同じように
基本珠形を決め「雨月」「花月」
「名月」「寒星」など美しい名
がつけられた。この定石は約三万

れ、広島、山口など全国各地に支
部がある。さらに開基、将棋と同
じように段位・級位がある。段位
は初段から九段（名人）まで、級
位は九級から一級まで。

手というからたいへんなものだ。

いまのところ、連珠専門の教場
はなく、同好者が有段者のところ
に集まって腕をみがいている。純
然たるアマチュアの「つどい」

だ。競技はタテ、ヨコ、ナメのい
ずれかに自分の持ち石で連珠五石
並べたら勝ち。黒先手が第一石は
必ず中央におく。三・三が禁手で
あることは承知のとおり。段位
が上がるというハンディを加
えて勝負に公正を期す。このほか
連珠独特の郵便戦がある。ハガキ
に一手ずつ書いて遠方のものとや
りとりする。未知の有段者と手合
わせをして上達するというおもしろ
さがある。連珠入門四年後に二
段に昇段した広島大学医学部大学
院の渡辺正誠さん（ごも）「郵便戦

で未知の有段者と連珠をはじめ
おもしろさがわかったといってい
る。段位授与は、公式戦の成績
郵便戦での成績、高段者に実力あ
りと認められたものが授与され
る。

現在、全国の連盟登録会員は三
千人、同好者はほぼ四百万人とい
われている。広島には日本連珠連
盟広島支部（広島市昭和町、川手
耕造支部長）があり、女性をまじ
え六十人の会員がいる。

連珠を大きくわけると「十五道
派」「十九道派」のふたつがある
十五道派は、連珠専用のタテ、
ヨコ十五筋の盤を使用、三・三、
四・四などを禁手にしている。十
九道派は開基と同じタテ、ヨコ十
九筋の盤を使い、禁手は三・三だ
け。

連珠のおもしろさは、開基のよ
うに長時間からず、どこでも、
だれとも簡単にできるところにある。さらに「三三」のおもしろ
さがある。現在の坂田本因坊も連
珠「三三」を習ったといわれてい
た。

善志十話

(七)

教を受けた同門の友人だ。

この二人が偶然ある席で同座した。いかに「同」であればと

いても、その時、申徒嘉は

凡庸であり子産は鄭国の総理

大臣として隆々たる名聲をは

ていた時である。そこで子産が

まずいいた。

私は君と進退をともにするの

は恥ずかしい。爾後(じ)私は先

に出たら、君は残っていてくれ

君が先に出たら私はあとに残

る。こうして翌日その席に行

つてみる、依然申徒

嘉はそこに居る。

これはその席に座を占め平然と

居る。あきれた

子産はまたいった。

昨日もいったとおり、君と進退

をともにするのは恥ずかしい。私

が先に出たら私はあとに残る。ど

うも、今日は私が出かけようと思

うが、君はあとに残っていてくれ

るか。とにかく、私は宰相の身分

だから。申徒嘉はむしつげんの面

持ちで答へた。

君も怪(け)しからんという男だ。

君も僕もともに伯昏無人先生に従事した

同門ではないか。先生は常に万物

を同一視する人生觀に立つて、わ

れわれを教えられた。その門下に

学んだ君と僕との間に宰相とい

う位が何の意味をもつ。君は僕

が凡庸であるというのを気に病

むのだろうか。世の中には罪を犯

して刑に触れぬものもあり、刑に触れても実は罪を犯してあらぬものもある。元来私は君と交わってから十九年にもなるが、自分分は常に足を切られた凡庸であることを忘れていた。いまの形を忘れて君と交わっているのだ。だから、君がいまにおいてもなお宰相たることを忘れず、いつまでも交わりを形骸(がいは)の外に求めようとしているのは間違ではないか。

忘形の交わり

Sept 20 1962

諸橋 徹 次

と手きびしく反駁(はんばく)したので、さすがの子産も黙(しん)然として容をあらため、もう何もい

てくれるな、自分の過(あやまち)であつたとか

ぶとをぬいたというのである。

東漢の嚴子陵と光武帝との交わりなどは忘形の交

わりの典型(ていけい)的なものだ。子産名は光、高節をもて

聞(きこ)えたが、なかなかの硬骨漢である。若い時、劉

秀と緒に遊学したが、劉秀が王莽(もう)を滅ぼし

諸賊を退け、後の光武皇帝として天子の位に即(つ

いてからは、むしろ權勢に近づきをきらうて山野に

隠れた。光武帝は旧誼(き)を忘れず、物色して嚴

光を捜したところ、嚴光は貧乏人の着る羊の毛衣を

着て沢中に魚を釣っていた。ようやく友を求めた

喜びに、皇帝はその夜、嚴光と同じ床に臥(ふし)し

て旧を談したが、不作法で不遠慮な嚴光はしば

も現れたものである。翌日大史の役を勤めてい

る役人があつて「客星、御座を犯す」とはなはだ

急なり」と奏上した。しかし事情を知っていた光武

帝はただ「故人嚴子陵とともに臥したまでのことだ」と笑つたのである。光武帝は「赤心を推して人の腹中に置く」とか「辺幅を飾らず岸轡(がんず)して馬援を迎えた」とか、いわゆる英雄を延攬(えんらん)して、つとめて民心をよこした。その部下に多くの傑士を得て大業を成し得たのは多くの忘形の交わりに得たところが多いと思う。昔から明主聖主には必ず「不賢(ふけん)の士あり」といわれ、また大いになすことあらんとする君は必ず「召さざる所の臣あり」となるといわれているが、これらはみな忘形の交わりのことである。

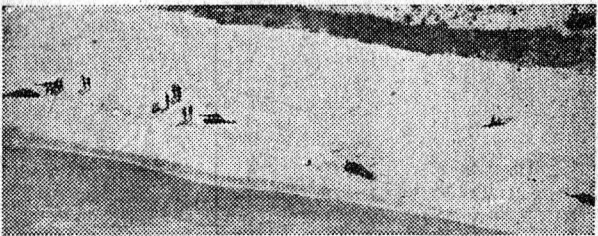
忘形の交わりという言葉の出典は遅れて南北朝時代である。晋の亮語が金谷の園に二十四人の友人を集めて「忘形の交わり」を結んだというのが最初らしい。この金谷の園は同じく晋の石崇という人の作った別荘だが、風勝の地で泉もあり林もあり、衆果竹柏葉草もある名苑であった。石崇はかつてここで客を会したが、庾(こ)士詩のてきなかつた人に罰杯三斗を課したといわれ付きのところ。直接忘形の交わりとは関係はないが、有名な話からついでに述べておく。晋の後、唐に至れば文章の大家、韓退之が耿介の人、孟郊と忘形の交わりをしたことが歴史に残っている。(東京教育大文藝教授、題字は筆者)

浜べにマクラを並べて死ぬ

シドニーの北岸六十キロほどのニュー・カッスル市に近い「オットセイ岩」の灯台下の海岸に、さる八月二十三日夜、十三頭の鯨が泳ぎ着き薄早曉、灯台守助手のチャールズ・フッド氏が窓から見ていると、最後の三頭が浜にねどりあがり、そのまま海に帰ろうとせず、ついに十三頭がマクラを並べて死んでしまった。

力に追われたという証拠もありません。こんどのは大群ではありませんが、長さ二層から五層半ぐらいで、子どももまざっているようです。一九五六年のときには、ボートで海へ引き戻してやろうとしましたが、やはり浜べへ戻って来て死にました。死のうと堅い決心をしていたようです」といっている。

シドニー大学動物学部のW・H・ドービン助教授はさっそく現場へ行って、鯨の脳の状態の調べ



南太平洋を遊泳中の鯨の群れがオーストラリアの海岸にあがってきて、さばくに横になり、そのまま死を待つことがときどき起こる。

(写真は鯨の集団自殺の現場)

鯨の集団自殺

にかかっているが、真因は鯨にきいてみなければわからない。いまオーストラリアを訪問中の南ア国立公園局長ロッド・クノーベル氏は「鳥やけものの間の会話を研究すれば人間も彼らと話すことができるはずだ」といい、同局では生物音響学研究所を最近つくって、研究を開始したそうだが、人間が鯨のことを理解するまでにはまだ相当の日時を要することだろう。

(メルボルンにて大木共同通信員)

発狂したボスの行動に従う

Sept 16
1962

裏オアフ回顧(二)

五十年間の變遷

カネオへ 若 本 義 一

Sept 21 1962

朝日が海からのぼると直に
陽の光りかすのは裏オアフ
一帯だから、裏オアフこそ
表であつてホノルル側が
裏だという人もあるが、長
い間呼び馴れたのだから裏
オアフで書き進めたい。
てこの回顧で忘れることの
出来ない殺人事件が一つあ
る。

バリ下の殺人

今から四十五年前の一九一
七年八月廿日、裏オアフに
おける悲惨で氣の毒な人事
件が起つた。
當時バリ下の道路沿いで食
料雑貨店を営んでいた廣島
尾道市向島出身、林原
常太郎氏(四二)が、数名
の比島人のため殺害された
事件である。古い方々には
記憶にあると思う。
その日の夕方、近所の友人
が林原商店へ遊びに來て八
時ごろ店を閉めようとして
おる處へ比島人四五名が入
つて來て、煙草をくれと云
うので取りに行くと、突然
に人型ナイフを突き付け、
有り金を全部出せと迫つた
他の者らが金庫の中から現
金はじめ時計や指輪までも
全部掻き集めて盗み取り、
その上に林原氏と夫人を縛

り上げて屋外に連れ出し、
聲を立てるなと命じた。幸
いに子供達は寝入つてい
たので難を免れたが、夫妻
は道下の小川へ天氣の時に
は水はない)を通つてバナ
ナ畑に連れ込まれた。二人
とも殺すつもりだつたらし
いが、初めにナイフで斬ら
れた林原氏が大聲をあげて
倒れた。それは凄しい悲鳴だ
つたと見えて、少し離れて
夫人を連れていた比島人が
悲鳴に驚いて、夫人を放し
て逃げ出した。
その間に夫人は近所に知ら
せて、倒れておる林原氏を
つれ歸つたが、既に事切れ
ており無様な最後を遂げた
のであつた。
カネオへ警察署では直ちに
犯人捜査に掛かり約二週間
に、血痕の付いた衣類が後

手がかりとなり、犯人全部
を逮捕した。主犯者は死刑
となり、共犯者も数年の入
牢刑となつた。
その頃のカネオへ地方は夕
方六時過ぎともなれば、通
行者は一人もない程の淋し
い田舎であつた。

バリの難所

ヌヌ・バリ道路は、悪い
と云うよりも大變危険であ
つた。裏オアフの住民、殊
に自動車でホノルル方面へ
仕事に通う者の悩みは、バ
リ頂上を越える刹那の突風
であつた。
裏オアフからホノルルに出
る時はコナ風以外は、何の
障りもないが、ホノルルか
らの歸途は、少し風の強い
時はバリの頂上を越すのが
人だであつた。

一九二〇年頃から四〇年頃
までの自動車のタツプは殆
んど布製であつたので、タ
ツプをロッブでくぐらねば
少し古いタツプは、バリ頂
上のひどい風に吹きはがさ
れてしまふという有様で、
バリは難所だつた。
それに雨の夜などは、濃い
霧が掛かつて一寸先も見え
ぬほどで、實際に命がけと
言つても過言ではないと思
う。風のためバリの頂上で
馬車が転覆したり、自動車
が転覆したことも数回あつ
たし、又バリの頂上は、死
の誘惑地でもあつた。

バリの頂上から飛び込み目
殺した者、未遂に終つた者
など十人以上にも上るだろ
う。中には断崖の木に引つ
かかつて救い上げられた者
もあつた。トンネル以前の
バリ道路に思い出は驚きな

Sept 14 裏オアフ回顧 (一) 五十年間の變遷 196

カネオへ 若本義一

裏オアフ、カネオへに滿五十年以上在住している若本義一氏が、過去半世紀の足跡をふり返つて見た回顧録を寄せられました。裏オアフの側面史といふことができる思い出の記で、失われて行く貴い資料の一つです。本日から連續掲載することにしました。

私は明治四十一年（一九〇八年）五月廿二日マンチュリア號で來布した。今からちょうど五十四年前のことである。

最初は、同郷出身の友達のある關係でオアフ島アイエア耕地に就働した。一カ年未滿の翌一九〇九年にオアフ島各砂糖耕地の日本人大ストライキが勃發したので止むなく、ストライカーの多數がホノルルに出たから

コよりコラウロアに至る間を云つたものである。當時の裏オアフは誠に淋しい寒村であつた。然し「住めば都」といふ通り、此處カネオへに住みつてから去る五月で滿五十年の歳月が流れ去つた。

私は茲に五十年間の裏オアフの榮枯盛衰の跡、特にカイルアとカネオへの急速な激變とその發展ぶりを、書き残して置くことも後進者のため、滿更無駄でもなからうという考えから拙いペンを執る次第である。

乗馬と荷馬車

五十年前の裏オアフの交通機關は、乗馬かワゴンという荷馬車が唯一であつてワイマナロ耕地の粗糖、カハルウの鳳梨など何れも汽船によつて運搬されてゐた。カフク耕地まではオアフ鐵

道會社の汽車がハレーワ經由で通つていたので、粗糖の積み出しに汽車を利用していたものである。

からカハナまで、約八哩の間にレールを敷設して乘運搬汽車を運轉していた。それでカフクからカフクまでの交通には、殆んどこの乘積み汽車を利用してゐたもので、自動車の發達普及の現在から見れば實に不便な時代であつた。

十五哩には、ステイジと呼んだ乗合い馬車が通つてゐたが、片道に二時間を要したので、ホノルルへ買物に出るにもまる一日を費さねばならなかつた。

ワゴンが一台通れる程の道幅であつた。電車でメアヌ街上手のカンツリー・クラアに入る道の所が終點であつた。

昔のバリ道路はとても難道であつた。現タウセツト・ツラクトと新バリ道路の少し上手から、カネオへ側面まで約五哩の坂道は、曲りくねつていて俗にバリの「九十九曲り」と呼んでゐたものだ。

バリは坂道は特に狭い粗木な道で、谷の側は唯ところどころにセメントのボーストにワイヤのフェンスがしてあるだけであつた。

夜などはお化けが出るという噂さへあつた。また今のウインワード・センチ・シヤツピング・センタリーのあるココカヒ・サービス・ステーション前には當時一本の仙檀の老木があつて、その木に支那人の老人が首を吊つて自殺したとがある。それで其處にもお化けが出るというので、子供から、ひどく恐れられてゐた。

今頃こんな話をして、誰一人信する者はいないだろうが、こんなお化け話が生

れるほど、如何に淋しい片田舎であつたかと云うことが伺われると思う。（續く）

善志十話
(八)

中国の學者で莊子を好むものは、よく多く書きなすへてゐるものは、さういふうた。彼は元來世



俗を超越して無何有の樂天地に逍遙(じょうよう)するのを理想としていたから、自然、現實のすべてを打ち忘れることを希望したのかもしれぬ。それは彼が現世を離れるために夢物語を多く樂しんでいるのと一脈相通する心理作用である。夢に胡蝶(こてつ)へ(てんてん)となれば、もうそれでヒラヒラと飛びまわつて胡蝶となつたといふ逍遙遊の話なども善く

我れを忘れる心境を述べたものだ。

ある人があの人に天籟（てんさい）（かれて魚が苦しくなれば、魚はお互いに口から漆（まぐさ）を説明した話がある）（まづ）を吐き出し合せて、わずかな水氣を求めてゐる。莊子の説によれば天籟（てんさい）いる。もしその魚を揚子江か五湖かの中に放つてや

とは天地自然の理であり、この声を聞かなければ天地自然の理法がわからぬという、つまり天籟を聞くことは人生解脱の大關鍵(かんけん)だ。しかしそれはその天籟を説明する人の姿はといえば「形は枯木のこころは死灰のこころ」。吾れ、我れを空道に同化して行けば、それもこれも打ち空されてその

天籟と坐忘

諸
橋
轍

次 Sept 21
1962

れた姿である。いかえれば人は一切を打ち忘れた生を樂しめるではないかと説いているのである。こ

時でなければ、天籟を聞くことができません。したがって天地自然の理法を聞くことができないというのである。だから莊子は「己おのれを忘るるの人、之（これ）を天に入ると謂（い）ふ」とも説明している。さらに莊子は「足を忘るるは履（はき）の適（あ）なり」履（はき）物（もの）が足に適（あ）していれば足のあつてもよいのである。「腰を忘るるは帶（おビ）の適（あ）なり」帶（おビ）が腰に適（あ）していれば腰のあつてもよいのである。つまり忘るるものが適（あ）つていようならば、最も人生に適（あ）つた生活を送るやうにと考（かん）へることも、老莊流（らうしやうりゆう）の寂（せき）寞（もく）（せきぼく）（虚無（こゝろ）に陥（おと）つていゝやまらはあるが、己（おのれ）を忘るる時（とき）人（ひと）がはじめて天に入るといふ考（かん）念（ねん）には間違（まちが）ひがない。

莊子は「天籟（てんさい）を聞くとき人の境地（きょうぢ）を忘（わす）れよう」といふ意味（いみ）である。莊子は「この心境（しんきやう）の説明（せつめい）を孔子（こうし）との問答（もんたう）に託（たく）して説（と）いている。ある時（とき）、顔回（げんかい）は孔子（こうし）を訪（たづ）ねて、自分の修養（しゆやう）上の進歩（しんぷ）の状態（くわい）を述べた。私は「近來（きんらい）大に得（え）るといふことがあ

りまして、どういふ意味か孔子がなすべし」と「実は仁義を忘れました」といふ。聞いた孔子は、「それもちやうが、それだけではまだまた」といふ。仰目、顔回はまだやうてきて、「ごんごんは本ものとなりました。礼樂を忘れました」といふ。仁義といふはまた抽象的の觀念にすぎない。礼樂は具體的の修行だから、それを忘れたと云ふに修養上の一進歩があったと考へたのである。けれどもそれを聞いた孔子は「まだまた」といふて全部は許さない。他日また顔回がやうてきて「ごんごんそは本物を得ました。坐忘しました」といふ。その時、孔子ははじめて心から嘆服して「君が坐忘したというなら、後は自分から君の門に教へを受けよう」といわれたのである。坐忘とは前に略言になつたにすぎなかつた。坐忘するといふ言葉ではあるが、莊子の言葉によれば、かたかも忘れ精神も忘れ天地の大道と二にせぬのだといふ。

この心境を莊子はまた「虚」という言葉でも表わし、人がその虚を得た時に万事に応じて立ち回らない行動が取れるものを説いてゐる。「道は虚に集まり、虚は心着ない」ともいひ「渚は塵の田ひ」ともいふが、これはまた「虚等には生ず」といふことである。要するに虚の心を所成せぬ心の状態に心を保つた時に行きかまひなく、自然に行動するものである。

(東京教育大名譽教授、題字は筆者)

次 Sept 21
1962

配所

古屋翠溪



Sept 26 1962



美空抑留所

冬の明暗

【百十五】

北國の夏はまことによろしいが、冬は實に陰氣である。暗い霧がおる日が多くて、そんな時は、大氣と共に心も暗くなるのである。

視界はたゞ暗い霧の海でその奥から、黒い霧が砂のように寄せて来て、それが樹にふるや忽ち霧水になるのだ。

雪や霧水は、晴れた翌朝は美しいが、霧が流れる時や雪の降る時は、暗くて陰氣で、死の世界を想わせるような淋しさである。

私の故郷は、山國であるから雪も随分降るが、雪の降る時も暗くはないから淋しい感はない。子供の頃であつたから、さびしい

どころか寧ろ楽しかつた。

霧水は里には出来ず、夜の間に、山の八合目から上の所へ出来るので、朝、山を眺めると實にきれいである、だから、俗に木花と呼ばれる、だいてる。

雪の翌朝は明るくて、日が昇るとあたゝかいので子供達は大喜びで、雪合戦をしたり、雪達磨をこしらえたりして大いにはしゃぐのであつた。

北緯四十八度のこの北國でもやはり雪の翌日は暖かで明るくて、前日とはガラリと變つた氣持のよい銀世界になるのだ。これは、自然の法則かもしれない。

久しぶりに雪のあしたの明るさに會つた人々は、大の男が子供にかえり、大きな雪達磨をこしらえて、嬉しそうにヤツサラモツサラ

ころがす有様はユーモアたつぷりで、鐵柵内に抑留されてゐる人の上ではなかつた。

太公望連中は、ゴムの長靴をはいて、一刻も早く釣場へ行つてラックをつかもうと、まともな路を行かずに畠の中を野割りで、駆け足で行くそのかつこは、ひいき目で見ても、決して意張られた格好ではなかつた。

こんな風に、脱鬼の如きいきおいで行つたがさて釣つて見ると、其日は、からきし駄目で一びきも釣れなかつた。

日は早くも落ちて薄暗くなつた雪路を、疲れた足をひきずつて、しお／＼と歸るかつかうは、處女の如し、と言いたいところだが、實は傷ついた老家鴨のようなかつかうであつた。

それでも、次の度はこりずに、また氣軒昂、雪をいとわず出かけるのだ。

阿波音頭のはやしに『踊る阿呆に見る阿呆、どうせ阿呆なら踊らにや損だよ』という文句があるが、魚釣と見物の、そういうたような話もあるが、雪中の魚釣りでは、見物する阿呆も居ないから、結局、魚釣りは阿呆のチャンピオンということになる。

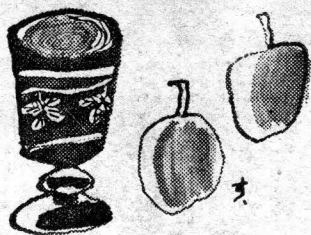
寫眞は魚釣に行く時の筆者の着服れ姿

樂人十話

(一)

日本の音楽界の歴史もかれこれ六、七十年は経つていよう。それにしては、その発展は存外のうかつだ。

もっともそれは、この国が世界の音楽の中心からあまりにも隔絶されているからでもある。しかしそれはかりではないようだ。



その根本的な理由としては、由来この国が美術の国であつて音楽の国ではなかつたといふことにある。したがつて欧米の文明文化を取り入れるのに急であつた明治政府ですら、美術を偏重し、とくに音楽を置き去りにした傾向がある。もっとも東京音楽学校の前身である音楽研究所時代の伊沢修二先生や、その他の人々の熱と意気はすこぶる盛んであつたが、惜しいかなそれに続く人物が現われなかつたことも、とくに音楽の発展を鈍らしたものと

いへよう。現に日本芸術院の組織を見ても、それが帝国美術院の発展したものであらう、といつてしまふ

はそれまでだ。會員本人のうち、美術五十人、文学三十人、音楽二十人といふやうな割合である。これなどもヨーロッパに行つて日本芸術院の會員の割り振りを説明すると、どの國でも不思議がる。それに、芸術院といふのが、創作家以外の演技者の含まれていることも合点がゆかぬらしい。二國が美術・文学・音楽を五・三・二の比率に置く理由も理解できないよう

だ。要するに過激な日本はフランスと同じく目の國で、耳の國ではなかつたといふことになる。いま一つの理由は言葉の問題である。日本語は歌

日本歌曲の創造をはばむもの

山田耕柞

Sept 26 1962

唱に過ぎないといふやうな迷信を日本人の多くが持ち過ぎている。そして、さうした言葉の問題に対して、真摯(しんし)な研究もしないで、それに盲従する日本の音楽界の現状をも指摘しなければならぬ。一國の歌曲を造りあげる場合、もっとも大きな課題となるのはいつまでもなく、その國の言葉だ。言葉なしには歌曲は成り立たぬからである。ドイツの音楽がイタリアの影響下にあらつた時代には、やはり日本と同じやうに、イタリア語以外の言葉は歌えただけではない、といふやうな姿(もよう)も、想に支配されてゐた。しかもさうした外国語の知識をもつていたものは、全ドイツ國民の一小部分に限られていたのである。いまの日本の状態と全く同じだといへ

る。西欧諸國の感化をうけていたロシア初期の音楽界も、ドイツと交わることはなかつた。しかし、ドイツにしても、ロシアにしても、その苦難を敢然と克服してドイツのリートをつくり上げロシアのロマンスを生み出したのだ。日本でそれが不可能といふはずはあるまい。さらにいま一つの大きな理由も忘れられてはならない。それは音楽の指導者の問題だ。音楽とはまったく別な音楽においては、絶対に言葉を含まざるわけにはゆかない。器樂の場合ではた音を出せばそれで足りる。が、音楽の場合には声を出すといふことは、言葉を吐くといふことになる。つまり発声と

発音が全く同義語であることに気がつかないのだ。それゆゑドイツの発声がいいとか、イタリアの発声が一番だといふやうな愚かしい考え方が、また日本の音楽界を支配している。それに音楽の指導者に歐洲人を起用している点も挙げなければならぬ。それらの教師は、かならず自國語を完全に発音するやうな発声の指導をする。これは外人教師としては当然のことを当然にやつてゐるのであつて、それをあやまちであるとはいへない。しかし、一國の新しい歌曲を確立しようといふ願望からすれば、それは結果においてきつた迷惑な極といわなくてはならない。いくらドイツ語の発声があつても、それからよひつて、それで日本語を唱

つた、わかれてはたまつたものではない。それはドイツ語の発声による淨瑠璃(じようるり)を聞くと、ひといひの結果になる。それにいま一つ問題がある。それは日本の音楽家が、音楽を器樂と同じやうに考へてゐるといふことだ。つまり歌曲の根本をなす歌詞の存在を無視して、ただ旋律をきれいに唱ひ流しさえすればそれで足りる、といふ考へ方に終始してゐることを指す。それと詩に対する真の理解を持とうと努力しないことである。したがつて外國語の歌詞で唱う方が芸術的価値が高いといふやうな迷信にとらわれてゐることである。詩意の十分にわかない歌詞を唱うといふ、唱へようといふのだが……。しかし日本の音楽家の大多数が、いまもなお、詩意はわからなくとも、外國語で唱うことに、より多くのプライドを感じ、熱意をもつといふやうなことは、まことに理解しがたいことではある。が、それが事実である以上、日本の歌曲の前進も発展も容易に望むことはできないのである。それにまた、いまは少なくなつたが、和製楽曲に対する輕侮感もたしかに日本歌曲の成長をはばむ一因といへよう。

洋楽である以上、たしかに舶來に優秀な作品のあることは否定できない。しかし、芸術のための芸術といふやうな考へ方の通用する時代ならぬに知らず、芸術もまた大衆と共に生きるものである、と信じられる現在において、日本の唱ひ手が自分の小さな趣味やパニチのために、和製の作品を卑下するといふやうなことがまたあるとしたら堪へなければならぬ問題である。



(作曲家、歌手・カトリック・詩人山田耕柞)

連載のつぎ

樂人十話

山田耕柞

諸儒敏次博士の「善忘十話」について作曲家、山田耕柞氏の「樂人十話」を連載します。山田氏は明治十九年東京生まれ。東京音楽学校声楽科を卒業、ドイツに留学しベルリン国立音楽大学で作曲を学びました。作曲家としては、数多くの交響的作品、オペラ「黒船」そして、日本のもっとも代表的な歌となっている「この道」「からたちの花」「赤とんぼ」をはじめとする歌曲など約五百曲の作品をのこし、一方では日本交響楽協会、日本楽劇協会のはかによって、日本の交響楽、オペラ運動のために精力的な活動を展開した功勞者です。芸術院会員、文化勲章受賞者。

善志十話 (十)

なぐ、ある場合は不倫、ひりてその子を抱き上げたいような気がした。話快な感じとなつて残つてはなされたことであるが、さて如上行かなる。せめてこのけちな感情をきれいにしようと忘れろ心臓にならうとは時々思うのである。

いままでいひつゝ忘れたいといひて述べてきたが、最後に私は自分の心持について、忘れたいことを忘れたらならいと思ふことを述べて置かう。

いまからはもう二十年も前のことだが、私は山形県教育団体の講習に行つたことがある。その会員は山の上のある地区に合宿して訓練するのであったが、その帰り途のこと。山道なといつて、馬の背に乗せられていた。元来、私は乗り物には慣習た

母の恩、衆生の恩、国王の恩、三寶の恩を四恩とい

ひつてその子を抱き上げたいような気がした。話快な感じとなつて残つてはなされたことであるが、さて如上行かなる。せめてこのけちな感情をきれいにしようと忘れろ心臓にならうとは時々思うのである。

い。たとえば故郷の山や川を無情の物からとれ、ほま多くの恩義を受けているかわからない。この恩義に報いよといふのが報恩の教であるが、私は、自分省みて恩義に酬(むく)いたといふ事実はほとんどない。いつも恩義を受けっぱなしである。しかし、せめて受けた恩義は忘れないようにといふことは心得ている。それも実をいへば、報恩といつたのは心算である。それとも実をいへば、報恩といつたのは心算である。それとも実をいへば、報恩といつたのは心算である。

このころ、ある雑誌を見た。窪田空穂さんが死刑囚島秋人といふものの作歌二百五十首はかりの中から六十首を選んだといふ和歌が載つていた。その中に老いた父を思ふものが五首、死んだ母をしのぶものが五首、子供のころに一度ほめられた松の先生

の奥さんに感謝したもの三首、そして死刑囚の自分に何の疑いもなく笑顔を見せた老看守、移送の時汽車のガラスをぬぐうてくれた老看守、それは多分同一人であるが、この老看守に関するものが二首あった。歌のよしあしは私にはわからないが、これを詠んだ時、ただ彼の真情あふれる誠意に深く打たれるところがあった。恐らくは極悪非道であつた死刑囚でも、この父母の恩、人の恩に深く感じ入つた時には、秋の水のように心は澄んでいたのであつた。そしてその澄んだ誠の心が楚々(そそ)人を動かす力をもつたのであつた。よき物忘れをした私も、せめて旧蹟だけは忘れぬようにしたいとねがっている。

(おわり)

れた、と思つては人の旧悪であり、忘れたくないと思つては人の旧蹟である。人の旧悪といつても、私は事実過去において悪意をもつて遇せられたという経験はない。だからその人を憎むとかその人をうらむとかいふほどのことは一つもない。それでもこちらが尽くしても報いられたとかない。世話しやつても反対に考えられたとかいふ程度の心の不満はないわけではない。その不満が忘れきれ



カット・片岡 球子

忘れたいこと忘れたくないこと

諸 橋 轍

次 Sept 25 1962

が、馬上ゆたかに景色をながめながら山を下る気持は悪くはない。いよいよ山のふもとに近づいた時、よほど細朴のいなかとみえて、八人の児童が集まつてきて、あまうさ路傍に整列して私を迎えてくれた。馬上の將軍いよいよ得意で、多分胸でも張りの出たのであろう。見ると列者の中の一人、何を考えたのかしら、他の児童はみな頭を下げて敬礼しているのに、その子だけは舌を出して赤んべをしていた。明らかに私に対する反抗だ。その時、私はたしかくもあり、かわいらしくもあり、馬から飛

こつているが、また別に衆生の代わりに師長を、三宝の代わりに施主を加えて四恩と呼び、あるいはまたまったく方向をかねて、布施と縁愛と化導と共歡とをも四恩と呼んでいる。受ける人の心次第で、どんなところにも、どんなものにも恩義を感じるのである。私などは父母の恩、師友の恩など、身近なところで受けた恩はもの多いが、いままでも健康のために、事業のために、あるいはまた精神の安らかなを保つために受けた各般の恩義は山ほどある。

(東京教育大名誉教授、題字は筆者)

(九)

は車の輪だといふ輪の輻(こ)だといふ。しかし一番必要となるのは、車軸のはいりぬ(こ)の中の空虚のところだ。茶碗(ちawan)の動(うご)きは上の虚にあるが、あるものは茶碗の輪郭(りんかく)といふあるものは茶碗の底だといふ。しかし一番必要となるのは茶碗の中の何もない空虚なところだ。ひきょう「有」の動きは常にこれに先だつて「無」の動きがあればのことだ、と説いている。これが老子の有名な三きの句によつて表はされている。

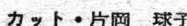
て昧(くら)かり。衆理を具(た)なへて万事に
応ずるものなといひてゐる。虚響には虚妙であつ
て、虚しいものなり意味である。われわれが利
害の念も忘れ愛憎の情も忘れ、毀譽褒貶(きよぶほうへん)(きよぶほうへん)を
へんによつて煩(わづ)む。われわれの心も忘れるの
が虚であり、その虚しい心境には靈妙な働きがあ
り、それは衆理をなす万事に應ずるものである
といふのである。終焉(しゅうえん)(しゅうえん)は莊子の天籟
ひてらひ(ひてらひ)や坐忘(ざぼう)(ざぼう)とあまり相違はない。
數年前私は佐渡へ遊びて無名異苑の大家小平とい
ふ人の茶碗製作の実技を見たことがあつた。ロクロ

たので、最後の喜びの聲が出たのだといふ。この語
を實際この目で見、この耳で聞いた時、私はふと莊
子の「道は虚に集まる」といふ言葉や、あるいは天
籟の話など思い出したのである。

ある日の大家に弓道の虚意はと尋ねた時、その大
家はつぎの歌を示して、これが昔から伝えられてい
る弓の虚意であつたと教えてくれた。

「弓かぬ弓はななぬ矢にて射る時は
中(あた)らずともはづれぬはげし」

弓を引くという考えを忘れ、矢はなつという考
えを打ち忘れた時にこそ、はずれ、このない真の弓



諸橋轍次

Sept 23
1962

「三千輻一轂を共にす。其の無に当たりて車の用あり。……故に有の以て利を為すは、無の以て用を為せばなり」

にかけて形を整えるのもむづかしいが、一番むづかしいのは最後に「糸切り」といって茶碗の底辺を糸で切る、このコツがなかなか凡手ではうまくいかな

たので、最後の善い声が出たのだという。この語
を実際の目で見、この耳で聞いた時、私はやと狂
子の「道は塵に集まる」という言葉や、あるいは天
龍の話かと思ひ起つたのである。

ある日の大家に馬道の趣意はと尋ねた時、その大
家は、きの歌を示して、これが昔から伝えられてい
るこの趣意であるのを教へてくれた。

「弓かき矢はななな矢つ射る時は
中(あち)ひななな矢つ射る時は
弓を引くころを忘れ、矢をはなつころを
忘れ、矢を射る時にこそは、すれ、このない真の弓
が中をこのものらしい。ひびき、う、この、万事
を忘れ、虚の心、無の心が馬道の趣意となやとい
つことなり。宮本武蔵が佐々木小次郎といふよ、嚴
流島、最後の仕合を果したとき、小次郎は一時間
も二時間も前から島に渡つて同志調々、武蔵の来る
のを待ち構へている。その間武蔵は渡し場に近い船
倉にいて、絵をかきながら万事を忘れていた。この
時の情景は吉川英治氏がその著に巧みに描いてい
る。一は闘志に心が乱れており、一はすべてを忘れ
て心に物もない。勝敗の決は刃を交へて相對する
以前に、すでにきまつていたのである。要するに武
道もまたすべてを忘れて心を空(むな)しにするこ
とが、その趣意のこと。

て動いた。その風を出す動きは、ききかたに
「さう。」「虚」に思はず、動いてゐる。田
これが莊子の「虚」の説の本へいふやうな思ふ。
しかし老子は実は虚といふ言葉はあまり多くは用い
てゐない。虚は何もなにも物の姿やありかた、老子
はその根本的なものを「虚」とはわす。「無
とさういふ。さういふの「無」は、
を出して、「有は無から生ずる」といふ。
のさう。車輪の動きは、その田の、さういふ

儒教の経典では正明朗って「空」とか「虚」とか「無」とか説いたところはないすが、意必固我ななく、「己の」を虚しくし、我を忘れることが人間修養に必要であり、それがまた人の本性であると考えていることは確かであった。大学の三綱領として「明德を明らかにする」「民を新たにする」「至善に止る」といってを教えているが、この中の明德というのは、人間の天から受けた良心を指すのであって、昔の学者はこの明德を説明して「盛徳にし

いものなぞだ。いろいろの話を聞いて、小平は一つの茶碗の糸切りをしたのだが、その時「アッ」と声叫ぶやうにいった。また「忘れていた」ともいった。そしてその茶碗をひきあげて底を見て「うまへきた」とひとひきをきいて喜んでゐる。聞いてみよ、うまへ糸切りにする場合には注意を要するのはなぞだ。ところがその時は心が「無」になつてやうなので「アッ」「忘れていた」といった。そしてそれが偶然か、うまへい

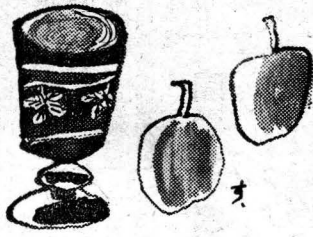
仏教の空、老莊の無もしくは儒教のまれに説く虚はそれぞれ異なる点もあるが、また共通の点もないではない。そしてそのいずれもが「忘れる」ということと相連すると考えると、物忘れの力もなかなか大きいように思う。

樂人十話

(二)

私はここで、歌曲についての私見を私の歌曲集の序文から摘出して述べてみよう。

歌曲と一口にいってもドイツ歌曲とフランス歌曲



ではの性格や様式がまったく違ふ。ましてロシアのそれはさらに激しい差異を見せている。それは一体何に基因するか。それはたしかに国民性の相違にもよるが、それはかりであるとはいえない。私はその根の原因はむしろ國語の相違によるものと断じたい。

単にドイツ(独)やフランス(仏)またはロマンツァ(ロシア)の相違のみではなく、一國の音楽そのもの自体も、実はその國語に源を発するもので

ある。それはタルコムイシスキーがロシアの国民音楽樹立運動に対して彼の後輩であるいわゆる五大作曲家に送った激励と警告にみちみちた。それは詩と音楽が不可離不可分である。それは詩と音楽が不可離不可分である。それは詩と音楽が不可離不可分である。

では歌曲とは何であらうか。それはいうまでもなく詩歌そのものではない。さりとてそれは純粋な音楽そのものでもない。それは詩と音楽が不可離不可分である。

言葉と歌曲

山田耕柞

Sept 27
1962

分の關係に置かれた芸術的な融合体を指すのだ。それをたまたまなる音楽の見地から論ずることも無理であり、詩的観点からのみ吟味するのにも誤りである。それはもはや詩歌そのものではない、音楽そのものでもない。また新しい「歌曲」という芸術的一形体となるのだ。作曲家が詩に刺激され、その美に感服(げんぷく)し、脚韻(きゃくりん)、純無我の法悦(ほうえつ)に浸り、知らぬ間にその詩的種子を受精し、やがて詩歌と「二」と音楽とが各々別個な「二」を合わせた「二」として、完全な新たなる「二」として生み出された時、そこはじめて

以後の歌曲に対して、言葉は問題でないという人があつたら、その人は「言葉はなくては声さへあれば意味は通じる」と主張するのと同じことだ。では音楽語としての日本語はどうか。それはイタリア語にまさるとも劣るものではない、と私はいう。母音の明るさ、音の明確さ、そして子音と母音の美しい結合など……。数えあげればその美点は限らない。母音にしてもイタリア語のそれよりもむしろ音楽的に見て気品があるとさえいえる。歌を美しく唱(うた)うということは、詩句を明瞭(りょう)に発音し、言葉の意味を如実に写し出

すことはもちろん、その詩句に示された空氣、形象、色彩、陰影、感情などをとりつづけに空間に描き出すことである。一流人の演奏に感動するのは、ただその人のふし回しがいいとか、音楽的であるとか、強弱のつけ方がうまいといふだけではいらない。詩歌の示すものをすくめた俳優が巧みなエロキュージョンを用いて詩文を朗読する以上に、美しく唱(うた)ひ語ることにある。朗読はつまり即興技法によるものだ。音の高低も強弱緩急も俳優の自由選択にゆだねられてゐるが、歌曲の場合は違ふ。歌曲においてはその表現の大部分は作曲家の指定によらなければならない。したがって朗読よりも自由でない。その自由や即興を拘束するところむしろ歌曲の価値があるのだ。もし、幸いにも日本の音楽家が、以上の私の所論に共鳴されて、新しい日本の歌曲の誕生に協力の誠意を示してくれるならば、今後の日本の歌曲の成長の足歩は加算的な速さを見せ、完成の域に達するであらう。

日本歌曲の完成はやがては音楽大衆の新しい歌曲に対する関心を喚起し、自分たちの音楽を持ちえたといふ(ほ)びと喜びをいだかせることとなる。そして邦語の内にもなる旋律の発見によって生まれた日本の旋律は、新しい日本の音楽の誕生を促し、そして國民待望の國民音楽の樹立が望みえられるのである。私はその意味から日本歌曲宣傳運動を声を高くして提唱するものである。借りものの生活から本物の生活はいつかである。(作曲家、題字・カッセル鈴木信太郎)

日本精神のあるかぎり

浪花節はほろびない

Sept 22
1962

雲月師とお染さんに聞く

○このところ、ハワイも復古調か、浪花節ブームで弘法寺主催の「浪曲の夕」は、近來にない大入りであった

○四代目、天中軒雲月師は、九州の江戸ッ子（福岡生れ）で、氣前がよくて竹を割ったような氣性、それで佐倉義民傳、宮本武藏、忠臣藏などを得意とする

十五から浪曲入り
雲月師談 私は小さい時から



ら浪花節が好きで、十五歳の時、唐津出身の初代天中軒雲月師匠の弟子となつた
○初代雲月には三十人ぐらゐの弟子がいたが、私もはき掃除からゾーキンかけをやる小僧から叩き上げられた
○修業時代は苦しく、雑用ばかりやらされて、毎日四、五時間しか眠る暇がなかつた
○私らの時代には、一人前になるには、十年かかつた、一年や二年で一本立ちになつたような顔をしていても、どこかでポロを出すものですよ
○終戦後、一時浪曲は下火だつたが、復古調の波に

若い女座長のお染さん

乗つて、このごろはテレビに、放送に、レコードに、なかなか盛んである
○現在、第一線に立つて活躍している一流浪曲師は二十人ぐらゐで、三代目の伊丹秀子さんは、既に引退して名古屋でバーを経営しており、家庭の主婦におさまつてゐる
○私は米大陸やハワイで浪花節の盛んなのに驚いてゐるが、日本も日本精神があるかぎり浪花節は滅びないと思つてゐる



○美聲で名調子のお染さんは、雲月師に劣らぬ人氣を博したが、それもその筈女座長として十カ年間も活躍した女流浪曲界のホープである
三門お染談 私は東京生れですが、少女時代から浪曲好き、特に虎造先生の「森の石松」が大好きでした
○それで虎造先生に弟子入り希望しましたが、残念ながら許されませんでした
○十八歳の時、本郷にあつた三門博師匠の宅を訪ねましたが、その頃まだ先生

は北京に抑留されておりました、お留守でしたが、お母さんが私を試験して入門を許して下さいました
○その後、先生が復員されたので、指導を受けましたが、私は運よく三年で一本立ちになり、先生のお引立てで若いのに女座長になり、巡業することが出来ました
○三門先生は藝の指導はきびしかつたですが、他のことは大變理解のある方です
○しかし、私は若い女座長になつて、いろいろ苦しい體驗もしましたが、反面楽しい思い出もあります
○主人は浪曲作家で虎造先生の「次郎長傳」など書いています
○勿論、海外旅行は今度が初めてでしたが、とても

いゝ勉強になり、一生の中最も楽しい思い出となるでしより
寫眞は雲月師とお染さん

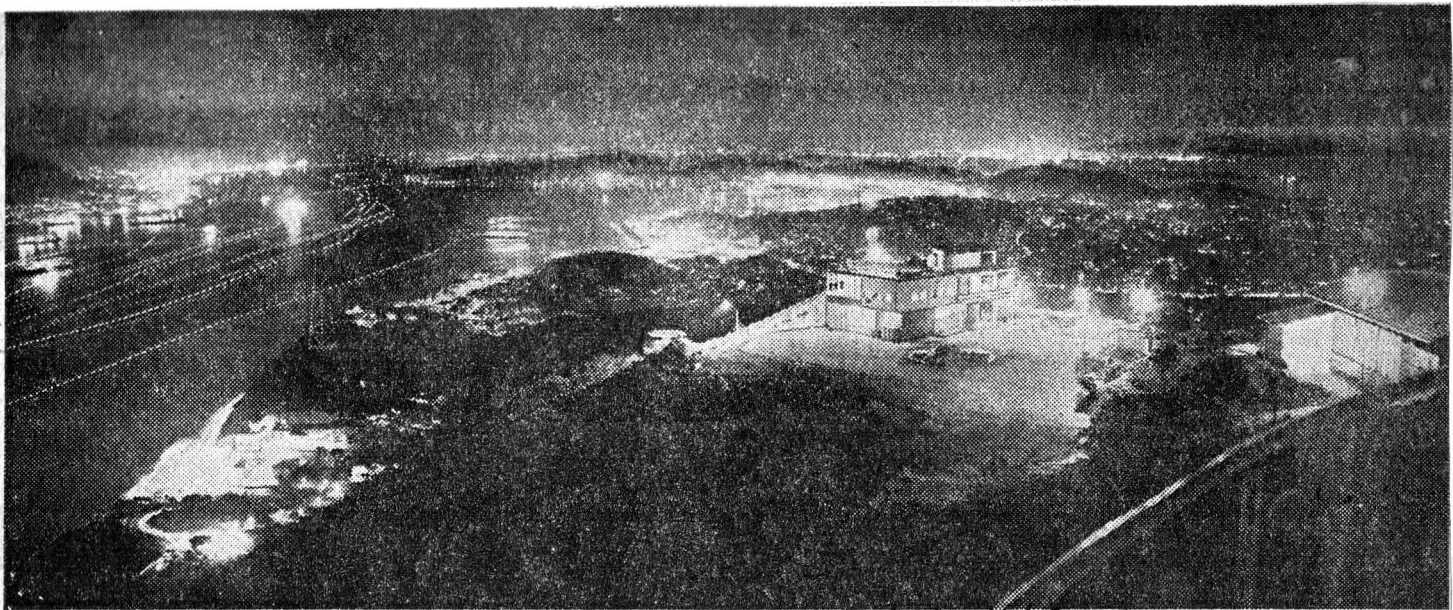
天中軒雲月一行の お名残興業は明夜

25
Sept
1962



たしと（寫眞は天中軒雲月
師）

當市ならびにマウイ、カワイ兩島で絶讃を博した天中軒雲月師一行のお名残興業は明二十六日（水）カワナナコワ校講堂で同夜七時半から催される
入場料は大勉強のドル二
十五仙（タキス込め）であ
るから一度聞いた人も又ま
だ聞かない人も是非御來
場、浪曲の醍醐味を味われ



『百万ドルの夜景』を誇る関門海峡

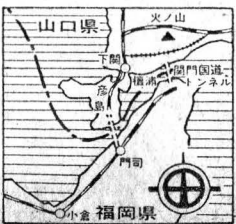
(下関市の火の山の展望台から写す)

内海散歩

13

いはん狭いところで七百坪の距離、潮流の速さ八分の関門海峡は、大河の流れのようだ。関門国道トンネルの開通以来、関門は「真都市」の悲哀を味わっている。しかし、濠洲漁業の基地、また商港としての王座はゆるがなない。海峡を行きかう漁船や商船が一日約四百隻にもおよぶ海の銀座だ。つい目の前を、大型船がはらにしみ通るような霧笛を響かせながら横切っていく。

下関市が「百万ドルの夜景」と宣伝する火の山のロープウェイから関門を見おろした。赤、黄、青の町の灯が、宝石をまき散らしたように輝きながら、海峡いっぱいこぼれお



関門海峡

ちていた。八月だけで十二万人前後の観光客が、ここを訪れるだろうという話。

ところがことしは、いつからでも、千トンの貨物船二隻が衝突事故で沈没し、四百件もの海難事故がこの海峡で起こった。潮がひくと沈没した船のマストが姿をあらわす。とはいえ北九州を含む西日本地区一帯の工業発展、外国貿易の拡大などともなつて、関門を通過する大型船舶の数がふえてきた。文字とおり国際港に躍進しようとしているわけ。

海峡を水深十一メートルまで掘り下げ、大型船を通過させる関門船舶整備事業や、岸壁、上屋を建設する関門港整備、さては海難を防止する波止め工事などの開発計画が、目白押しである。

「観光と経済開発がいっしょにできますヨ」――福山下関市長の意気は盛んだった。

【コース】広島―下関(汽車) 7百60円
▽関門国道トンネル(所要時間13分) 10円
▽火の山のロープウェイ(往復、おとな80円、子供40円) ▽水族館(おとな70円、子供30円)

Sept 18
1962
西己所



【百十三】
美空抑留所
鴨が葱を背負つて来る【19】
或る霧の深い夜であつ

た。何萬と思われる鴨の大群がキャンブを通過した。それがバラツクの屋根すれすれの低空で、しかも約三十分間も續いたのでその鳴き聲や羽音は實にもものすごいものであつた。

明くる朝に成つたら、キャンブの所々に、鴨が落ちていたので、それを拾つた人々は大喜びであつた。思わぬ幸運にぶつつかつた時のユーモラスな形容に詩に『鴨が葱をしょつて来た』というのがあるが、葱こそしょつてはいなかつたが、鴨がインターニーのバラツクの庭に落ちていた。など、ほゝ笑ましい事件で

はあつた。

舞のバラツクでは、前田龜太郎老牧師が、朝起きなので一番先に見つけて一羽拾つた。私たちが『ウマイことをしましたね』と言うと牧師はしかつめらしく『神が我等を饗み給いて、天から下し給つたのですよ』と冗談を言つてみんなを笑わせるのであつた。

この鴨の群は、餘りに大きな群で、それが霧の中をヒドイ勢いで飛翔した爲に電線や風呂場の煙突へぶつつかつて即死したのであるようだ。

ヤキマ・アツブル

ミゾラで食つた物で最もうまかつたのはヤキマ・アツブルである。ツラウトもうまかつたが、果物好きの私にはヤキマ・アツブルの

味ときてはこたえられないうまさで、今だに忘れられない。

二三十年前、ニューシラードから、赤くてちよつと酸味のある果肉の軟かなうまいアツブルが輸入されたことがあるが、どういふわけか其後は輸入されない。ヤキマ・アツブルは、色は濃紅で形は長めで、ニュージランド・アツブルに似ているが、もつと大きくて甘くて軟かい上に果汁をさぶさぶするほど含んでいるからすばらしい。

しかし、月にむら雲花に風で、このアツブルは實にイタミ易い。ちよつとしたキズがあつても二三日経つとそこから腐りはじめる。だから、ヤキマからミゾラへ汽車で送つて来るのも、箱へ入れたまゝ監をせず

送つて来るのである。そんなふうで、折角の美味なアツブルが熟しても其地方の者だけが恩典をうけるのみであるのは惜しいことだ。

このアツブルを強くするために専門家が研究したとみえ、ホノルルへも、見かけは同じようなアツブルが来るので時々買つてみるが、果肉が硬くて水氣と甘味が足りない。

毎年アツブルのシーズンになると、果物店の店頭に美しくかざられるので、ついひかされて買つて見るが、まだまだ本場の本物の半分味の味もないのでガツカリさせられるのである。

日光と風土の力で生み出す微妙なる造化の力には、まだ人力は追いつけないようだ。

Sept 15 1962 配所 古屋翠溪

美空抑留所【18】

陽が家の四方を照らす
私は日本から布哇へ渡つて来ただけで、他の變つた國へ旅行したこともないからインターニーと成る迄は異常なる天然現象に遭遇したことはなかった。

ウイスコンシン州のマコイ館府では、實にすばらしいオオロラを見て驚いたことだが、ここでは極光は見る機會を得なかった。
茲の緯度は北緯四十八度何分であるから、樺太の本領とロシア領の國境線の邊である。

シベリアの北部やアラスワのポイント・パロー邊へ行くと、夏季には、白夜と呼ばれる、夜の無い現象が二カ月以上も續くとのこと



だが、この邊では、そのようなことはないが、晝が長くて夜が短く、太陽は家の四方を照らす、という珍現象を呈するのである。

私達のバラックは長屋式で、東西百十呎南北十八呎ぐらいで南向きであつた。朝は朝日が北側を照らし、夕方になると、その太陽が再び北側を照らして山に入るのであつた。

地球が圓いということは私達の常識になつてはいるが、具體的にそれを見ることは出来ないの、實際はなかつた。しかし、こうした現象の中に身を置くと誰でもそれを納得せざるを得ない。

冬になると、夏の反對で夜が明けるのが午前九時頃で日が出るのが十時であつた。

た。そして、日が暮れるのが午後五時であつたから、夜が十六時間で晝が僅か八時間である。

だから、バラックの南側の日當りのよい所へ洗濯物を干しても一日では乾かないしまつた。

地勢の關係上、寒さは甚だしくはないが、それでも寒暖計は零下七度ぐらいに下ることもあつた。

日によつていろいろであつたが、平均して最低温度最高二十五度ぐらいであつた。

それでも、風が無いのであまり身にはこたえないので、太公望連中は、寒中にもかかわらず一回も休まず魚釣りに出かけた。

今から考えれば、よくもあんなことが出来たものだと思ふ氣がする。もつとも、その頃はみんな元氣で、氣持も緊張していた爲であらう。

化学研究十話 (二)

なわれたことあり、現在の技術交流もまた同じことである。

うにやみ伝えられたが、その質は脆弱(ぜいじやく)であつた。これを推古天皇の摂政聖徳太子が、わが国在来の楮皮などを原料とし、灰汁で煮る改良法で繊維とし、植物粘質物を加えて抄造する独特の方法を開発されたと伝えられている。わが国古代の和紙が、伝来した技術の改良により世界にまれな耐

久性に富む紙である。わが国の製紙術は、推古天皇十八年(六〇〇年)に高麗の僧曇徴(どんしやく)により伝えられたが、その質は脆弱(ぜいじやく)であつた。これを推古天皇の摂政聖徳太子が、わが国在来の楮皮などを原料とし、灰汁で煮る改良法で繊維とし、植物粘質物を加えて抄造する独特の方法を開発されたと伝えられている。わが国古代の和紙が、伝来した技術の改良により世界にまれな耐

わが国民の頭脳が、科学技術の研究で、欧米人に比べて劣ると考へるものは、現在ではもはやないであつた。またわが民族が模倣の国民であるとの考へ

るが伝来した若の技術は、改良されて日本技術となつて進歩した。このほかに古くから進んでいた日本民族固有の文化や技術があつたと考へてはならない。とかく西洋文化の吸収に余念がないあまり、奥深い根柢をもつ日本文化や技術

わが国在来の楮皮などを原料とし、灰汁で煮る改良法で繊維とし、植物粘質物を加えて抄造する独特の方法を開発されたと伝えられている。わが国古代の和紙が、伝来した技術の改良により世界にまれな耐

初めて化学専門の日本人が明治初期の東京大学の教授として任命されたのは、明治十三年の松井直吉博士および明治十四年の桜井鉦二博士であつた。いまから約八十年前である。明治十九年に帝國大学令が公布され、最初の總合大学として東京帝國大学(今日の東京大学)が生まれた。本格的な化学教育は、ほぼこれらの時代から始まつたと考へられる。



カット・近岡善次郎

日本文化と化学研究

田中芳雄

Sept 22 1962

もいまでもいふ去らなければならない。

わが国は、極東の海上に孤立していた島國であり、そのうえ、長い間の鎖國があつたため、それまで目をささいでいた遅れを取りもとそうと、明治時代以後において急に欧米文化の吸収に努めたことは当然である。これをもって単に模倣と見るのは当たらない。このようなくは欧米の國々においても行

を、わが国民自ら忘れがちなことになる上に反省をうながしたい。ここには日本文化の一部として古い技術に関する例をあげる。

一九一九年、ベルサイユにおいて第一次世界大戦の平和条約が結ばれた。その時、条約文を永久に保存するために選ばれた紙は、実に日本紙(鳥の子紙)であつた。それはいまから千三百余年前に聖徳太子が改良された楮(こうぞ)・雁皮(がんぴ)などの

一九一九年、ベルサイユにおいて第一次世界大戦の平和条約が結ばれた。その時、条約文を永久に保存するために選ばれた紙は、実に日本紙(鳥の子紙)であつた。それはいまから千三百余年前に聖徳太子が改良された楮(こうぞ)・雁皮(がんぴ)などの

また日本刀は世界の逸品とされているが、これも伏見天皇の時、岡崎五郎正泰の独特の技術によつたものに始まる。わが国の絵画、版画、七宝、漆器、陶磁器、金工、彫刻、古代建築なども世界に誇る技術の優秀性を示すものである。

これらのすぐれた技術は、長い経験と努力の結果として生まれたものであるが、それがおのずから今日の科学に合致していることは驚くべきことである。このほかに明治前において数学、医学、薬学などにも相当に進歩していたことが記されている。

明治以後においては、これらの日本文化の上に、西洋文化を襲へ、さらにそれを愛護(りやうが)すべく努力しつつあるのである。

初めて化学専門の日本人が明治初期の東京大学の教授として任命されたのは、明治十三年の松井直吉博士および明治十四年の桜井鉦二博士であつた。いまから約八十年前である。明治十九年に帝國大学令が公布され、最初の總合大学として東京帝國大学(今日の東京大学)が生まれた。本格的な化学教育は、ほぼこれらの時代から始まつたと考へられる。

明治、大正、昭和と時代が流れ、各地に大学が増設され、多くの研究所や学会、學術振興団体が生まれ、化学研究は急速に進んだ。ここに高分子化学や石油化学の発展はめざましく、これらは化学実験設備や研究方法の革新、分子構造や電子論のようない理論の導入などにより促進され、輸入技術の改良、國産技術の輸出にまで及んでいる。このため産業は急速に、最近十年のわが國經濟規模の成長率は世界第一位に達した。(東大名教授、題字は筆者)

化学研究十話

(十)

私が東京帝国大学（今の東京大学）の応用化学科を卒業したのは、明治三十八年（一九〇五年）で、いまから五十七年前である。この時代のわが国の化学



カット・近岡善次郎

学工業はその種類も少なく、規模も小さかった。また私どもの研究室の設備も貧弱で、ふつうの実験器具も薬品なども、多くはドイツに注文した。文部省からの予算もごくしく、研究費という費目もなく、学生の実験費をさいてわれわれの研究が行なわれた。このような不便な時代でも、助教授や大学院学生などの盛んな研究熱と、和氣にみちたふんい気のうちに研究が進められていた。私に二年間のアメ

リカ留学をおえて大正六年 急速に忙しさを増した。陸海軍や官公私多数の委員会で研究の連絡会など學術上の立場から協力しなとなり、大正八年に新設されければならなくなったからである。私は当時いくらかの研究の場をもっていたが、それはもはや戦前のような自由な研究の場ではなかった。しかも交通は次第に混乱し物資はやがて不足するようになった。また昭和十八年の末期には研究から見て次第に戦局不利の様相が見え、さらに十九年から二十年に及び敗戦の色が濃くなった。そのためいろいろの緊急

戦時と今後

田中芳雄

Sept 1961

して私どもの研究も急進した。私は昭和十六年三月に定年を退き、研究に従事すると三十二年に及んだ。私生活は自由な化学研究に費やした幸福を心から感ずる。ところが私の退職した昭和十六年は金洋戦争の始まった年で、十二月八日に宣戦が布告されたのである。わが国が莫大（ばくだい）な物資を消耗する近代戦に突入したことは、当時わが国の科学技術に、大なる重荷と犠牲を加えた。私の身辺もまた

間に一方には大会や研究機関の設備などの地方疎開が行なわれ、また研究者も被災などのために減りつつあった。ついに八月六日及び九日における原子爆弾投下の大惨事となった。あわただしい戦時研究のすべは、ついに八月十五日の敗戦決定の日に終わりをげた。この日の正午、戦争終結の陛下の御放送を全国民は深い感慨をもって耳にした。精根をつくした研究者は涙をのんで聞いたであらう。戦争におけるわが国の化学研究は、工業化学会（いまの日本化学会）編集の「最近十年における本邦化学工業の概観」（昭和二十三年出版）及び日本ゴム協会編集の「ゴム技術の十年」（昭和二十四年出版）に集録されている。われわれの経験したような戦争と戦時研究は、今後再び起こらないであらう。それで産業の競争は一層はげしくなる。敗戦の廃墟（きょ）から立ちあがったわが国の学界および業界の急速な躍進は驚異的である。主要な大学は規模の拡大と内容の改善とともに授業本位から研究本位に移りつつある。国民の大研究所も新しい設備と構想において研究を進めている。ことに輸出・産業の主軸をなす化学工業は、われわれの衣食住に直接に結びつき、他の産業に原料を供給するものである。その基礎をなす化学研究は、いまも導入技術を改良して新しいノーハウ（事実情報）を創造し、さらに国産技術の開発にまき進んでいる。これからの化学研究の方向はきわめて広く、かつ深い。（おわり）（東大名義教授、題字は筆者）

自慢十話

(一)

放逸無慙八十二年 一口吞却沙界大千
うきこともつれしき折りも過ぎぬればただあけく
れの夢計りなる



乾山の辭世である。乾山は寛保三年（一七四三年）江戸本所の陋（ろう）に居て死ぬ。妻も子もなかったという。酒井抱一は「乾山遺墨」の「あとがき」に「乾山の墓碑をも尋ねるに其の処を知るものなし。年を重ねて京師の人に問ふといへどもさらにしらず。此年（注、文政六年、一八三三年）十月計らずして白筆子伴が茶室に招かれて其の話を聞く。深谷（注、乾山）が墳墓、手植草庵のかたはら飯

(一)

麓(注、上野の山)のふもとこの
營養寺にありといふ。日を待た
ずして行きて見るにそのことの
如し。摩(ちり)を払い水をそ
ぎ香花をなし真庵に帰り「乾山
の遺墨をかねて写しておいたの

る。しかも、その真贋（か）に争ひの騒ぎによつて、乾山の名が一世に喧（けん）へた。佐々木は、あるいは怪我の功名の「造福」、乾山の藝術がさらに広く愛賞され、さらに高く評価される機縁となつた。新発見の佐野乾山は真偽を議論するものばかり、明らかな「二セモノ」であるけれども……。

いわゆる「新発見の佐野乾山」を、「二セモノ」と見る私の印象は、極めて簡單明白である。絵が悪い。

描きまへたとしても、さらに深酔するか目をつぶるかして描きまへたとしても、乾山ほどの人には、こんな劣弱粗雑な絵では描かないのである。そのような情態で描いても、その多作家に宿つた魂と手とは失えるものでなく、筆に出ないではない。これが荊蜀家とつづのである。「新発見の佐野乾山」に「あつたやうに、乾山も荊蜀家もなかなかに、一見つ明かであらう。

佐野新乾山

aug 2
1962

川端康成

十有二年(注、後)なるもまた奇なり」と書いて
いる。やはり「乾山遺墨」の「あとかき」に「ある
年、洛の妙顯寺中本行院に光琳の墓あるを聞き其の
跡を尋ぬるに、墓石倒れ虧(か)く……」と書いて
いる。

——乾山の死後二百十幾年後の今日(このころ)乾
山が佐野で作という陶器、三、四百もの新発見は
「また奇なり」といふでない。妖(まじ)く怪事であ

書が悪い、値々として、品物が卑(いや)しい。器の形も悪い、こゝで悪いというのは、乾山のものとはちがう、乾山の二セモノであるという意味よりも強い。乾山であるかないかより、それ以前の否定である。つまり、たれの作であつて芸術品として「悪い」のである。相当の芸術家であれば、こんなものを作るはずがない。老年の乾山が佐野にいた二年ほどのあいだに、かりに頭がおかしくなつていて

く、写真でもわかん。新聞雑誌に写真が**出**はじめたころ、私は乾山にあるまい、いやさう来て、その写真の絵の、こゝが**い**けな、こゝが**お**かしいと、一線一点を指摘してゐる、**さ**でも悪く、結局、その絵は消えてなくなつてゐた。書について、も、一字一字の悪い箇所を指摘していると、字がなくなつてしまつた。当然である。

(作家・芸文院会員、題字は筆者)

(作家・芸術院会員、題字は筆者)



回想十話

(九)

いまでも青雲の白雲を愛する風流心はやまない
が、論語を讀んだ志士の十有五蔵のころには、大臣

莊にも、晩春のある時に、園遊会に招かれて、伊藤
春圃伯の瀟灑かつた風情に接し、まのあた

の九代目十郎劇を見物に出掛けたり、沙翁の影響

において、また若かった種福さんや
坂谷さんたちのお話を聞いたり、
青洲先生(自身)、やはり論語し
こみの朗話をうかがったりして、
なおまたその王子の別荘の愛依村
レットに心中であつて、紅葉や露伴、やはり旧幕

を榮譽と思つたらしい始末で、封建時代の遺風が残
留してゐたものとみられよう。
私が佐原の漢學塾にやられる少し前には、義兄の
夢界外斎(三千蔵)は、上海に遊學することであ
つて、蘇州に當時儒學の門戸を開いて、清國末期の名

流として聞こえ、本邦にも當時あまゝ知られた余
曲園先生の講義にも列したが、その送別会を父が江
東の芥思塾跡の広間に催した際にも、円朝の落語を
余興として賓客に聞かせた。それらは明治二十年代
以前の遺風であつたのだ。

カット・沢 宏 朝



青雲の志

新 村 出

aug 28
1962

になつて見せることを談話したものだ。そんなバカ
げた夢想をしてから、はや七十年をすきてしまつ
た。夢だ、夢だ目醒(めよめ)するもの古いが、
あのころは、立身出世の夢を見つ、伊藤博文など
を仰ぎ見て前途をのしんだものだ。それに旧幕系
統の出身で、義父が知遇の縁にも浴した関係によつ
て、毎月一回、カフト町の政治家の事務所の前上

り、その元氣はつらつたる回顧談に魅惑された思い
出もいまなお消えぬ。それは一高の二、三年生のこ
ろのこと。その後、何年になつたかおぼえないが、
淡沢翁が慶喜公にまみえるため静岡に西下し、大東
も見物にいったが、明治の二十年代には、五十銭か
一円で、大同寺や平土園で見物ができたからだ。
それに当代の遺風として、実父生存中には、団十郎
の蘇遊は大正八年秋のこと、それらの遺蹟をもう余
裕がなかつたのは残念だ。

(京大名誉教授、題字は筆者)

やわらかき

湯気に身をおくわれもし
今宵おぼろの月影もよし

(久条武子)

宵きつとみなさまの旅の疲れをい
やしてくれることぞいまいしよ

脇、観音寺からなり、旅館は大小
とりまぜて約六百。湯量は一昼夜
に約七万二千リットルに達し、米国の
イエローストーンについて世界第二
位の位と称している。海上、陸上とも
に交通の便はよく、とくに別府へ
の船旅は旅情豊かでロマンチック
なムードが漂う。

コースとお値段

形相が観光客のドギモを抜いてい

コースとお値段

Aコース―地獄めぐり大人一三

〇円(地獄入場料金二〇〇円)小

人一三〇円。Bコース―地獄と高

崎山、大人一九〇円、小人一七五

円。お問い合わせは、別府・北浜

亀の井バス。TEL2350(文

と写真・剣持加津夫)

つぎ、柔
しい自然
動物園と
なってお
ります。
このさる
かわいものだ。
別府のもう一つの見どころ
の動作は
観光客を
笑わせ、
非常にか
わいもの
です。
無気味な見ものである。卵を
一瞬にゆでる海地獄、バナナ
は別府温泉の温泉栽培や、ワニの養殖を

山は高
崎山と
申し、
標高六
二八
万寿院
△型の
たドー
き出し
りと突
府湾に
こども
さいま
せ。別
温泉は、

わく豊富な湯量と温泉情緒は、今

旅情豊かな温泉郷

バス・ガイド風土記

別府の巻



沖に高崎山をのぞむ別府の海岸

July 22
1962

回想十話

(一)

だれしも多少の苦業を感じるわけだが、自分も自
著や回想の題名を付ける場合は、専門からでもある

嶋夷(えぞ) イソツツシ・沢 宏朝



か、とかく迷って困る。こんな場合でも、先達諸
兄の前例をしいて、無益な詮議(せんぎ)に
落ち入り、自分の、ことに老人のくせとして、あ
ちこち悩みに悩んで、愛語十話と題しようかと思つた
り、流水十話行けようかと、行雲流水とか、山紫
水明とか、の何れにちなんで見たり、自己の回想十
語を、いさゝか平凡に試みようと思案したり、とつ
おいつ、寒しみ半分に迷つたもんだ。申さば、
老閑生の、無用の用を愛するあまりの自己陶醉に安

んじたが、さてそのカイコの
コ漢字が、昨今の法度
制限令に触れようかと反省し
て、語感もよろしいので、つ
いに回想と決定した次第。し
かるところ、おもしろい偶然
なる因縁なしとはされまいが。

て、かくも迷悟の間にさまよつてついでに、
旧交ある池本水也翁から、その自述伝めいた快適な
近著に接した。その自序や後語においても、書名の
選択に関して多少の悩みを感じられたあげく、回想
たしが「出世」なる熟字とした二枚を某東洋学者か

命名の興味

新 村

出

Aug 17
1962



受けた御道(ごどう)の好影響だと感謝せざるを
えない。儒教や仏教から受けた感化ではなく、明ら
かに先天後天に伝承した自分の自己批判の結果にほ
かならない。徳川時代中期に京都におこり、江戸に
伝来した心学道徳のさらさら何歩かを進めた自己陶
治(とうや)の修身術なのである。

主張の高姿勢あるにあらず、評論の明快痛切ある
にあらず、懺悔また反省、自己心境のはくつに終始
するかも知れぬ。消極的な低姿勢の十話、あるいは
淡路、筆者自身は、ギリシャ哲学、ないし神聖の
概観、それらから伝承せる名詞金言「汝(なんじ)

としようとか、謝恩と題しようかと省みられな
らうとして珍重した。しかし、内に自ら省みて恥
気をも感じないわけにはゆかない。むしろ世間
を新顧すべき老境の修行としては、そんな心地がす
る。何かにつけて、とかくそんな自省心が起ころの
が私の性癖である。先天的でもあつていまさら仕
方がないが、学修上からの感化に基因することを自
覚し回想する。

省みれば、自分の一生が、平々凡々に一過しつつ
あるのは、むしろありがたき幸福だと清々感謝して
やまないが、いまわが八十年間の生涯を回想する
と、何らの奇抜な山がない。地方官の役人たる生
父が、私の出生の由来に従つて、山形と山口との二
これは推察するところ、幼少時に養父の秋田翁から

を受ける愛慮もないではないけれども、古来の賢者
の語録や自省録や懺悔録の類の読余の末端としてで
も参考の資ともなりうれば、筆者の感謝がさること
である。

ただ心配になるのは、元来保守性の筆者として
は、昨今の国字漢字の制限規定の法網をくぐつて表
現上に不如意を感じるの余り、意味の不徹底を生じ
たおもむきがないではあるまいことである。温故
知新や知新守舊の古語がますますなつかしくなるは
かり。

(京大名義教授、題字は筆者)

化学研究十話

(九)

昔は「六十の手習」という諺のとおりであった。今日では寿命が延びて七十になっても元氣よく



カット・近岡善次郎

く、いろいろの余技などを始める人がいる。七十才以上でも研究に執着し、あるいは學術に、または芸術にすぐれた人も多い。大学や一部の実業界にも定年制の内規があるが、人により定年前に勤務能力の減耗する人もいる。何れにも例外はあるとして、人には定年があることは正しいであらう。されど研究には定年がないことも正しい。

定年でやめても他の方面に活動する人も多い。このような人には定年は問題ではない。また定年になり余生の活力を趣味に向けて生きる人にも、定年は問題でない。これらの人は、いずれも元氣があり、また長寿である。結局頭脳を適度に、かつ愉快に使うことにより心身の老化を防ぎうるからである。

研究と定年と顔

田中芳雄

Sept 10 1962

頭脳を愉快に使うということとは、その対象物が自己の専門の科学的研究であらうと、芸術的趣味であらうと、それが自分の好む方面なら同じである。自然科学の研究に熱中している老学者は、一般にその研究を愉快にやっているものであるから、外から想像するほどに苦勞しているものでもなく、また感心するにもあたらない。しかし時には心の転換やレクリエーションが必要のことがある。自然科学者のその人の健康や寿命の判断がつくといった。アラ

中には、本職とまったく異なる方面、たとえば小説、和歌、俳句、漢詩、音楽、舞踊、絵画、園芸などにひいては才能を持つ人がいることに驚かされる場合が多いが、こうした関係によるものであろう。私の知友で油脂化学の著名な学者がいる。漢詩をよくするほか、舞踊の名取であり、また日本舞踊協会から表彰されたことは、よくに珍しい。その人はいまは老齢で、いまだに大学で油脂の研究を指導している。

ハム・リンカーンは「四十才以上の人は自分の顔に責任がある」といった。今日では寿命が延びたから、六十才以上になってその人の歴史が最後の顔を造り、その後の活力が最後の顔の持続性を示すものと思われる。大学教授が定年で退職する時の顔は、いずれも元氣にあふれている。これは長年の研究を築き、また若い学生に接していた顔図ともいえる。

月給の報酬として研究に従事するようになった人の中には定年制の必要があろう。なぜならば、このような人には研究に対する興味がわかない。興味がなければ執着も起らない。このような研究には輝かしい成果は期待しえないからである。収入を度外視して研究に興味をもち、これに熱中するような人は現在ではまれであらう。しかし結局輝かしい成果は、このような研究に与えられる。ペンゼンの構造式を解明した有名なドイツのアウトラスト・ケークレは、研究に疲れて家に帰る、ストーブの前でなお考えにふけて眠り、夢のなかでヘビが自分の尾の先をくわえて環状となったのを見て、驚かす。然してペンゼンの環状構造を見出したという。研究に対して疲れた間も忘れない執着が必要である例である。研究においてむしろ少しの壁につきあたることがある。しかしその解決に執着することにより難問を突破しつづけて、そして興味は一段と加わるものである。

(東京大学教授、題字は筆者)

化学研究十話

(八)

工業の発展が一層容易と
なつたのである。また化
学工業のうちでも石油化学
にも関連するようになった。

工業が発展の先頭に立って
いることは、現在において
世界共通のことであるが、
動物油の研究で世界的に有名であつた辻本潤丸博士
が、大正五年（一九一六年）に黒子鯨（くろこじ）
の肝臓に含まれる油から、珍しくも多量の炭化
水素を発見しスクアレンと命名し、これをわが学会
に発表した。しかるにその翌年イギリスのチャプマ
ンが独立に同じ物を発見しスピチセンと命名した。

考えや習慣はまったくないか、またはさうなる淡泊
であつた。一九一八年のフレミング教授のペニシリン
の発見は、その後アメリカで多量に生産されるよう
になった。されどフレミング教授は、自己の発明
による金銭上の利益は一切受けようとせず、ここ
とく彼の研究所に寄付した。一九四五年フレミング
教授は、二人の助産者フローリーおよびカインとも
にノーベル賞を授けたことは当然である。

近年では純化学上の研究成果が工業上に関係をも
つ可能性が多くなつたので、それを特許にすることが
多くなつた。



カット・近岡善次郎

学術上の優先と特許

田 中 芳 雄

Sept 9
1962

基礎の上に築かれてゐる。このことは化学工業にお
いてさう著しく示されてゐる。元素化学工業は、
その国に天然資源が乏しくとも発達しうるものであ
る。それは戦前におけるドイツおよびスイスがその
例であり、戦後においてはイタリアがこれに加えら
れた。わが国もまたその例である。これは戦後世界
の物質が自由に交流するようになったため、化学

変化した今日においては、戦前のさう物質の自給
自足の觀念は、もはや時代遅れとなつた。すべから
ず製品は世界中に行きわたると同じように、すべから
ず技術も世界中に交流する。したがつて技術も製品と
同様に国際経済に重要な関係をもつようになった。
西ドイツのチークラー博士の低圧ポリエチレンの技
術は、世界中に多くの特許となり、祖国ドイツの繁栄
に寄与している。またイタリアのモンテカチニ社
の多くの特許も祖国の経済に貢献している。このた
に熱心であつたが、それについて特許をとるといふ

わが国もまたその例である。これは戦後世界
の物質が自由に交流するようになったため、化学

原力の生みの親といわれる有名なフェルミ博士
は、イタリアの大学の象牙の塔に閉じこもつて
自然現象の研究に熱中してゐた純学者であつたが、
一九三四年十月協同研究者とともに中性子照射によ
る人工放射能生成法に関する特許を出願したことは、
協同研究者の強要によるものであつた。しかしそ
れはフェルミらの物質的利益にもならず、祖国イタ
リアの利益にもならなかつた。かえつてムッソリー
ニ政府の研究統制からのがれて彼はアメリカに亡命
し、アメリカにおける原子爆弾の基礎を置く奇しき
運命に立たされてしまつた。だが原子力の解放は、
一面には原子力発電、その他の新しい応用に進みつ
つある。要するに学術上の優先は、工業上の特許と
密接に関連するようになった。自らの研究により国
産技術の革新を図るべきである。

（東大名誉教授、題字は筆者）

Sept 22
1962

配所



Sept 22
1962

美空抑留所

【20】

ニュース放送 と日本語講座

我々の気分が落着くに随い自治體制も、生活上必需の部門ばかりでなく、趣味的部門も生れた

その手初めとしてニュース放送部が出来た。部員は名古屋からの留學生で新井一雄という青年とヒロの村上實君であつた。

ここに前から居つた伊太利人インターニーはショート・ウェーブのラジオを持つていたので、それをないしよで借りて日本の放送を聴取して、英字新聞に出ていないニュースをも放送するので、全員缺かさず集まつて熱心に聞いた。

マコイ館府では、ニュース放送の前後に歌の合唱をしたが、リビングストンではそれが無かつた。

ミゾラへ来てから、藤井恵さんや更科さん主唱で復活した。マコイ時代には、海の民なら男ならと威勢よく太平洋進行曲を合唱して、祖國日本の勝利を信

じていたが、その熱情も、ミドウエイやコーラル・シなどの海戦後は、身體の中にひそんでいた理性が除々と頭を持ち上げ、表面には出さないが心の底では、日本の勝利は覺えないと、ちよいちよい思うようになつた。

この氣持が、表に現われたと見るべきは、ニュース放送の時の歌が變つたことだ。

太平洋進行曲を歌う時なども、潮と湧き立つ感激のしぶきを上げて海の子が、太平洋に船脚を揃えて進む響こそ、興る亞西亞の雄たけびだ。などと、聲を高くと張り上げて、心のどこかに空虚があるようで、前のような情勢が無くなつたようである。

それからあらぬか、茲へ来てからは、『土と兵隊』や『愛馬行進曲』などを歌つた。しかし『愛國行進曲』だけは、祖國愛の氣持と、その曲の佳さに捨てがたいものがあつた爲か續いて愛唱された。

放送部に續いて教育部と

いう部門が出来た。今迄の他のキャンプの教育部では主に英語の文法や會話、書簡文等を教えていたが、茲では珍しくも日本語のクラスが出来た。

教育部長は久保田佐一郎氏で日本語部の部長は芹澤秀行氏であつた。

生徒は案外多く二三十人くらい集まつて、盛んに勉強した。その生徒の中には小林日種師のような佛教の學者もいた。

ある日芹澤先生が熱心に講義している最中、小林師と芹澤先生の間で議論が始まつた。それは戈という字に、タスキが有るのが正しい、無いのが正しい、という議論であつた。

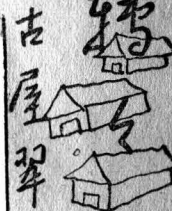
いくら論じ合つても鐵柵内の教室のこととて、漢和大字典のような本もないので果てしがつかなかつた。

物識りの好事家が多かつたので、バラックへ歸つてからも議論され、字典を持つている人々が字典を持寄つて調べ合つたりして、煙ぼりは續いて、次の日の學課の時も此問題が持ち上つて議論に花が咲いた。

この論議は、當事者は眞剣であつたが他の人達是不謹慎にも野次馬的に傍觀していた。

配所

転



古屋翠深 Sept 12 1962

美空抑留所

町へ買物に出る

北國の夏は、木の葉や草花の色が鮮かで、まことにすばらしいが、それも束の間で、あわたしく秋になるのであつた。

一日、みんなの特別注文の品を仕入れるためにガードのズライブで美空街道を東に向つて進んだ。

街路樹の並木は、全樹が黄金色になつて、路一面に散り敷いている。それはクタイの葉のような形の手のひら大の葉で、豊かなる秋といった感じが横溢している。

そのトンネルのような並木路の正面に在るミゾラ大學の後の山腹に大きなMという字が浮き刻りになつていて、この路がその大文字へまいる参道のような感じを與えるのである。

京都の東山三十六峯の北端に在る如意ヶ嶽は、通稱大文字山として名高いが、この山の『大文字』というのは、八月十六日の夜、宗教的のならわしで、大きな大の字の施火をする行事で有名であるが、このミゾラのMの『大文字』は、そのようなるおいのあるものではなく、實際的の必要からであるとのことだ、つまり飛行機からの目印のためである。

いずれにしても、町の後の山の中腹に、Mの大文字がはつきり見えるのは、ミゾラ市の紋章のようで、風景を損ずるものではない、アメリカ風に見れば、むしろ美観といえる。

ミゾラ市は、町の中心を横断しているセント・レギス川に、橋が幾つも懸つていて景色を調べている。市の入口に珍しくも枝垂れ白樺の大きなのが一本あるのが印象的であつた。町の中心に、ミゾラ・マ

ーキャンタイル・コンパニーという大デパート商社があつた。

この商社は他のデパートと違つて、布地、洋服類、化粧品、美術品、薬品、食料品、農具、スポーツンググッズ等々有りとならゆる品を賣つてゐる。

珍しいのは、スポーツング・グッズ部の壁や柱に熊、バッフロ、鹿、狼、猪、貂、等の剝製が掲げてあり、それを捕獲した人の名を刻込んだブラツグが附けてあつた。

婦人部には、ズレスや帽子其他のアクセサリが美しく飾つてあつて婦人客が賑やかに右往左往して、どのデパートメントよりも繁昌していた。私達が抑留された爲に精

神的にも物質的にも肉體的にも一番苦難しているのは各家庭の妻たちであるが、それを慰めるのは手紙を書くほかなかつたが、私は茲で氣のきいたズレス地を見つけたので、値段も聞かずに三ヤード半ほど買つて、直接家へ送つて貰うことにした。

そのバケージを造るのを見てゐるうちに、妻が喜ぶ有様を想像すると共に自分のこの行いに自分が感激して目頭があつくなるのであつた。

今迄は子供等の誕生日などに何かちよつとした物でも送りたくても、キャンテンでは賣つていないので送ることは出来なかつたが茲には適當の品があるので四五點買ひ込んだ。それから、これを小包にして送ることが出来るので倍も濃霧が晴れたような明るい気分になるのであつた。

Sept 28
1962

裏オアフ回顧(三)

五十年間の變遷

カネオヘ 若本 義一

ヌアヌ・バリは昔は谷間傳いに辛うじて人間が通へしものだと聞くが、斷崖に曲りくねつたバリ道路が出来たのは今から百二十六年前の、一八三六・七年頃だと傳えられる。然しその當時は乗馬では危険なので、馬を引き歩いて越えたというものである。

このバリ道路も去る一九五七年五月十一日、ヌアヌ第一トンネルの開通式を行つたが、工費三百万弗と一年九カ月を費して日系人土木請負業、ゼームス田中政人建築會社によつて完成された。續いてヘヤビン・タインからカイルアとカネオヘジャンクションに至るまでの四レーン道路も、同じくジェームス田中氏の手で完成したものである。

パリ新道路の開通により一日の自動車交通量は一万五千台と云われ、バリの交通地獄が大いに緩和されるに至つたのである。

一方においては、總工費一千五百万弗と云われるウイマナロ・トンネル大工事も完成し、カリヒ側に四十數万、カネオヘ側に五十八方ドルをかけた立派な道路も出来たし、一九五八年にはバリ・トンネル連結のホノルル側道路が出来上り、いよいよ裏オアフとホノルル間のハイ・ウエーが完成した。

以前は自動車で片道一時間以上もかかつたものが、僅か十五分か二十分でホノルルに達し、三十分もあればホノルルの何處へでも行ける時代となつた。

ヌアヌ及びウイマナロ二トンネルの開通により、カネオヘ並びにカイルア地方の發展に拍車をかけただけではない、裏オアフ一帯の開發を助長している。

これで裏オアフとホノルルを結ぶハイ・ウエーは三本になつた。バリ・トンネルに續くカメハメハ・ハイ・ウエー。ウイマナロ・トンネルに結ぶリケリケ・ハイ・ウエー及びワイマナロからココヘッド經由のカラニアナオレ・ハイ・ウエーがそれである。

ワイマナロ製糖會社は一八七九年即ち八十三年前の創立であるが、爾來發展を續け戦前十カ年の平均年産額は約九千六百噸内外であつたと云うことである。

一九二二年には新製糖機械に据え替へて、小さいながらも布哇最初の新式機械として誇つていた。(續く)

ワイマナロ 6 耕地の變遷

まづ順序としてワイマナロ砂糖耕地の變化を追つて見ることにしよう。

ワイマナロ耕地には制糖場があつて、當時の耕作面積は約三千エーカーあつた。労働者はミール(製糖場)と耕地労働を合せて約三百人、殆んが日本人と云つてよい程で、他に支那人と比島人が少しいた。

ホノルル市改善に付 根本的な要点を力説

Sept 28
1962

W・スレイトン氏

ブレイズデル市長 主催の「都市改善會議」はきのうプリンセス・カイウラニ・ホテルで開催されたが三百有餘名の出席者があり、ホノルル市今後の改善方法に關する諸氏の意見を傾聴しまた有意義な質疑應答も行われた
本會議に特に招聘されワシントンから來布した連邦都市改善局長ウイリアム・スレイトン氏は基調演説で次のような意見を述べた

企畫は廿年の後を考慮

「ホノルル市も全米一般の

都市と同様に古家屋區除去新地區建設の問題に直面している
ホノルル市の擴張を何處に如何にして行うかを先ず決定せねばならぬ、そしてその決定と實行を可及的速かに行わねばならぬ、そしてこの企圖と實行にはビジネス界、政界兩方面の指導者たちの協力、協調が必要である、企圖に當つては目近のことばかりに迷わされず遠き將來を豫想して大きく計畫することである

下町改善と住宅區開發

ホノルル市に就いて具體的に言へば、中央ビジネス區域の改善は現状でなく今から二十年後の市の人口、自動車數、交通システム等を見積つて企圖すべきである而して下町は單に商業のみの區域でなく文化と娛樂の地とせねばならぬ
次は激増する人口を如何なる地域に、如何なる形で配布するかの問題である、そして凡ゆる經濟階級の人を考慮せねばならぬが、特に中流所得の家族によき住宅を提供することを考慮せね

ばならぬ、現在下流所得の者の住宅區を中流住宅區に改變するのは容易ではないが、これは出来るだけ努力すべきである

住宅規則と交通の問題

次に適當な住宅取締規則の制定が必要である、全米中約六百の都市は既に住宅取締規則を制定して好結果を収めている

次は住宅と交通の問題であるが、これも遠き將來を豫想して企圖せねばならぬ、個人の自動車のみでは不足であるから大衆を運搬する公共運輸機關の改善を企圖すべきである、次は市の文化事業の問題である

特に實業家の努力切望

これらの企圖實行には多額の費用を要する、これには

第一に連邦補助金を利用し第二には新課税法を制定せねばならぬ
私は都市改善實行には特にビジネス界指導者の活動を望みたい、ホノルルには下町改善協會、オアフ開發協會などがあるからこれらの團體の會員が政界指導者と協調して盡力すべきである最後に市の美化も考慮して貰いたい、以上述べた種々の點をホノルル市改善の大計畫に考慮されんことを私は希望するものである
寫眞は演説するスレイトン氏、左に坐つているのがブレイズデル市長



June 30 1962

配所

古屋翠溪



「八十九」
キヤンプ・リビング
ストン(19)

捕われの二十四将

我々がこのキヤンプへ着いて間もなく、第二回交換船は八月中旬ニューヨークを出帆する、といううわさが盛んであった。

この噂を裏付けるような情報があった。それは、リパトリエートする人達の家族百三十七人が、八月初旬村井勲、ダクター夫妻の保護監督のもとに大陸へ移動して、目下ノース・カロライナ州のグロブパーク・インに滞在しているというのであった。

しかし、交換船は中々出帆する様子もなく、一九四二年は過ぎて一九四三年の一月となつた。

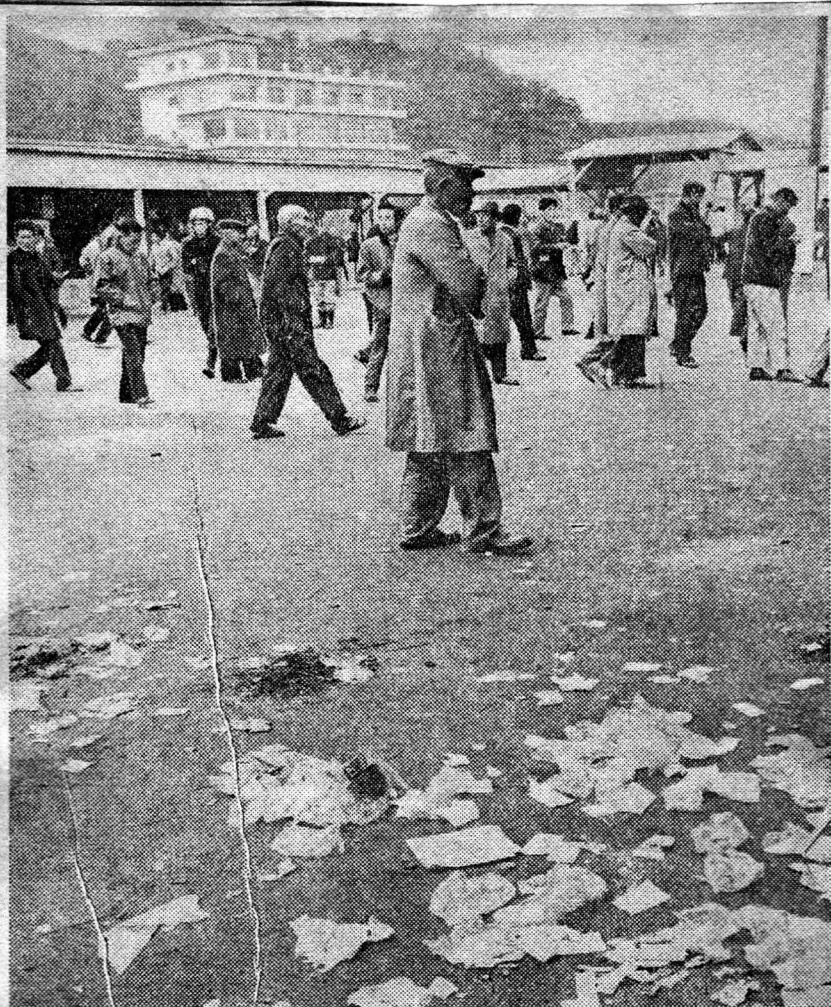
一月七日、大坪大隊長から第二回交換船の乗船者発表があった。J・I・エリアでは、パナマ組全部と磯部節川上正三、岩原竹登、私の四名であつたが、私は家族の爲に米國に留まる決心をしていたので do not desire repatriate と書いて署名して出した。折角日本政府から優先権を與えられたのに、これを

謝絶して、いよいよ無期滞留と観念した時は、ものさびしい思いが胸にこみあげてくるのであつた。しかし、其後は心が定まつて、與えられた運命に従つて時を待つ、という諦観が出来た。

第二回船の出帆も近くに豫想されるので、山梨縣出身の者が、留別の意味を含んだ集まりをやつた。集まつた人達は、布哇組ではホルルの三枝欽三、中村知明、窪川旭丈、僧正、古屋熊次、加味の小澤義、開教師、依田吉甫校長、布哇島の望月桓龍開教師、三浦源平校長、齋藤晴登校長、梶原多亮、の十名、大陸戸では、羅府の駒井豊作、組栗眞、野澤良則、サンフランシスコの小野昇六、渡邊慎吾、網野猪之吉、廣瀬孫太郎、ソート・レーキの笠井嘉彦、パナマの高野伊太郎、マイアミの丸山郡次郎、シアトルの渡邊義學、上野半平、サンデアゴの浅川八朗、松戸勤助の十四名で合計二十四名であつた。

そこで『我々は武田二十四将である』など、冗談を言い合つたことだが、抑留された二十四将では、信玄死後の二十四将のようでは

つばり意氣が揚がらない。それはともかく、布哇や大陸の山梨縣人は、他縣人に比較すると、九牛の一毛に過ぎないが、インターンされた人が案外多いのはどういうわけであらうか、と話しかつたことだ。そうしたら誰かが、山梨縣人は出しやばりで馬鹿正直の者が多いからだ、と言ひ出したが、言われてみれば成程そういうところが確かにあるようである。



乱舞する舟券

いささかの
金欲しがりぬ
1963
年の暮れ
— 鬼 城

スリルと興奮。呼び声。血走った目が、折るようにボートを追つ。そして、いささかの金ウタカタの年の暮れで、チョンとなる。『天国への階段』を踏みはずした顔に、しわすの風が冷たい。足元に舞う舟券は年の瀬にかけた夢の力ケチという格言は別として、

〇……がきの中を突き抜ける時速六十キロの音。1から8までの数字にかけを建、道路を直し、その半面を二分三厘の市民生活を破壊した。



①
ギャンブルと闘争は、男性本能と申します。ここには、宮島競艇の売り上げは、年間三十七億円。一日平均千二百円の札が乱舞する。そして主権団体の一市二町は、ここ

最終

レース

のベ

ル。ひ

とさわ

高い予

想屋の

除夜の鐘の音を遠く近く聞く
て正月を迎えたと昨日までの
師走の街々も何か急に改まり
矢張り新しい情緒が巷に漂つ
て来る。今年は何処を見ても
門松は散える程しもなく、そ
の代りに安い「しめなわ」と
「青竹」が至る処に見られる
様になつた。従来は一家揃つ
て年をとり、誰が何歳になつ
たかすぐわかり、越年とか、
迎春とかいう意義はあつたが
家族が別々に年をとると昔の
様な正月の意義も薄くなり氣
分も変つて来る。また正月の
料理にしても、昔の様なおせ
ち料理も少くなり、西洋式の
味覚が次第に日本の料理の領
域に侵入して來ている。こう
した正月の料理や習慣が次第

に變つて來ている事は、戦後
に於ける急激な時代の變遷を
物語っている。矢張り正月は
神社に詣で八百よろずの神々
に祈り、四方拜があつて如何
にも新春を迎えた氣分が溢れ
て来る。最近では年始回りと

または佛國のドゴール等の意
見を載せ、何とか平和実現へ
の方向に向つて歩いて行こう
としている努力が感じさせら
れている。

日本の若い世代の人達が日本
の風俗習慣を次第に忘れて行
くの反し、日本に在住する
外人は何かと日本の風俗を研
究しようとする古い日本を味あ
うとしている。日本人が新生
活運動と稱して門松も何もか
も虚礼廃止して行く事は何か
勿体ない様な氣もする。門松
を廢してクリスマス・ツリー
は立てるのが新生活と心得て
いる様であり、矛盾した様な
氣がする。觀光日本を宣傳す
るに際し、日本に來て何等日
本的なものが見られないので
は何とも物足りない事であら
う。日本の良さがわかつて始
めて觀光日本の宣傳も出来る
というものである。

新年の「迎春」の氣分

東京本社支局長 村山 有

jan 11
いう事も先ず殆んどなく、下
戸の寝正月と決め込んで、今
年も良い様にと欲の深い勝手
な祈りをする訳である。が、
今年は新しい年を迎えてオリ
ンピックもある関係で、何か
禁張感が加わつて來ている。
日本人が等しく念願している

動を物語っている。
年頭の辭にしても首相その他
極めて少数の人の言葉が見ら
れるだけで、従來の様に各方
面のリーダーを並べるのは少
くなつた。その代り世界の運
命を決するであろうソ連のフ
ルシチヨフや米國ジョンソン

勢神宮を初め全國の神社の社
頭に参拜する人も今年は非常
に多かつた様だが、参拜する
人の態度も盛りに遊びに行
く様な物見遊山になつて來
ている。変り行く日本の正月
も、見て行くと毎年おどろく
ほど大きく揺れて變つて行く



備えあれば...

年暮れぬ 笠着て
草鞋はきながら
芭蕉

大バー
ティ
十三人
全員の
遭難、

中国山地の寒村 ことしも後立山で五バーティ
では「三八・一豪」の遭難騒ぎがあった。岳人
雪ののにかい経験 たちへの警告第一号だ。雪山
へ挑戦するわくこの姿は美
を生かして、冬にたくに忙しい
二・三層の積雪に閉ざされ長い
間、「陸の孤島」になった地方で
は、除雪ロータリーを購入して
服の準備を手伝う家族たち

名句
鑑賞
④

交通通信や食料燃料物資の確
保に懸命という。

〇...あたたかいしわすの町

を吹きすさぶが
らし。ことしも冬
將軍の訪れは草い
ン最大の山岳事故は、薬師岳
で愛知

を聞きながら、七つ道具の手
入れに余念がない。昨シーズ
ルヒニストたち。「雪だより」

ろ」とは気象台の託宣だが
心ひそかに喜んでゐるのはア

和歌十話 (五)

かつて万葉集には数多くの海外の歌が採録せらるるまであったが、あきらかに外国にいて祖國を思ふの作といえるものは、巻一なる山上憶良の遣唐使隨員としての歌

万葉集巻十には、インドから来朝した婆羅門僧正に関する歌がある。

被羅門(はらもん)の作れる小田をはむ鶴(か)

カット 岡 信孝



るす)

まなぶた腫はれて幅(はた)に居り

といつのであるが、これは元来、数種の物を歌ふみにこころに興味をおいた遊戯的な歌である。東大寺の大仏開眼に導師となつたこの高僧も、宿所大安寺にもこれは水稻田の出身者らしく自ら稲作をしたのであつた。そのやんごとなき坊様の苦心した田をついはば、因果応報、鴨もまふたが腫れあがつて、寺院の幅幅にまづつておる、といつのである。天平の時代は遣唐使、遣新羅使の派遣があり、した

いざ子ども早くやまどへ大伴の

三津の浜松待ち恋ひぬらむ

が唯一のものである。その倭臣には遣唐大使多治比広成に贈つた「好去好来歌」があり、光明皇后は御甥(おい)なる入唐大使藤原清河を「この君子」と

三笠の山に出でし月かも

は、古今集巻旅部に出ている。玄宗皇帝から重用されて、名も朝衡と改めたほどの仲體も望郷の念やみがたく、一度船出したのであつたが、その船が暴風のため安南に流されて果たさず、在唐五十年、ついにかの地に没した。当時第一級の詩人王維や李白とも交つた彼に、もっと多くの和歌があつたらしく惜しまれよう。

中世になると、入唐入宋の僧侶(そうり)の作が数えられる。臨濟の祖宋西が秋風の身にじむままに祖國の母をしのび

外国と和歌

佐 佐 木 信 綱

いたわり呼びかけ給うて、神の渡りを祈念せられた。これは同じ巻十九の多治比廣主が副使大伴胡蝶を「韓國に往き足らばして朝来む丈夫武雄」とた

唐土のこゝろもさびし日の本はははそ紅葉散りやしぬらむ

たえたのと双懸(そうへき)をなしている。遣新羅使一行の歌は巻十五、百五十四首が出ており、難波

と詠じた。こゝろに子、ははそに母を、め、し、み、みとした旅愁がにじみ出ている。聖武天皇は、聞き

の三津の浜から船出して新羅に向かう途上の作。また御海大使小野田守等を送る伴家持の「蒼海原風

分きかた異國の言葉に悩む時「野辺にははらぬ松虫の声」を聞いた時の感慨の深さを詠し、戒覺上人

波なびきけとさ来りつむとなく船ははやくむ」という力強い作がある。

「からの都を今日し見れば」と率直に喜びを歌っている。成尋阿闍梨は新千載集に入唐の作をとど

憶良と同時代人である安宅仲麿の

めたが、その母は別れに際して「もろしも天の下にそありときく照る日の本を忘れざなむ」と詠じている。元寇に直面した日本人の故郷心(きこ)きが

あまの原のさに見れば春日なる

しじや蒙古觀は、龜山天皇の御製や、奈良春日の神官中臣祐春の作にあらわれておる。くだつて細川顯資は、慶長元年、伏見城において朝鮮使節松堂老人をもてなした時、使節の漢詩に答へ、その詩の韻に合わせ「西の海やその船をひとくせなむ秋く

れ方の波の寒きに」と詠んだ。

長い鎖國の時代が過ぎ、幕末の事情すべて騒然たる万延元年、第一回遣米使節が通商条約締結のため

米國から特派された軍艦ポーハタン号で、正月十八日出帆、閏(うる)三月二十五日ワシントン

着、九月二十八日江戸に帰着したが、この時の副使淡路守村垣範正の詳しい日記が伝えられ、その中に

七十余首の和歌が記録されていることは、日米修好史の上からも、貴重な資料である。

古里にかはらぬ影をあふぐかな

かりほるにやの春の夜の月

は、実感のこもつた作で、佐久間象山が来航したべ

ルりに代わつて「武蔵の海といつる月は天飛ぶや

かりほるにやに残る影かも」と詠んだ想像の作よりも、やはり力がある。大納言蘭見(えつけ)の日は

狩衣姿の正装で、気概を示した作をとめたが、招宴のダンスには「夢路をたどる心地こそすれ」と

胆をつぶしてもいる。

同じ時、護衛の威風凛に乘つて渡来した勝安房守

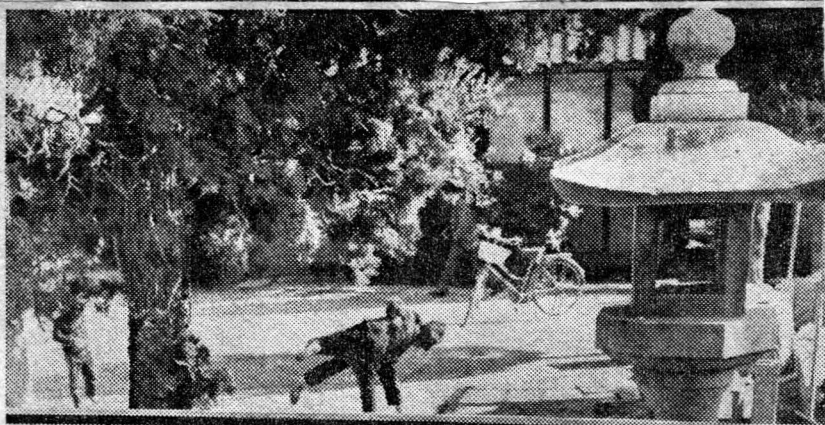
は、アメリカ力についての第一声に

月見れば同じ空なり大海原

五百重千重雲たへたつれど

と詠じた。初めに掲げた仲麿の郷愁に通つものがあ

るが、考えようによつてはもっと広く大きい意味をもつ歌ともいえる。(文庫・歌人、題字は筆者)



5	8	 砂原 勘次 衆議院議員候補者	 灘尾 弘吉 文部大臣
7	大原 日本社会党公認候補者	6	 菊川 衆議院議員候補者

戦いの跡

名句鑑賞

②

つて公約を忘れる。「そんなこと約束した覚えがない」としらはくくれるには、このポスターどうもぐあいが悪い。

〇……おまけに選挙違反取締本部というお目付け役のゴワイ目が光ってる。六日現在広島県内の違反逮捕者は三十七人。

あとは、人それぞれ胸に手をやり、恥じること全然なしと

行く年や

壁に恥じたる

覚え書

其角

れに苦楽の思い出ま年を越したいと願うのは人情につながら。いま公明選挙をうた。二週間前

なお鮮明なわが名の活字が、落の言動をまよや知らぬとほお選候補には無むにひびき、当選しやるまい。ポスターは国民の候補にはくすくすたい。それも心にきまされた「覚え書き」だ

そのはず、代議士になったとた「ほんとう、ちーとも知らな

んに「〇〇センセイ」ともは「たわ」では、許されませぬ。

やされ、本人もついにその気にな(写真は広島市内で)

第二次世界戦争の日本の敗戦の結果は、血を血で洗う幾多の悲劇をわれわれの眼前に展開した。その中でも「東京ローズ」と「川北青年」の西事件は戦争中、日本に居ることを余儀なくされ、そのために前者は日本の軍隊の宣傳をさせられ、後者は捕虜虐待による反逆罪ということで、全米で大さわぎしたことは、われわれの記憶に新しい所である。前者は終身刑、後者は死刑という過重な刑の宣告であつた。戸栗夫人の場合は比較的早く釋放されたが、川北青年の場合は最後の戦犯として最近まで牢獄に服役していた。しかるにケネディ前大統領が暗殺される直前に日本追放を條件

として、保釈許可書に署名したとのことであつた。米國民である川北青年を國籍のない日本へ追放する條件とは誠に苛酷であるが、その方法以外には出獄を許さないというのであつた。

日本は非常に同情した。この度の保釈に対しては日本に於て幾多の努力をしたが水泡に歸し、ついに池田首相が極めて個人的な立場からケネディ大統領に最後の戦犯釈放を懇願したのであつた。そうした

最後の戦犯川北の帰国

東京本社支局長

村山 有

ところが法律的に考えて見て日本に國籍のない者が日本に追放されて來るとは奇妙なことであるので、先づ第一に法務省が反対した。しかし過去日本の朝野を擧げて助命運動を行ない、戦争という不幸な犠牲者であつた彼に対して、

いきさつもあつて外務省が川北青年の入國許可の訓令を打電したのは暮れも迫つた十二月十一日であつた。過去多年助命運動をしていた關係で外務省から入國許可打電の通知のあつた時には何かほつとした。そして越え

て十三日早朝羽田に到着した死刑宣告直後、助命運動を展開した折に朝野の協力は想像以上のものがあり、ことに川北青年が書生をしていた關係で三木武夫代議士が東京西走したことは感謝している。他方案外二世のリーダーと稱する者が助命願書にサインすることをこぼんだりしたこともある。反逆罪の証人に日本から多くの二世が行つて証言台に立つた。人間の良心の姿はこうした時に見せつけられるのであつた。

川北事件の助命願書の中でも正岡勝君がアイゼンハワー前大統領に提出した文書は名文であるのみならず言々人情味に溢れたものであつた。これは過去のことであるとしても池田首相の内政干渉と非難するものに人道的の見地から断然と立ち上つて釋放に努力した鳥海牧師の努力も多し

たい。内政干渉の非難はあつたかも知れないけれども、同じ血の流れる日本人を救うために池田首相がケネディ前大統領に話さなかつたならば、今回の保釈は實現しなかつたであらう。それにしても國外追放にあらずして自由出國の形をとらせ、米國の旅券を與えて日本に來て後に歸化手續きをするようにしたならば、もつと米國の人道主義も民主精神も一層輝いたかも知れない。かくして最後の戦犯事件は終つたのである。

和歌十話

(十)

光である。

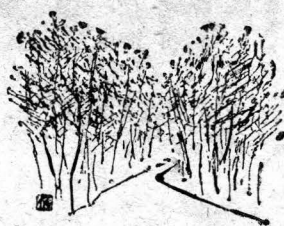
古来、瀬戸内海は西日本の海上交通の要地で、九州とを結ぶ船の往来は頻繁（ひんぱん）であった。万葉集の人歌には、この海上を旅してのすぐれた作が数首あるが、特に豪健で朗々たる調へを成したものに、大君の遠の朝廷（みかど）とあり通ふ島門（しまかど）を見れば神代（かみよ）におもほゆるがある。筑紫（つくし）へ向かつて、内海の美しい島々を送迎（おくりむかひ）くに調（な）りある。

十一首になつてゐたのを興がもつた。古今集巻九に「わたの原八十島かけて漕（こ）ぎいでぬ」と應岐（おうき）の島への流罪（りうざい）の悲しみを詠じた小野篁（おののえ）の場合、特別な例である。金葉集なる源兼昌（みなもろ）の「淡路島通ふ千鳥（ちどり）は、須磨（すま）の浦の景（けい）であり、それも「閑路千鳥」とう題詠（たいぎ）に過ぎない。さすがに旅の歌人（りょのうた）西行（さいぎょう）は、この沙汰（さた）に押し廻（かへ）らばや等（ら）の実感（じつかん）の作があり、荒大渡海（あらいわたうかい）の壯絶（さうさつ）な気魄（きぱく）（き）はくに調（な）りある。

瀬戸内海の歌

Nov 23 1962

佐佐木 信 綱



カット 岡 信孝

数年（くわんねん）このかたの足痛（あしいた）に悩（なや）まされて、ベッドからかたわらの机（こ）へまでも、看護婦（かんふ）に助けられねば動きえぬ老（おい）の身（み）、いまさらのやうに山上（やまの上）極良（ごくら）の病床（びやうど）に

船（ふね）に病（びやう）いしを心配（しんぱい）して、欧州（しやうしゅう）等に遊ぶ機会（きかい）も数回（たしか）あつたが、若い日の南清（なんせい）の旅のほかは、海外（かいがい）へは出（で）かけなかつた。しかう、国内（こく内）の旅行（りょぎやう）は相当（さうたう）に多く体験（たいけん）してゐる。これは万葉集（まふやふし）の古文獻（こぶんけん）を捜（さが）し求めて、しかるべきものが存（ぞん）在（ざい）すると聞（き）けは出（で）かけたためでもあつた。その中（な）で印象（いんさう）の深いのは瀬戸内海（せと内かい）の風

じつ、これらの島々の生（な）まされた神代（かみよ）に思（おも）いはせる故郷（こきやう）（けいけい）と云（い）は、いかにも人（ひと）離（はな）れし作（さ）である。同じ作者（さうしや）の「天（あま）さかるとひなの長路（ながぢ）のこひくれば明石（あかし）の門（かど）より大和（やまと）島見（しまみ）ゆ」は、西国（さいごく）から長い海路（かいじよ）をこえて来て、明石海峡（あかしかい）にさしかかると、なつかしい大和（やまと）の山（やま）が見（み）えるという喜び（よろこび）の歌（うた）である。

これが平安朝（へいあんちやう）になると、歌（うた）を歌（うた）む階級（かいきふ）は、特殊（とくしゆ）な事情（しやうぎやう）がない限り、京都（きやうと）を離（はな）れて船旅（ふねりょ）をするというよな生活（しやうか）からは遠（とほ）ざかるし、海上（かいじやう）を往來（わうらい）するよな人々（ひと）は、和歌（わが）には感（かん）の薄（うす）い人（ひと）たちであつた。土佐（どさ）日記（に）のなかで、船頭（ふねづか）がごく自然（しぜん）にいつた言葉（ことば）が五句三

瀬戸内海（せと内かい）の船旅（ふねりょ）を自由に生（な）まされたいと詠（よ）んだ人（ひと）に、幕末（ばくまつ）の歌人（うた）大隈（おほい）言（こと）道（みち）がある。故郷（こきやう）福岡（ふくおか）と大阪（おさか）との間（ま）を往來（わうらい）するうちに佳作（けさく）を遺（のこ）したのである。「忘（わす）れたることはなやと思（おも）ふ間に遠（とほ）くなりぬく港田（みなと）の舟（ふね）」

荒波（あらいなみ）の寄（よ）せる外海（がいかい）へむかう緊張（きんしやう）ではない。いかにも平穩（へいゑん）な瀬戸内（せと内）の旅（りょ）らしい、明るく伸び（のび）のびとした旅情（りょじやう）である。

帆（ほ）あぐれば船（ふね）の朝飯（あさめし）（い）（い）たく間（ま）にも陸路（りくじよ）へ（か）（か）一日（いちにち）の程（ほど）は来（き）にけり

松（まつ）も生（な）ひ岩（いわ）も並（なら）びて船（ふね）にすりとまりとまりに庭（にわ）はありけり窓（まど）に窓（まど）むかひあひたる大船（おほふね）の一夜（いちや）となりのなつかしげなる船旅（ふねりょ）らしい、否（いな）、船旅（ふねりょ）でなければ味わえない景趣（けいす）がよくとらえられてゐる。そして、船（ふね）を通して人生（じんせい）が描（えが）かれてゐるのである。

小舟（こふね）さへ漕（こ）ぎ迎（むか）へ来て大船（おほふね）のはつる泊（とまり）のいさしげなる船着場（ふねづかば）のにきわめはかくよまされておるし、また秋（あき）ふけて港田（みなと）さむくなりしやう満受（みづうけ）うめくる夜中（よな）の舟（ふね）のこときは、庶民（しやくみん）的な旅愁（りょしゆ）が、たとえば、船腹（ふねはら）を打（う）つさら波（な）のやうに、ひたひたと跳（は）ねるもの心（こ）をうつように思（おも）ふ。

朝日（あさひ）かけまたよくささで大船（おほふね）のかけの小舟（こふね）にのこる初霜（はつしも）漕（こ）ぐままに夜明（よあけ）けて見（み）れば見（み）知りたる昨日（けふ）の船（ふね）に又（また）並（なら）びけり

いずれも感傷（かんしやう）におはれることなく、ゆとりのある心（こ）で静（しず）かに詠（よ）まれている。最初（さいしゆ）にかかれた人（ひと）の壮大（さうだい）な感動（かんとく）も作者（さうしや）の真実（まじつ）ならば、このささやかな言（こと）道（みち）のスケッチも、まがたうなき作者（さうしや）の旅（りょ）中の真情（しんじやう）であつた。ゆうゆう二千数百年（にせんすうひゃくねん）、美しい瀬戸内海（せと内かい）の波間（なま）に映（うつ）えた古代（こくたい）人の詩精神（ししん）と、近世（きんせい）びとの歌（うた）ころころとをもつて、十回（じふかい）に及（およ）んだ歌（うた）がたりを閉（と）じめることとした。

（文・博・歌人、題字は筆者）

和歌十話 (八)

ともに明治和歌革新運動の一翼をにない、森鷗外郎の親類縁者などとして交わった鉄幹と謝野寛の父君は、西本願寺の歌僧礼教法師である。笹田空穂君



カッ ト 岡 信孝

と第一郎君、前田夕聲君と透君をみな二代の歌人である。自分と縁の深い人としては、石樺千亦翁と五島茂君、斎藤蘭将軍と史さんなど、同じ社友として父子ともどもに思い出は尽きない。いま、千数百年にわたる和歌史上において、親子二代の歌人を数えてみよう。

百人一首の第一「秋の田の」の天智天皇の第二皇女が、同じく「春過ぎて夏来にけらし」の持統天皇

皇であらせられる。万葉集

の伴旅人・家持父子。父は九州に、子は北陸に、ともに傾きかけた名族の運命を負いながら、多くのすぐれた歌を今日に伝えている。家持の妻、大伴坂上女も、その母大伴坂上郎女も、ともに万葉女歌人として名を残した。

古く集を撰進した紀貫之の子が、帝室和歌研究所ともいふべき梨壺(なしつぼ)の五人のうちの紀時文、同じく五人の一人なる清原元輔の女が清少納言

である。文章にかけては大いなる才女も、和歌では、父の名を取すかじめのために小心冀々としていたが、枕草子に見えておる。清少といえは紫女であるが、紫式部の子は「有間山あなな世原」の大式三位、名を賢子といった。和泉式部の子、小式部内侍は「大江山野の道」に歌道と孝道との名を正めた。紫式部や和泉式部とともに道長の女上東門院に仕えた赤染衛門の父は、「一説に「しのぶれど」の平兼盛といわれている。同じく上東門院の女房であった伊勢の大輔は、祖父は梨壺の五人の大中臣能宣、父は輔朝。また、母子ともに三十六歌仙に選ば

親子の歌人

佐佐木信綱

の悲劇の帝が御太子であらせられる。千載集の藤原俊成、新古今の定家父子は、万葉集の旅人、家持父子に匹敵する。俊成には俊成女があり、寂蓮藤原定長は甥(おい)でその養子であった。定家の子為家とこの三代によって、中世和歌の權威と道統とが確立された。為家の妻阿比岐は夫の没後、その子治泉為相の訴訟のために、鎌倉にくつった時の紀行文が「十六夜日記」である。

法性寺入道前關白太政大臣すなわち藤原忠通の子が大僧正蓮白、二念院廣成——「我が祖は湖干に見えぬ沖の石の」の歌によって「沖の石の廣成」とい

われ、式子内親王と並び称せられた——の父は歌人で武將の源三位頼政、圓花集の撰者藤原賴朝と藤原紙の著者清輔との父子である。

南北朝時代では、後醍醐天皇の後宮に一家歌学の正統を伝える贈三位為子があり、その御子が新葉集の歌人宗良親王であらせられる。

近世では萬葉集の後水尾院と松葉集の靈元院の御父子をあけまつるべきである。国学者の客では、荷田春樹の甥でその養子に國歌八論の荷田在湖、その妹で春樹の養女に女歌人養生子(なまこ)がある。在湖、養生子の父父多賀道員も和歌にたみであった。本居宣長の養子が太平、実子が春屋であるが、太平の父父稻嶽棟隆も歌人として知られた。天降宮の著者田安宗武の子が松平定信であるとはあまりに名高い。

鈴屋派の一家が「学者」であるのに対して、同じ學門でも、江戸派は純粋な「歌人」といふべきか。その江戸派の中心であったのが、加藤叔直とその子、芳宜園(はぎの)のある千藤である。江戸における真淵門下では村田春海と双璧(ふうへき)の名をうたわれ、この派の歌風を完成し、書もまた巧みであった。上司である田沼意次のことに関連して閉門を命ぜられた時、その閑暇を利用して「万葉集略解」二十巻三千冊を著したとき、たまたまないことを物語っている。

このほかにも、富士谷成康、御杖公など、歌学や、管上歌人の系譜を見れば、記さなければならぬ人々があるが、ここには省いた。

(文庫・歌人、題字は筆者)

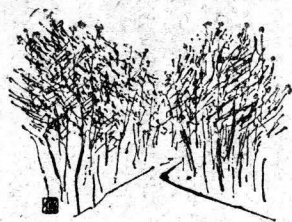
和歌十話 (六)

て大神宮に参拝したとき、
上人があの辺に住んでお
られたので、西行合という
名が残っていると教えられ
た。自分は小学校にはいる
前から、こうした教育をう
ける」といわれた。

わが故郷伊勢——いまは鈴鹿市石薬師小学校の校
庭の一部となっているが、自分の生まれた家の裏の
桐(きり)畑から鈴鹿の連峰を望むなかめは、幼い

けたのである。爾来(こゝろ)多くの歳月が流れた
が、西行に寄せる敬慕の念は年とともに深まり、
万葉集の研究と並行して、後鳥羽院の御ことばなる
「生得の歌よみ、不可説の上手」なる歌僧を研究も
し、顕彰もしてきた。

昭和十五年十月、西行上人七百五十年忌を記念
して、河内弘川寺に歌碑が建ち、請われるままに、
自分は上人の「公には桜の花を棄れ、歌を執筆
し、除幕式に臨み、表白を献じた。その文中「保元
平治のみたれ、平氏親民興廢の常なき時にして、お



カッ ト 岡 信孝

西行上人

Nov-18
1962

佐 佐 木 信 綱

一句に、西行の最も深い人間愛がひそんでいよう、
と語を結んだのであった。星加八百年、親しまれは
いまでもなお「これは何事の争や」とではないか。
東鑑を読んでおるうちに、西行が奥羽行脚の途
上、鶴岡の社頭にもうでたのは、文治二年八月十五
日、捕われて連行されていた静が鎌倉を去ったのは
九月十六日、うき世をまたにかり捨てた歌人僧と、
日本一の舞の上手とが、もし星月夜、鎌倉山の松風
をともに聞いたこともあったならば、と想像して書
いたのが自分の生涯にたつ一つの戯曲「静」であ
る。先代歌右衛門文の静、西行は故中村吉右衛門文
で、昭和八年五月に歌舞伎座に上演されたが、三千
二年二月、当代の歌右衛門文の静と、前回の梶原役
であった市川猿之助文の西行により再び上演され
たのは喜ばしかった。瘦身(そうしん)の吉右衛門文
は世捨人の歌僧を、猿之助文は若き時の北面の武士
を、それぞれにのびせてくれたことである。

自分の心にも沁(し)みた。ある時、父から鈴鹿
山うき世をまことにありすて「この歌は西行上
人かあ、鈴鹿山を越えられた時に詠まれたのであ
る。いづれは万葉集の歌三千首を暗誦(あんしゅ)
するやうにいったが、こんどはその西行上人の
山家集(さんかしゅ)から三千首をぬいておくか
ら暗記するやうに」といわれたが、うき世の目、小
さいと本にかいてわたされた。また、父につれられ

思い出の一二を記してみよう。明治三十九年
といえは、自分も三十五才の壮年であった。その年
の初秋、山県公の発意で、小出・井上・大口氏ら御
歌所派の人々と自分とが選者となり、森岡外・賀古
鶴所の阿氏が幹事役で、常盤会という歌会が催され
た。最初の阿氏が幹事役の時、山県公が、あいさつを
ね、新派の和歌に対する感想を述べられた。談話ま
たま妻作の例に触れて「新派の歌は心して読み、感
ずるものもあるが、人行為のもとに山家集を読むの
な」といふのは採らない」といわれた。座中、この話
の意味のわかったのは、自分一人であつた。一
る事の様な「を讀み」は何事の争や」のこの

西行ほど日本人に親しまれた日本人も少なくあ
う。初めに引いた後鳥羽院を止め、同時代人の
俊成定家父子その他新古今時代の代表的歌人たちが
ら敬愛されておる。またその行ないを学んだ芭蕉は
もとより、伝説に謡曲に、俗謡に、親しまれてきた
人格の幅は、極めて広く、かつ厚いのである。上人
の「風になびく富士の煙の空に消えて行く方も知らぬ
わが思ひかな」によつた「富士見西行」も、まことに
意味が深い。この人のほかに、富士と正面して堂
堂と立つことのできる人がまたあるであつたか。

(文庫・歌人、筆字は筆者)



名句鑑賞

⑥

る。同じ思いの同僚と、つい足が向くのは通いなれた店。のれんをくぐり、たまったツケをほんと払う。やおら腰を

〇……ともあつ二十日。史上

最高のボーナス景気とか。例

年のごく会社、家庭でボーナ

ス袋をめぐる胸算

用、皮算用がうず

まくしわすであ

供のことも脳裏からスーッと

消え「おや

じ、きょう

の勘定は来

年まわし」

と威勢がよ

る。やっと組合が

勝ち取ったボーナ

スも、次は家庭で

で談笑どころか泣きべそをか

いてチョン。談笑できるうち

にとまらない。ボーナス袋に

は、飲み屋のツケ、月賦代金、

借金……二重、三重の責め苦が

よ、なんじの名はこわきもの

なり。

〇……だが、この袋、ふしきに

持ち主の気持ち大きくさせ

気炎は広島市内で

ボーナスの果て

懐に

ボーナスありて

談笑す

草城

と威勢がよ

る。やっと組合が

勝ち取ったボーナ

スも、次は家庭で

で談笑どころか泣きべそをか

いてチョン。談笑できるうち

にとまらない。ボーナス袋に

は、飲み屋のツケ、月賦代金、

借金……二重、三重の責め苦が

よ、なんじの名はこわきもの

なり。

〇……だが、この袋、ふしきに

持ち主の気持ち大きくさせ

気炎は広島市内で

和歌十話 (九)

父の家学をうけついで以来、歌道を広めるといふことは自分の念願の一つであった。したがって、長い生涯の間には、いろいろの機会に、いろいろ



信孝 岡

人を教えいさのつて、この道と縁を結ばれた人の数も多く積もったとは、自分の大きな喜びである。
昭和十三年、支那事変の起った翌年から、自分は牛込なる臨時東京第一陸軍病院の嘱をうけ、社友の伊藤嘉夫君とともに、隔週の方集集の講義と作歌の指導に喜んで奉仕した。諸君はもとより熱心であったが、ここに看護婦に助けられ、手押車の上で聞いておられる戦冒の人々には胸がいたみ、自分もひたすら心をつくしたのであった。この人々の歌をあ

つめた何冊かの歌集を伊藤君と共に編んで公けにしたが、さらに、昭和十八年に、自校は盲目なので、いかに詠まれたか人々が特に注意していた「わが心慰めかね更科や映捨山に照る月を」とよみあける。古今集の古歌そのまゝの「て」を見で」としたのである。「て」を濁って「で」としただけで、照る月を見て思えかねつといふのに、ましてや照る月も見ないで、とのきひし心をあらわした歌となつたので、だれもみな驚嘆したといふ。

盲人の歌

Nov 22 1962

佐佐木信綱

子友梅は、毛利氏との戦いに利あらずと知るや、盲目の身にもかかわらず、家臣の肩にすがつて敵中に突入、壮烈な討死を遂げた。その時、友梅の旗じるしに結びつけたたなぐに
くらきより暗き道にも迷はじな
心の月のくもりなけれは
と記してあった。心の月のくもりなきゆえに、盲目の身で、さらにくらき道に行くとも迷いはせじ、と死を決した明らかな心境である。
宝永年間のこと、板花校喜津一が、さる大名の供をして信濃なる月の名所映捨山のふもとに宿った

かかるやみに編みはたす書
の一首が添えてある。八重康は「かかる」の枕詞（まくらことば）、目も、編みも兼の縁語で、このように目を病んで見えなくなつてから編みはたした書である。見る人もあわれと思えかし、の意で「編みはたす書」に著作者の魂といふべきものを感ずるのである。若い日の芥川竜之介君は、自分で詠草を示して加朱をくれたことがあるが、君を知ることの深い社友片山広子夫人にすすめられて、芥川君の「戯作三昧」を興味深く読んだ。この作に書かれたものが馬琴の芸術家らしい気魄（きはく）のきひしなら、この一首に見る根性こそ、著作者の読者にこたえる責任感ともいふべきか。
和学講談所を起し、群書類従を刊行して不朽の名をとめた堀保三の家集「松山集」の一首。
一声は花も紅葉もよそに聞く
わがためもせ山ほととぎす
「花も紅葉も」は、三夕の定家の作を引くまでもなく、春秋のながめを代表する。花も紅葉も見ることを得ぬ自分のために、せめて一声をもらしてくれ、山杜宇（やまほととぎす）よ、といふので、古來時鳥を持つ歌の多い中に、これほど切実なるを知らない。
なお前に記した心月集について一言する。明治時代三井物産会社にはいつて海外貿易に足るれた故小田柿捨次郎君は、晩年失明せられたが、作歌と宗教の力に感して、自分に盲人の歌集編纂（へんさん）のすることを囑されたので、自分は心月集上下を編み、盲人歌集第二部に入れ、陸軍病院においても講じたことであつた。（文博・歌人、題字は筆者）



来年こそは

年こそは平凡なつましい思いを書き残すのに「一年々歳々同じ思いを繰り返す歳末風景である。」

買った。(写真はいろいろどりの日記が並ぶ歳末の書店「広島市内」)

な「それでも同
じ。とつせ白紙に
終わるから」「来
年こそは……」の切ない願いを

の鐘にざんげして来年の努力を誓うなら日記は本棚。「来年こそは……」の切ない願いを

我が生は
淋しからずや
日記買う
虚子
1969

いう古人教訓にたいする老人の嘆きはもつとおい。除夜

〇……しわすの風が吹きはじめると、新しい年の日記が客場する。「どれにしまか

の効用というものである。〇……月日のたつのは早い。なんだかんだで暦は消えてこ

名句
鑑賞
⑤

〇……日記文学は自伝文学ともいう。土佐日記や朝日日記といかなくとも哀愁日記でけ

つ。古いページの涙のあとに破れた恋を思つたのも日記

旅十話

(二)

二度目は六

れていた。

七年前、青森県教育委員会が、青森県下の各都市を、松川

問題について請

弘前には私は今までに三度行ったことがあ
る。最初はおよそ二十七年、八年前になる

演してまわってくれというのが、その時弘前
でも講演したのであるが、その時は津川氏一氏
が案内役になって、方々を
見物させてくれた。

津川氏は精神病の医学博
士で、社会運動家で、その
うえ文学の愛好者で、その
時よりも前に、葛西善蔵の
文学碑を建てるといってこ
で、弘前からわざわざ熱海
の私の家まで訪ねてくれたことがあったので、
私には旧知であった。



カット・互井 開一

津川氏ら（津川氏以外にも数人の人が案内し
てくれた）は、葛西善蔵の墓にも案内してく
れ、葛西の未亡人にも会わせてくれ、そのうえ
健ケ関に建った葛西の文学碑まで、自動車で私
を案内してくれた。

山の中腹に、自然石で葛西の文学碑は建てら

弘前城址と老松

広津和郎

なでこの文学碑を建てるについては、葛
西の親せきの人たちは「あのならすもの、碑な
ど建てるのはもってのほかだ」といって反対し
てきた。

ていたことを思い出した。葛西からそのことは
を聞いた時には、故郷の観念のない私は、この
わがままで傲岸（ごうがん）な葛西でも、衰え
ると「故郷の山河」を思い出すのか、不思議
に思ったが、しかしいま故郷の人たちの話を聞
いていううちに「故郷の林の中で死にたい」と
いった葛西の気持が、素直になすける気がし
てきた。

Jan 29 1964

が新婚当時にいたとい
うあたりを、津川氏が指さして
教えてくれたが、それは黄色
い若葉がもう始めている柔ら
かな明るい木立の多い地域で
あった。「故郷の林」といっ
た時、葛西の頭には、このあ
たりの風光が浮かんでいたのではあるまいか。

弘前城址（し）の公園は、前の時よりもゆっ
くりながめ、歩きまわることができたが、これ
は日本の公園の中で最もすばらしい公園ではな
いか。かなたにそびえる岩木山の美しさは、宇
野と来た時にも心に残ったが、こんなに特（とく）に家
（ほり）の美しさに新たな気がついた。それと
さらに私の心を打ったのは、々々としてそびえ

ている老松のみことである。なんでも何本か
は、千年の松、とはいえないかも知、およそ弘
前城ができる前からそこに生えていた松ではな
いかと思われる老松である。

「これは奈良のいわゆる千年の杉に匹敵する
ものではないであらうか」
私が老松に感心すると
「しかし年々枯れて行くので、いまの保存
に苦心しているのです」と津川氏はいった。

「やほり松食虫ですか」
「いいえ、松食虫ではなく、見物人が根を踏
むのがいけないらしいので、根の近くには近寄
れないようにしなければならぬのです」
奈良の杉にしてもそうであるが、おそれるこ
れらの老木にも寿命があるのであろう。その
命が来て枯れて行くのであろう。しかし、いま
まで枯れたのはやむをえないにしても、いま
なおある老木だけは、なんとか枯らさずに保存
できるような手当はできないものであろうか。

これは一朝一夕でその代わりができるもので
ないからである。
公園から町の方へ下がって行くあたりにある
邸（てい）家屋敷の跡、これも旅人の心に弘前をなつか
しいものと思わせるものの一つである。
（芸術院会員、題字は筆者）

旅十話

(三)

三度目に弘前に行ったのは、昨年の九月末であつた。



カッパ・互井 開一

最高裁で松川の最終無罪判決のあった後、その報告講演に各地をまわった時、弘前に寄つたのである。

すると駅前、津川武一氏をはじめ数人の人たちが待っていた。かつて礎ヶ岡の葛西善蔵の文学碑に案内してくれた人たちである。

「旅館に行く前に、ちょっとおつるさんに会

「てんきい」と津川氏はい

「おつるさん」とは葛西未亡人の名であるが、すなわち中年ないし中年を過ぎかけた年輩の人の風貌ばかりをなつかしうしたためばかりではない。老後のたよりない葛西未亡人をかばい、

「葛西未亡人にお会いするといつて、未亡人が出て来られるのですか」

「いいえ、未亡人の家を訪ねていただきたいのです。未亡人は家で待っていられるのです」

「そこで私はタクシーに乗せられて、未亡人が住んでいる町中の小さな家に案内された。

葛西未亡人とは、この前弘前に来た時、葛西家の墓のある寺で落ち合い、一緒に墓にお参りしたが、葛西善蔵の墓という独立した墓石は別に立っています。先祖代々の墓の中に彼はまつ

られていた。未亡人はリネーマチで足が痛むといつて、礎ヶ岡の文学碑までは一緒に来なかつた。

未亡人の家の中には、十数人の人たちがすでに集まっていた。私の行くのを待っていた。それらは中年ないし中年を過ぎかけた年輩の人の風貌ばかりをなつかしうしたためばかりではない。老後のたよりない葛西未亡人をかばい、

葛西未亡人と故郷

広津和郎

いたわり、慰めているのであつた。

昔から無口であつた未亡人は、相交わらず口数が少なく、ただおとなやかな顔にすなな微笑をたたえていた。あのわがままな葛西に先立たれた未亡人は、その後子供たちにも先立たれて、今は全くのひとりぼっちになつてしまつたが、私たちに会つても、その長い忍苦の生涯について、何一つ訴えるでもなく、黙々として微笑をしているだけであつた。東北の婦人の辛抱

強さの典型でもいふべきであつた。

それにしてもここに集まつている人たちが、未亡人を真ん中に、なんという善意にあふれた目付でニコニコしていることである。死の近づいた葛西善蔵が、故郷の林の中に小屋を建てて死にたいといつたのは、単に故郷の風景ばかりをなつかしうしたためばかりではない。老後のたよりない葛西未亡人をかばい、

「それは短い時間で、その日を記念するために、奇を」

せ書きなどをする」と、間もなく私は葛西未亡人のものを辞したが、宿屋まで行く自動車の中で「故郷」というものを改めて考えた。私の頭には全然ない観念である「故郷」というものを。

午後から私は時間をつうして、弘前公園に出かけて行つた。これは同行の岡林辰雄井藤士や、元松川被告であつた佐藤一君らに、この公園のまさを示したいためであつた。岩木山は薄れてしか見えなかつたが、しかし

城址(し)は相交わらずすばらかつた。岡林氏や佐藤君もすっかり気に入つて、いたるところで写真をつうしていた。

しかし私は、かつて是松の老木——私が千年の松と考えていたあの、他の松よりも相当の太木であるか、の静けの上のひびきを聞き、ひびいた老木たちが、ほろろと本もなくなつていくのに気がつき、それが情けなかつた。数年の間に、あれはみな枯れてしまつたのであつた。あの何本が残つていた老木も、手当の力もなく、やはり寿命には勝てなかつたのであつた。

さて、私はどこか住みよひといふのではないかと考える時、近頃は弘前をよく考える。この公園から町の方へ下がつて行く間の武家屋敷付近を。

こつちう心持ちの中には、葛西未亡人のまわりに集まつていた人々の和気あいあいとした笑顔があるのかもしれない。私も「故郷」というもの、晩年を親しくかばつてくれる「故郷の人々」というものを追想するのかもしれない。しかし実際にもしつういふことになれば、「故郷」なくしていままで生きてきた私は、やはり落ちて落ちて孤独の世界へ逃げ出すかもしれない。(芸術院会員、藤子(筆者))

忍具のいろいろ

忍術は忍びの術であるから忍具には当然忍び込むための道具がたくさん用意されていた。登器もその一つ。はしにもいろいろの種類がある。万川集海

のところで特許権を取つて、源義仲ノ法住寺ヲ攻メマイラセシ時、今井四郎兼平、鳴鶴ノ中ニ火ヲ入レテ射タリシニ……コレハ……異邦ノ火柵欄ノ類ニ似タレド、ソノ此ハイマダ火薬ナド用フル事ハシルレニテラス、今ハ銃砲ノ制ニ倣ヒ火薬ヲモチヒテ、或ハ箭飛ヒテ火ヲエ出ルヤウニモ或ハ多クノ箭一

火器の代表は火矢

当時最高の技術を駆使

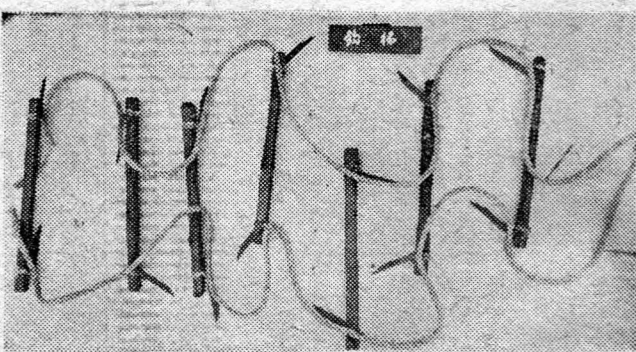
する矢のことだ。源君美が編集した本朝軍器考は次のように述べている。

「火箭ハイニシヘヨリアリケンモシラス、……飲明天皇ノ十五年……新羅ヲ伐セ給ヒシ時、ソノ函山ノ城ヲ攻メシニ、製藥ノ物部にきききトイフモノヲ、ただ残念なのはそれが日本人の発明ではないということ。元寇

に載っているものだけでも、結梯、飛梯、雲梯、巻梯、鉤梯、高梯、蜘蛛梯などの別がある。いずれも形と用途を異にする。このはしにもこれまで述べた忍具にもそれぞれアイデアがある。しかし発明で言はせしめ、意匠登録が実用新案ぐらい

其城ヲ焼オトシツトイフ事、百の役では、鎌倉武士がこれに胆ヲ王明力献リシ表ヲウチニ見、を冷やされたという史実がある

からなんともしかたがない。火器もまたほかの忍具同様種々な変化をたどつたであらうことは想像にかたくない。火矢もその現われの一つである。



が、松明(元いまつ)も火薬の洗札を受けることとなる。寛永元年服部保政の書いた伊賀者火術秘書の忍松明の項には、あんせう、いおう、はい、もくき、松葉、もめんなどを何処何分、合わせ竹の中に入れて用うると書かれています。

(奥瀬平七郎) 中国新聞社主

歴史的人物の忍者の側面

だれが最初に「孫子」を輸入したか。文献の上では、吉備真

とあり、また天武天皇が多胡弥という測問を使用したことが明らかであるから、孫子は真備以前すでに我が国には入っていたと考えざる方がよい。確かな証拠

聖徳太子や天武天皇のほかに

の思ふ。

しかし聖徳太子が忍びの者を使ったのは事実であろう。生身の太子が、一時に七人の訴訟をさばるといふ離れわざをやつて

がつである。伊賀や甲賀は敵が、実は山伏兵法から生まれたを設けていた。当時島津の領内視したけれども、信長や秀吉と忍者の戦法である事を知っている人は意外に少ないのである。燃れたものは十人に一人というたわけでは決して無い。江戸時代にはいっても、忍者の使用はなにも徳川幕府だけのこれらの人々のうち、このシのもしろいのは維新の功臣西郷隆盛が薩摩藩のお庭番であつたという事実である。彼は同僚益満休之助とともに、倒幕の手段として、大風を利用して愛宕山頂から伊勢神宮の御札を江戸市中にまき散らし、勤王攘夷を天意とする謀略を行なった。「正忍記」に言う「天動、地動の習い」を

忍考

③ 聖徳太子も利用

お庭番だった西郷隆盛、

はなが、私は孫子の輸入は、三

も、歴史上有名な人物で世間の

世紀後半から四世紀前半にかけ一般的に諄儒とは別に忍者也忍て、仏教渡来以前すでに我が国術を使つていた人、あるいは使



西郷隆盛の肖像

に移住をはじめていた秦はた氏によつてなされたと考えられている。後年その一族である服部氏の忍術としての活躍を思へば、この説がながち虚妄な盛、大江広元、楠木正成、北条

リーズの第一回で述べた義経を専断特許ではなかつた。家康の腹心藤堂高虎だつて忍者を用いては、楠木正成の忍者的要素が最も著明である。南朝の忠臣としての正成を知つてはいてお庭番制度(忍者を庭番に仕立てた外様の雄、島津も江戸城の

備(きびのまきび)となつている。遣唐使として七三四年に帰朝した時、ほかの兵書とともに持ち帰つたと記録されている。ところが忍術の伝書によると、聖徳太子が大伴細人という志能便(しのび)を近くに置いた

ことがわかつていただけでも、早雲、武田信玄、上杉謙信など

も、赤坂城や千早城の防御戦法でた隠報機関)にならつて庭番者展は十一月二十四日まで

中国新聞社主催各々園祭の忍

戦略時代

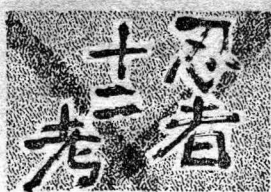
忍術には体忍(陰忍)と頭忍(陽忍)がある。映画やテレビは前者を強調しすぎるきらいがある。しかし忍術というものは

ちえたのは、家康とそのブレーンたち頭忍の戦略によるものなのである。

この忍術も明治維新によって完全に絶滅したかに見えた。しかし事実上、その技術の一部は司法組織の中へ、一部は軍事組織の中へ、一応完全に壊滅してし

たのである。沖・横山というわけゆる軍事探偵の時代から、特高・特務機関・中野学校・石井部隊まで、体忍の要素はしだいに薄れて来たが、それに代わって最新の科学技術を投入した頭忍的な要素が大きな比重を占めることとなる。だが一九四四年の日本敗戦によって、これらの組織も一応完全に壊滅してし

最も理解されやすいものとなって来る。もちろんここまでは、ずいぶん前のことがタイトルをかけた大戦中で、常勝を誇る木村名人と新進の升田九段が対局したことがあった。四、五十手前の軍門にたった。これを忍術では「一軍にかけろ」という。人の五情をつく車の術には喜車、怒車、楽車、哀車の五つがある。



—(12)—

歴史の裏面で暗躍

現代にも生きる頭脳忍

織の中へとけ込んでいったのである。

やがて日本は急速に近代国家への道を歩み、富国強兵と殖産興業—日本資本主義の基礎確立と軍閥の台頭—大陸への進出、日清、日露戦争、満州・中国への進出、そして太平洋戦争という連綿の中で、忍術は近代情報戦と緊張、これらはいずれも頭

は、陰陽の両方を備えていなければならない。特に頭忍のコートロール下には体忍は、およそナンセンスである。徳川三百年の歴史の陰に動いた伊賀、甲賀武士の働きを決して無視することはできないが三百年という驚異の時間を保

謀略の技術として生まれ変わった

脳忍の発想をもってみるときに

ある。こうした意味で、忍術

腕をこまめき鍛えはいい。た

ころがである。一心に聲士を

見詰めている名人の頭を目がけて升田が、思い切りタバコ煙を吹きかけたのである。

中国新聞社主催「名作」の忍



完全装備した忍者

名人木村は升田の怒車の術にかかったのである。(奥瀬平七郎)

おわり

忍びの姿

いかに忍者が身軽であり、きたえたからだを持っているからと言っても、山ほどある忍具を

一器ヲ以テ万用ニ達スルヲ功者
トスルナリ」と教えている。

「二器ヲ以テ万用ニ達スル」で行動し目的地の近くにキヤン
これが忍法の極意である。その
ブを設けられるような時にしか
ほかは、よろしきに応じて持つ
用いなかった、と考えるほうが

標準携帶具に六種

黒装束は夜だけのもの

て行くのである。しかし一応の理屈に合っている。

標準携行忍具といったものがある
このことは服装についても言

る。すなわち忍び六具である。

かない。万川集海には、忍器ヲ忍
ビ入ル毎ニ衆器ヲ用ルニ非ズ、
兼テヨリ敵内ノ様子ヲ工夫シ、
其宣キニ応ジタルヲ持行クベシ
多ク持行クコトナカレ、是故ニ

六員とは竊に笠力千調、石巻
薬 三尺手ぬぐい、打ち竹の六
つ。打ち竹というのは火種を入
れた特製の竹筒で、暖房と火付
けに用いる。忍者は忍者だと知
らぬ。いつか、

て行動の邪魔になる。おそらく合戦が予想される場合にしか着用しなかったのではないかと私は思うのである。

獵樂、出家、虛無僧、商人、常力であつたようだ。販売ルートの中心でも見かける跡證であるが、彼らの祖先の出を示す放りない戦略体制といえよう。



このほか
伝書によつ
て、おまの
まな装束の
基本線が示
されている
が要すると
ころ、敵方
の様子を調
べ「ヨロシ
牛二応シ」

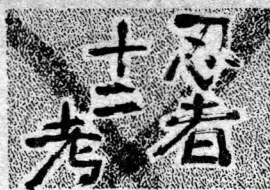
黒義束 黒たけてはない、は
夜たけのものであゝ。昼間はみ
な義装している。これが七方出
(ひちほうで)と呼ばれる七つ
の義装法である。山伏、放教師
い。商人の場合は完全義者が主

て遊ぶのが忍耐なのである。(奥瀬平七郎) 写真は鎖力タビラ

中国新聞社主催、楽々園「菊の忍看展」は十一月二十四日まで

禅と忍術

忍術は生まれ落ちたときから宗教と無縁ではなかった。修験道のふところにいたかれ、天台



— 11 —

密教の影響うける

鎌倉時代には禅宗へ

Oct 24

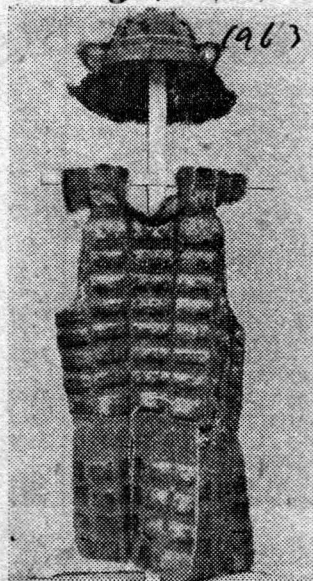
した。「放下的の型」である。この下着（観念の固定、執着）をすてると、これが忍術の要である。

真言の阿闍梨の影響を受けて育った。忍術がこうした保護者の手を離れてひとり立ちした後で

す。新たな宗教がかれらの世界にはいり込んできたのである。その宗教とは禅宗であり、

うからおれについてい「喜んただてしたちは師匠について、一軒の大きな瀬戸物屋の前に来た名人はでしのひとりにあの花びんを取って来いと命じた。見れば二河になんとなす大花びう。当惑即妙、円転洒脱の心境に自由自在の仏世界があると観が堅っているし、小僧もほかの

の花びんに近づこうとはしない。そのうちそのままだから出てしまいいそぎ足でどこかへ消えてしまった。かなりしてから名人は、いらいらして待っている



「色を替える術」であり、禅でいう「放下着」なのである。

これはほんの一例に過ぎないが「孫子」には見えない日本独特のものである。

昔、伊賀流忍術の名人がふたりのでしと暮らしていた。ある日名人がふたりを呼んで言った。「きょうはお前たちを忍びの道の極意を一つ教えようと思行った。だがいこうにくだん

ふたりの前に姿を見せたが、再び店の中にはいっていった。そして何やら店主と掛け合っている様子であったが、間もなくふたりを呼んで「この花びんを買ったから、ふたりで家まで運

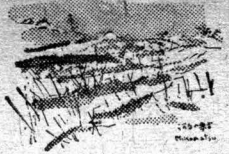
名人はいきなり言った。「わかり、忍術一派の世界を示したものと云えよう（興瀬平七郎）

写真忍術の道具

……中国新聞社主催東洋美術展は十一月二十四日まで

童話十話 (一)

私は、ずっと童話を書いてきた。童話の本質がロマン主義にあつたならば、五十年になる



カット・小松 益喜

とすると、童話の仕事は多少の忍耐努力によつて、よりよいもの、ロマンチックな性分にもとづくものといふのである。その性分の開けやあひは、遠く幼年時代において、母や祖母から昔話を多く聞かされ、自分でもそれをねだつて

の農村地帯の子供では、手にとる絵本のたぐいはなく、幼稚園、保育所の

という集団へ入つたのである。すもな、朝に晩に農家の子として就学前を遊び回つていたのである。その年々るに母の話を聞くことは、とてなほうれしく楽しんでいたであらうが。

と、母の話には、おもしろおかしいものよりも、哀れさや話のほうが多かつたと回想される。思つて、それは、聞く私が哀れな話に、あたんと心をひかれて、その思ひ出が深いためといつたであらうか。それとまた、語る母が子供の時に、生みの母から昔話を聞かされ、やはり、話の哀れなところを感得し、そ

の感得を母となつても身に持ちながらそれをわが子に伝えたのだともいわれよう。つまり、いふなら、母の話は母から聞いたものであり、私からは母の話は、祖母の話と常にたぶつていたのである。しかし、話だぶつていても、くり返されても、幼な心をとらえていた。祖母には祖母の、母には母の心がそこに通つていた。

のさいに、はちかひの妹が姉をあわれみ、助けてやうと心に決め、姉のからだを保持に入れられるとき、底板にキリで小さな穴をあける。そうやってたぐさんの衆衆を入れる。長持は、かつがれる。家をでて山の方まで行く間、底の穴から種はこぼれて続いていく。野にも山にも雪が積もると、一面の白い世界、だが、春がきて雪が溶けると衆衆は

幼年時代の昔話

はま 田 広 介



コタツにあたって向き合う母と子、話のなかの哀れさが子の心と元を詰まらせる。私は落着いて涙を手の甲でふきとりながら半身をしゃんと立てる。吹き荒れたフキがやんで、外にでるなら満天の星がきらめく静かな冬の寒夜である。昔話「おいとからい」との筋のなかでは、姉の娘が長持をうみに土の中に埋められる。その

清人氏は風土症をあげられた。衆の花は日本じゅうのどこにも咲くが、東北の衆の花は、また、色あざやかな衆をさえる。郷里置賜(おいたま)の盆地をながめて山形にいられる歌人、結城哀草東氏は「まのうちに歌われた。置賜は國のまはらば衆咲き 若葉茂りて雪山もみゆる。」「東北の土地に生まれて私は、とかく心を北の方に向けた。北の方とは、どこであろうか。(中略)心ちのおち／＼所、そこでは種は純白く、きびしく、種は美しき、そして、もろさが見られる」と。

童話においても、風土症、郷土色は、作者育ての母胎であつて、作者の作にせしめられて、とくにそれを意識して付けたとまでいふこともそれは、宿命的に實であり色である。ひとほそれを郷愁とたやすく呼んで、作者の回顧的なたたきにおいて見ようとするが、そうするまえに、作品を郷土に照らしてきくなら、その宿命のたないキスナを知るであらう。童話にしてもその作品をよく知るためには、作者の郷土をたしにたすねてみるがよい。童話作家、題字は筆者。

童話十話 (四)

鈴木三重吉氏の企画、主宰による「赤い鳥」の創刊は大正七年六月のことであるが、その年



カット・小松 益壽

の三月三十一日付で、氏は私に創作童話を書いてほしいと、ていねいな頼みの手紙をくれた。それな。巻き紙に毛筆のすらすら書きのやさしい文字、いまも手元に保存している。

く、「赤い鳥」を発行するが、おさしつかえが

ないなら私の推薦として雑誌の紙面をかざりたいとおっしゃたのである。なほこのことを取りだすのか。そのころこちらには名もなき若、処女作の入選だけは、ある人たちに知られたるが、それだけのことでしかなく、

これから何になれるのか自分でさえも知れないとどこにいたのである。そのような者に向かつて、右の手紙を寄せられた。氏は伯樂ぞ、なにと。かりにおうものなら、私にときが良馬になつてしまふけれども、私は良馬ではなく、世間からは軽いと見られる割合にはなんなか重いの「童話」の荷を負い、はなやかな通りをせられて

ていねいな頼みというのは、ためしに二つ書いてみてはくれまいかという書きようではな

きよいしい道をとほとほ歩き続けた駄馬(なま)といいた。自分からこのとがらに触れるのは自費のそりを招くことかもしれないが、こ

じぶん無用のように思われよう。しかし、いとおう、このとに触れておくのも多分はな

の二つの印としてみれば、おとぎ話を童話とは異語同義として、ある期間、並列していた。けれども、それがしたいにすれて二列のかたちとなった。すなわち童話が先立って、おとぎ話は名称を童話にゆずった。だが、それはゆずって消えたのではなく、童話のあとにつながつて一列を保ったのである。もちろん、その名を替えた

三重吉氏の手紙

浜田 広介

「赤い鳥」の創刊に次いで翌八年四月には「おとぎの世界」が監修小川未明の名のもとに発行され、十月までは毎号に未明童話が載せられた。続いて翌年、童話雑誌「童話」が刊行されている。いっぽう、月刊誌「日本少年」が八年の秋、増刊号「おとぎの世界」を出している。これら二、三の例をあげたにすぎないが、このような名づけのさまを判断

け、氏に対しての敬意と感謝をあきらかにしたものである。

さて、右の手紙については、もう一つ注目したい。この項の初めのほうに私は創作童話といったけれども、氏の手紙には童話ではなく「おとぎ話」と書かれている。おとぎ話と童話とのちがう呼び名の詮議(せんぎ)などなど、いま

こう解釈する私には、現代の「童話」という名の旗印は、大正十一年かけて、その旗をオをしゃと地に立て、へんはんとして朝風にひるがえったかと思われる。この年間を頂点として関東大震災の前までは、童話の花もふくめて童話の花は咲きほしかった。児童雑誌は、もちろんのこと、教育雑誌、婦人雑誌、家庭雑誌、各新聞紙にいたるまで童話童話をかかげたのであり、いつまでもなく童話本の刊行続々、ちまたに満ちてあふれたのである。

(童話作家、題字は筆者)

身辺十話 (九)

昭和三十一年、米国コロラド州のボルダーで国際電機科学連合第十二回総会が催され、こ

カット・藤本東一展



れに出席したのを機会に、南部ジョーシア州のアトランタにあるジョーシア大学から客員教授として招聘（へい）をうけ、終会終了後約三ヶ月、この大学で過ごした。この大学には付属研究所もあり、そこでは私と同じ専攻分野の研究

でもあったといふのである。大変いい話ではあるが、実は初めての経験でもあり、少なからず気がおくれがした。
九月下旬大学に着いて間もなく一年に二回しかないという全美的な教授総会があった。その席で電気工学科の主任教授から紹介があったので、学内の大多数の人から顔を覚えられ、通うなりに声をかけられるようになった。大変居心地よくなった。ある日などは、少し混雑していたバスで立っていたら、たまたま乗り合わせた若い教授の人が、わざわざ空席を譲ってくれたうえ、そばの教人の人たちに、日本から招聘した先生だといって私を紹介するほどの親切ぶりに、少々くすぐったい感じであった。

に大變力を入れた。ところで、問題は英語であるが、研究所での仕事のうしろ話し合いなどのときは、別に氣にものななかったが、講義の方は初めてのことであり、いったい私の英語での話が十分通じるかという点が心配でならなかった。それで安余のために、講義の内容を前もって印刷してお

き、それを聴講者と一緒に見ながら話を聞いてもらうことにしたいと申し出、こもともというところ、大急ぎで講義の前刷りを作ってもらった。そしてなおそのうえに念のため、若い一人の先生に相談し、聞き役になってもらって予行演習をやってみた。もちろん正式にやるときに予定された講義室で、どこかが少しやってみたら、その先生が、どうも前刷りを使いながら

説明すると、話に精気がなくなるやうなからい由に話した方がよい。刷り物は聴講者があとで話の内容を思い出すためのメモに利用してもらう方がよさそうに思う。話さくわかるから心配しないでやってはどうですという。それでとはいつことで意を決して、串話をすることに決めた。一方電気主任教授は、聴講者があまり少なうては私に氣の毒だと思つたらしく、揭示に私の特別講義を聞へことを強く勧めると書いてあった。

うな事柄であった。私はこの質問の内容から、まったく反射的に、私の特別講義にわかるのだナといふことを直感し、長い間の心配が一瞬にして氷解し、安心感とうれしさが、胸一杯にこみ上げてきたのをいまもって忘れることができない。それからさきは時間のたつのも気がつかず、案外案に話ができた。ところが第二回にまた心配になったことは、こんどは聴講者が相減るのではないかといいことであつた。しかし、恐る恐る講義室へ行ってみたら、幸いにもやはり前回と同じくらいの人數が出席していたのでホッとした。

客員教授

古賀逸策

mar 6 1969

講義室へ行ってみると、聴講者の數は軒々一杯へはい。まず主任教授から私の紹介があり、私は手短かにいさつを述べ、本題にとりかかった。もちろん相当なかたなうていたと思うが、ものの五分もたつたかと思うと、ある一人が私の話をきききき、簡単な質問をした。この質問は、私があまり進行しないうちに念のため確かめておいた方が、あとの話を理解するうえに必要だと考へて、発したものと思われる。

こんなわけで私は初めての外国での講義が比較的うまくいったとは非常にしあわせなことであつた。お陰で二回目からは、日本にいる時と同じように、どんな筋道で説明すると、最もよく話の内容を理解してもらえうかといふことだけ研究すればいいようになった。日本の大学でも、もっとも専門質問が出てもいいのではないかと思う。

(東大名誉教授・工博、題字は筆者)

うつわ (その三)

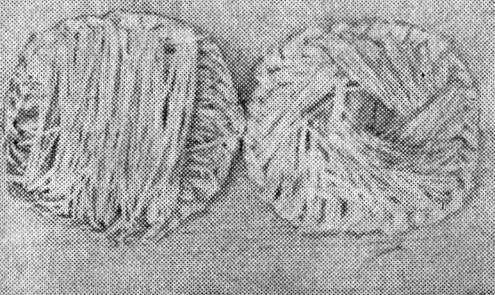
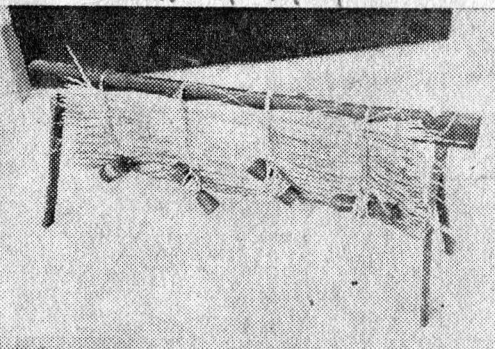
今では農家は、年から年中 治した際、竜神が太刀一振り、巻 お米をたらふく食べますが、これ 絹二つ、よきい(鯉一箇口を はく最近のごとで、昭和の初期 結んだ俵二つ、それに赤銅の桶き りまで、ほとんどミキを主食 絹二つをおれたと書いてあ とし、明治以前とくに封建時代に はミキすら食べられない、それこ そ文字通りの水のみ百姓でした。 だから作ったお米は、ほとんどが 「小作料」と「年貢」として出し

農具のあゆみ



47

mar 4 1964



農具のあゆみ 田たわら 田たわら

てしまわなければなりません。

そのためには、持ち運びが便利 ないように、一定のウツワへ入れな ければなりません。そのために作 られたのがスマートな「俵(たわ ら)」なのです。

この俵(たわら)はいつごろ考 え出されたものかわかりませ

んが「太平記」の十五巻中に、藤 原秀郷(ふじわら・ひでさか)と いう武士が竜宮城で大むかでを退

ですが、この太平記ができたのが 今から六百年ぐらいい前のものとも いわれ、そのころ「俵(たわら)」 というものを使っていることが わかります。

俵(たわら)と言う語源は「た ばきわら(東蕪)」というところか ら起っているのかもしれないと

ん。写真の右に、俵(たわら) 俵(たわら)の中へ米を入れる 編み機を使って編みます。一本の 板の両端に二本足のついているの を普通「ま」といいます。これ に「うしろ」という木八個に小 縄(なわ)を巻きつけ、板の目 の上を四力所おいて二力所す同 時に編みます。すなわち最初一

所ワラの根元のほうを編みます。 このほか稲作のために使う用具 には「はかり」や「むしろ」さ

そのつぎには、残されたワラの先 のほうへ反対側からワラの根元を 収獲に関する祭具などがあります

おき、先とあわせて二力所編みま が、これらについてはいすれ目

す。このように左右二力所あて交 あらためて紹介する機会がある

互に編み、全部編み終わると、最 ちかと思えます。(新藤久人) 〓

初編んだところへ結び合わせて円 おわり

筒を作ります。

都のうちどと

(15)

江戸時代の温泉番付をみると、西の有馬に対して、東の

毒というのは皮膚病のこと、熱い湯にはいけるとは焼けただれ、イナバの白ウサギのようになると書いてある。それくらい熱い湯だから長時間入浴できない。自然発生的に「時間湯」が生まれたんですね。

明治十一年、

越後の三条から

やってきた野島

小八郎という人

が初めて「熱の

湯」の湯長になり「一日の入浴

は五回。一回の入浴は三分」と

決めてから「時間湯」という入

浴法が始まったのです。当時、

湯の温度は摂氏五十一度はあつ

た。患者たちは足袋をはいた

り、全身にサラシを巻いたりし

てつかった。それでもたまには

の湯はいみじくも熱き湯にて癒

ました。すると「アガった」と

いって、板の間に寝かせて頭か

ら水をぶっかける。しかし、それでも息を吹き返さないものもいたそうです。

明治十三年に東大教授のベル

ツ博士(ドイツ人)がやってき

て高温入浴療法に興味を持ち

「時間湯」を研究して新しい

入浴法を案出した。これはま

ず高温の湯を四十八度まで下

げるのに湯を「もむ」ことを教

えただけです。湯もみが始まった

はそれから、浴度は「ぞこて

湯治客より観光客

☆

「存じ」草津節「はもともと

この湯もみの歌として始まった

ものです。はじめはどんな歌だ

ったのかよく知りませんが、明

治十三年ごろ、東京高等商船学

校の歌や大成丸船歌が歌われる

ようになり、これらの歌の節に

合わせて「草津よいこ一度は

おいで」とか「お医者さまでも

草津の湯でも……」などと歌う

ようになりました。

(今回は葦子焼)



その後、平井晩村や相馬御風

なんかが作詞したりして、い

いろの替え歌ができ、全国を風

びしたわけです。しかし最近

医学の進歩とヘニシリンなどの

発達で、のんきな長期入浴療法な

どはしだいに忘れられ、いまで

は草津も療養目的より観光でや

ってくるお客さんが多くなりま

した。このころでは旅館の方で

も「湯治客よりはひと晩泊まり

の観光客の方がありがたい」と

軒並み増改築をやっているよう

なわけです。

mar 9

わらうた

山口県



子守り歌

いねんよこんぼしよー

ねんねのもりはごへいた

山を越えて里へいた

里のみやけになにもうた

でんでん太鼓に笙しよこの笛

笙の笛なら音がよから

びいびいならして聞かしんせ

◇

ねんねこ酒屋の子

酒屋がいやなら嫁入りさしよ

嫁入り道具は何々か

たんに長持ちばさみ箱

これだけ仕立ててやるからに

さらりかえると思やんな

こんなときさんどうよくな

千石積んなる船でさえ

風がかわたらまたもどる

◇

ねんねこ酒屋の子

酒屋がいやなら呉服屋へ

◇

ねんねこねんねこ

嫁たらおかにつれてめく

起きたらごんにかみさせよ

ねんねこねんねこ

◇

ねんねよい子し。ねんねしな

ねたら山の雉子(キジ)の手

起きたら鷹にとられます

1964

来歴

このころ、カメラの生産量と、その種類の多さでは、日本が世界でトップに立っています。そこで、カメラとフィルム、の故事来歴についてお知らせします。

カメラとは、ギリシャ語で「へやのこと」です。これが写真機の専門語になったのは次のような由来があります。

昔、ギリシャの万能科学者アリストテレスは、暗くしたへやに小さなあなから日光を通すと、あなと反対側の壁に外の像がさかさまに映ることに気づき、この装置を、カメラ・オブスクラ（暗い室）と名づけました。ところが、後世、写真機が発明されたときには、大きな暗箱式だったため、これをカメラ・ボックスと呼ぶようになり、その後は、どんな写真機も単にカメラというようになったので、

さて、写真法ですが、これは、一八三九年に、フランスの画家ルイ・ジャックが発明したものです。彼は、レンズをけた箱の表面にすりガラスを置き、これに映った風景を絵に描いていました。ところが、この風景をガラス板に化学薬品で残しておこうと考え、偶然、銀をぬった板に水銀の蒸気をあせさせると、像が残ることに気づいたのです。これは一八四一年に、オランダ船で長崎に伝えられ、

カメラとフィルム

上野俊之丞という人が初めて習得しました。しかし、一八五二年には、イギリスのアーチャーが、ガラス板に薬品をぬり、これがかわかないうちに写真をとるいわゆる「なまどり」または「湿板法」を発明してからは、こんな不便も解消しました。

真のことをフォトグラフ（光りによる画）の意味といいますが、そのころはなまど、ホトグラフと呼んでいたようです。この湿板法は大きな暗箱と薬品を用意しておき、写真を撮る直前に調合したのでたいへんめんどうでした。しかし、一八七二年に、イギリスのマッドックスが乾板を発明してからは、こんな不便も解消しました。

明治二十年（一八八七）にアメリカのバグッドウィンが発明した。その特許出願中に、いまでも有名なイーストマン・コダックが売り出し、問題を起しましたが、ついには市場を独占するようになったのです。

上野俊之丞の子息の上野彦馬が長崎に初めて写真館を開き、それから十年後、米人から技術を教わった下岡謙作も、横浜に写真館を開きました。英語では、写真

日本では報道写真が新聞に初めて使われたのは日露戦争のときです。さて、フィルムは、明治二十年（一八八七）にアメリカのバグッドウィンが発明した。その特許出願中に、いまでも有名なイーストマン・コダックが売り出し、問題を起しましたが、ついには市場を独占するようになったのです。

明治二十年（一八八七）にアメリカのバグッドウィンが発明した。その特許出願中に、いまでも有名なイーストマン・コダックが売り出し、問題を起しましたが、ついには市場を独占するようになったのです。

明治二十年（一八八七）にアメリカのバグッドウィンが発明した。その特許出願中に、いまでも有名なイーストマン・コダックが売り出し、問題を起しましたが、ついには市場を独占するようになったのです。

時評

Feb 15 1968

きょう十五日は釈尊が死なれた日でありこれを涅槃会（ねはんえ）という。人間の死について釈尊の考えの自由をまた「自在」ともい「無碍」ともい「たのである。自由、自在、無碍になることが、これが涅槃することである。それで肉体の死の訪れる前に、心の死を迎えることが重要である。肉体の元氣な間にも心の死はこれを表現するのは可能である。心に自由、自在、無碍を獲得すれば、それは涅槃したの

心が自由になったとはどんなことかが課題である。端的に、そこで自己自身に向かつてはいってまず相手の悲しみがわかる人間になることである。これは簡単なようで実際は非常に困難

涅槃会

「果」わたしは罰が当たった。現するこのない働きであらう。果「わたしは罰が当たった」といってもよいが、これを他人に修養し修業をする必要がある。果「わたしは罰が当たった」といってもよいが、これを他人に修養し修業をする必要がある。果「わたしは罰が当たった」といってもよいが、これを他人に修養し修業をする必要がある。

決定するものである。わたしたちの喜びには必ず裏に苦痛がある。他人の喜びをわが喜びとがともなっているが、他者の喜びを喜びとするものには共痛がない。たとえば公園の美を喜びとするとき管理や手入れの苦痛は、自己の庭園をよめるものよりはすくないわけである。公園は万人が相互に大切にしながら喜びを共有するものである。公園は万人が相互に大切にしながら喜びを共有するものである。公園は万人が相互に大切にしながら喜びを共有するものである。

(水)

○：「寒いおもいをして洗っても、売れるかどうか。高いときばかり苦情をいって、まったくお役所や消費者は勝手すぎますよ。冷たい風が吹きさす野原でダイコンを洗っていた農

家のおかみさんが訴えていた。ダイコン二本五円、キャベツ一個四円、ハクサイは買い手がつかどうか、これではおかみさんが怒るのもうなすける。暖冬異変で野菜が育ちすぎたことも

あるが、この値段が激しく変動しては、生産者にとって死活問題だ。

○さうした、相場にならない安値にたまりかねた生産者のなかには「みすみ損をするな生牛のエサにでも」と、市場への出荷阻止運動を起すやうに、農林省や市場に「農民を殺す気か」「肥料代ぐらひ補償してほしい」と陳情に押しかけるなると、専作倉芝の打開策に乗り出したところも現われている。ハ

暖冬に泣く

クサイつり三十年といふ茨城県の農家の主人は「機械導入農村の近代化になって、うまいことをしているが、つくったものが売れないよ。なほ政府はいつになってもうかばれませんよ」と、立ち上るのクサイ畑で、無計画な農林行政に腹をたてていた。

泣く

「ハクサイつくりはもうやめた」と野菜が暴落した三年前から耕作地半分をキクの花づくりに切り替えている。理由は、半年がかりでやっとのさあびてもらったハクサイはハクサイで、高級野菜として買ってくれない。そのうえこんどのように安値とときは安心してつくっていられない。キクの花はよいものをつくれれば高く売れる夢があるというわけで、こうした動きは各地に広まってきた。



その姿を愛好する人は多い。庭園
のふせいは大同小異であつても、

それを愛好する人の心はいろいろと差異がある。ある人は、自分の

にそれほど興味を持たないのに、ただ家の装飾として、よその人ばかりにりっぱなお庭であると心ざれることが目的で庭をつくつてであらう。

またある人は、何ごとにも欲望が強く、世間の珍宝を集めて、

才・徳

能
196

達するにござりなしたいたいたすら俗人にまぎ、それを愛するものといわなければならぬ。

またある人は、天性淡泊であつて、俗事を憂せず、たとへ詩歌につ

こまでは通人も修養する人もおなじであるが、そこに道心をいたさ道行のたすけとする人はまれであり、常のさまの人の山水を愛するの博識をもつて奉仕している点の操がないとうか、案外当節若い人たちに再検討される人物かもし

煙霞の病人、泉石のこもつ
要するに通人である。通人、粹人
はやさしい心をもつものであるが
それだけにさまざまなことが多。
山水をながめて心のねむりをさ
まし、つれづれをなくさぬ。そ
滅の足跡を印している例の夢窓国
士の説いた一種の道語である。む
かしもいまも、この説法は聞かせ
る力を持っているやうであるが、
そういう大先生である夢窓さんも
後世、怪物視されて、あまり尊敬
を集めていないやうである。おそ

分相應の生活

立派な建物だなあ、欧州へ相当に強い克己がいる。と
もっていったって、これなら
ところが、遊ぶとなると、なか

一海、など悪いながら、なか金がかかるとしてきて、新しいビルにみとれて歩いてゐるのに、日本人一般の所得のうちに、急に穴ぼこのなとなる、欧州の水準にははるかに足をつつこんで、よめるかにおよばないものである。

[illegible]

このアンブラン
スは、このこの

路との間にみられるこのひどいアンバランスは、日本人の生活の大きな特徴だろう。東京はと遊ぶ施設が多いところは、おそらく、世界にそこは、おそらく、遊ばない誘惑に勝てなければ、年少者犯罪の激増につながらないだろうな。こどもの小づかいにしては高すぎる遊び場が多いが、そういうところで遊ぶには誘惑に勝てなければ

うたくさはないで、ないではないかと私は思う。ここまでの遊び場所から、おとなの遊び場所にいたるまで、東京にはおそらく多くの種類のものがあつて、いろいろなところがあるが、よく似たところがある。その二つのように思われるものがある。(○)

憂樂帳

このアンブレラ
スには、このくまの

のひと年少者犯罪の激増につながらないだろうか。こどもの小づかいにしては高すぎる遊び場が多いが、そういうところで遊びたい誘惑に勝てなければ

はなはた強い強盗や盗みに手を出すことになる。収入相応、身の遊び、分相応の生活と、ということが、いまの日本には大切なことの二つのように思われるのだけれど、どうだろうか。(〇)



計台時

謹賀新年。
 ことしも、よろしく。
 年のはじめの
 タメシとて、
 といつわけで「計台」同人が
 「新学生いろはガルタ」をつく
 ってみました。

る 類が友をよぶ非行少年
 を とめがシヤな文学部
 わ 早稲田の野球部もある
 か かわいい彼女は高校三年
 よ 予備校がよいじや、デイト
 もてきす
 た 短期大学の就職難
 レッス・ダンスがマーシャ
 や やまがはすれた一夜つけ
 お 嫁に行わでッサリ退
 学
 く くさい物にワタの学園騒動
 や やまがはすれた一夜つけ

新学生いろはガルタ

い 家出の好きな中学生
 る 「ロウ」より「録」
 は 花よりデイトの「学園広場」
 に にくまれっ子、ミルク給食
 ほ 骨身にしみる授業料値上げ
 ヘ へんな学生、ワイ本つり
 と 年月かけた「ボロロ判決」
 ち 散りてバラバラ学生運動
 り リコウ者の「ゴネた」さん
 め 盗人のテンブラ学生

ンか
 そ ぞうりょうのバカンス旅行
 つ つ月も知ってる夜間中学
 ね 年始がわりに「会社回」
 な ない知恵はるカンニング
 ら 落第すれば苦あり
 む 無常義舎屋のニコル騒
 動
 ま ズマイ・カー 学生のひき
 逃け
 け 憲法にさばかれた昭和女子
 大
 ふ ふかく静かに軍事研究
 こ こんには、大学生諸君！
 え 駅からとおい駅弁大学
 て 手直しムードのインタン

制度
 あ 「青田買い」でもめるプロ
 球団
 さ さようなら、小さな親切
 茅 総長
 き きょうの夢、学園都市の夢
 ユース・ホステルで知りあ
 った仲
 め めでなく決まった新学長
 み みんなが手助け、卒業論文
 し 試験すきれば、教科書売り
 ん 縁は異なもの産学協同
 ひ 暇があったらサークル活動
 も 貰ったつもりか、奨学金
 せ 先生もバーでは「おじさ
 ま」
 す すくには入れぬ学生会館
 ん 「大卒」の学士さま
 (計台台同)

風紋



NHKが
 昨秋八十日
 間にわたっ
 て中国大陸
 を取材して
 まわった現地ルポを、こないだテ
 レビの一時番組組んで見せてくれ
 た。そのなかに「民族資本家」の
 家庭生活の現状の一端が紹介され
 た。革命当時、多くの資本家は台
 湾や香港へ逃げ、中国共産党へ協
 力した者は「民族資本家」として
 その戦時技術を買われた。NHK
 のカメラに出てくるのは現在工場
 長として中国では最高級に属する
 月給をとり、ほかにその提供した
 土地や生産施設にたいする地代、
 利子として月給四カ月分くらいに
 当る年金をもらっているという
 一家である。月給は日本の物価指
 数になおす二十万内近くの月収
 に当たるから、まずは日本の中ど

中国の民衆

1964

近隣の者ががやがやと集まって、
 聞き耳を立てる。未だあとを追っ
 て出てきて、妻の弾がいに応酬し、
 衆人に夫としての自分の立ち場を
 釈明する。これは中国に暮らした
 人がよく見かける光景だ。これが
 人民裁判の原型だともいう。
 中国通のある人が、中ソ対立で
 広島の昨年八・六原水禁大席
 上、中国代表がソ連代表へ食って
 かったあのさわがしきは、往来
 へとび出す中国の夫婦ゲンカのタ
 イタイ(太田)のアレと同じ調子
 だよ、と笑われた。中国人は社
 交や外交にたけている。昔からハ
 イクラスの男性は毎晩の宴会上に
 時間を切って数会場をかけ持ちす
 ることを自慢するような伝統が
 あり、その点、現在の日本の会社
 重役のスケジュール自慢に似てい
 るとも言える。大體的にいう長な
 だけが中国の全部ではない。
 とにかく、中国大陸の民衆にと
 って、数千年という長い間、征
 服者としての政権の利己主義と目
 治的な大衆社会とは平行線のような
 な二つの間で、政治はそのよう
 なものだと思ってきた。それが先
 だ。

その会社長の所得とほぼ
 同等ということになる。
 革命当時は人民裁判にかかって
 惨殺された旧地主などもあったよ
 うだが、一般に中国人の社会は、
 口でのしめることがきびしいほど
 手を出すことは早くないようだ。
 夫婦げんかではよく主婦が往来へ
 とび出して、町じゃうへ聞こえる
 大声で夫の非道をわめきちらす。
 中国の民衆

建築家十話 (六)

終戦直後、私に進駐軍から出頭せよという通知が来たので驚いた。何事かと思つて、大坂

の将校たちは、意外にも非常に丁寧で、つい最近まで敵国の人とは思えないくらいであつた。

これは、後日わかつたことが、若い将校の一人でSというのは、ピッツバーグのカーネギー・インスティテュートの建築の出身者として、卒業と同時に従軍したので、建物のことや建築

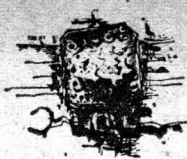
でも、私にだけは非常に丁寧で、別待遇をしてくれた。私が少し遠慮しているよ、自分の机を使えといふた。

その後しばらくしてから、私はロサンゼルスのあるホテルで食事をしていると、後から私の名を呼ぶ人があつたので振り向くと、その時のもう一人の将校であつた。お互いに抱き合つて奇遇を喜んで、彼の友人に私のことをクレート・アーキテクトなといつて紹介したところをみると、戦争に勝つても、職能のうえでは先軍として尊敬して、その点の理解はさすがだと感心もし、また好感も持てた。時々、私の宅にも遊びに来たが、正装して胸に勲章をつけたりしていたところをみると、相当の礼儀をつくしていたと思う。

家とPX

村野藤吾

ある時、二人を誘つて桂の離宮を見物に行つたことがあつた。荒れてはいたが、五月、この夜の景色には二人とも絶賛を惜しまぬ風情で、よく日本趣味を理解していた。多分どこか、書院のどこであつたと思う。床柱のなぐり、黒く光つてゐるのをなで、オー・ラフリーといふ。この若い将校にも、これがわかるのかといふことが意外であつた。この人はいま、ニューヨークで室内装飾の事務所を開いている。わ



カット・若松光一郎

のその百貨店に行つた。すでにその百貨店の建物は、PX（進駐軍の酒保）として接收されていたのである。建物の内部は、長い戦争で荒れて、昔の面影はなかつた。これまで持ちこたえてきた店の人たちの苦勞もさうだが、終戦になり、いざこれから復興を楽しんでおられたやうきに接收されたのだから、店の人たちの氣持が察せられて、建物の姿もあ

返るのかと思うと、うれしかった。ついでには、あなたには、軍から毎月、月給として、これらの給与をさし上げたかと思つたといふことがあつた。その額は、当時としてはかなりのものであつたと思う。しかし、私はそれを断つた。アメリカの月給はもらえないと思つたからである。建築家は報酬をもらうものである。報酬でなら働いてもいいといふた。いろいろのことがあつたが、軍は私の希望どおり報酬を支えることにして、改造の仕事に關係することになつた。

家のことはよくわかつていて、福知山に軍が進駐してから大阪市内の百貨店を調べた上、「そのう」に目星をつけたところであつた。つまり、この若い建築将校に見込まれたのが不運のうなもものになつたわけで、あとで、その将校は私に、建築が気に入つたので接收したのだといつて笑つた。まったく笑えない話で、そのため「そのう」は非常な災難をうむことになつたのである。改造工事中は外務省の奥村さんなど時々見られ、将校と話をしているとき

び、さびななという氣持は、こんな若い人たちの實際の理解に負うところがあるのではないかと。もう一人の将校はユダヤ系の人だが、相当富裕の人だと思つて、彼の家は祖父の時代から住んでゐるもので、私の家を訪問した時、庭のコケを見て立ち去りがたい風情をしたところなどから察すると、この人の生活がわかるように思う。兄は相当の子供服専門店を営んでいるところ、その後、ニューヨークに行つた時、見たのだが、フィフス・アベニューにりつぱな店があつた。私たちは一般アメリカ人のように個人主義の家では、そんなことはないと思つていたら、その将校のような家庭もあり、また私の知っている人にも、それはある会社の技師長級の人だが、結婚した頃の部屋を家にいる時のままにして、娘夫婦が来た時に泊めるのだといつていた。

一九三〇年のころロンドンのサミュエルという邸宅を訪ねたことがある。大阪商船に深い關係があつたので、会社の支店の案内で見せてもらった。さほど大きな家ではなかつたが、居間にはエリザベス時代からの家具や調度の類がそろつて置かれてあつて、日常使われている。時々、修理はされても代々の人が祖先からの家裏に日常親しんでおられるところをみると、さすがにイギリスだと思つた。

(芸術院会員、題字は筆者)

Mar 28
1969
山本芳雄

ハワイに於ける 仙教の揺籃時代



(九)

とにもかくにもこの悪條件の下にあつて、傳道に訓練された牧師の必死の努力にもかかわらず、キリスト教に轉向した者は移民數の

割にして實に少數にすぎなかつた。こうしたところから單獨布教に従事した無名布教使の功がないと云える證據は何もない、實に立派に布哇佛敎草分時代の役を果したのである。

明治三十年(一八九七年)に至つて布哇に於ける在留日本人の數は二萬五千人を記録されるに至つた。

その年の二月、桑原覺成師が歸朝する事になつたのでヒロ佛敎會に金安三壽師が駐在を委託された。

三月になつて、京都の本山は、十二年間放任していた布哇開敎に着手するこゝとなり、宮本恵順師を調査使として特派する事に決定した。これは、さきに歸朝した蒲生行也師が當時の本山執行の一人(内閣員の意)大洲鐵然師を知つていた關係から、蒲生師が布哇の實情を大洲師に報告し、説得したと伝えられていた。宮本師は來布と同時に、

各地の在留佛敎徒を訪ね、その生活状態を詳細に視察し、所謂單獨來布僧侶により散布した弊害の痕跡を極め、いよいよ正式開敎に着手するに緊急なるべきを確認した」と布哇開敎史は述べている。(弊害の痕跡調査のみならず功績調査もしてほしかつた)

宮本師が來布と同時に、日本人移民上陸拒絶事件が起つた。即ち神州丸乗船の日本人六百名中、四百九十名が上陸の資格なしと云うのである。(この問題は布哇政府當局が日本人移民の

激增を慮り、その制限を講じようとして、移民法に抵触を理由に、約一千人の上陸を拒絶)

時の外務大臣大隈重信伯は布哇政府に強硬な抗議を提出し、その交渉のため總領事館を公使館に昇格すると共に、島村久總領事を辦理公使に任じて事件の掌に當らしめる一方、軍艦『浪速』を急派した。布哇政府は米布合併問題を眼前にして當惑の結果、遂に日本の要求を容れ七萬五千弗の損害賠償によつてこの問題は解決した。

ハワイに於ける 仙教の搖籃時代

山本芳雄



(十一)
私は山命を受けて來布した山田將爲師と後年再來布した(一九三四年)ワイルダ本願寺で約半カ年起居を共にし、搖籃時代の本願寺の

話を詳に聞いたが、宮本師は仲々の智僧であつたようである。山田師は無欲快淡、筋金入りの支那風豪僧であつたが、彼はホノルルヒロ、更には北米、ロスアンゼルス等數々の寺院を創立させるといつた建築の名人で、彼の一生は佛教宣布事業のために流浪生活の連続であつたが最後は北京別

院監督となり一般からは北京の聖者と仰がれて他界した。慧眼の士は彼の如何に傳僧であつたかを知つて

いる。曜日、蒲生、山田、里見今村と非凡な諸師により經の懸記にある如く、印度に源を發した佛教は支那に傳わり、日本を経て布哇に渡つて東漸の實を見せて、爾來七十九年になる。一八五一年、最初の支那人勞働移民百八十名が、給料一カ月三弗の契約で來布したのが集團的東洋人の嚆矢とする所であるが、彼等は

佛教を布哇に傳來させたのでなく、道教(タオイズム)を齎したのである。

(一八六九年五百人の支那人が続いて來布、明治十八年(一八八五年)日本人移民が來布した時の在留支那人數は二萬人餘りであつた) 曜日師が消息を絶つて後、ホノルルの佛教布教場はエソマ街に移つた。これは明治十八年、日本帝國總領事の中村次郎氏が赴任と同時にエソマ街ローヤルスクールの隣、ユワ側に假事務廳を設置したが、後になつて

總領事館はヌアヌ街に移轉したので、ここは空屋となつていたので、木村、菅雨氏の骨折りで借り受け、菅氏の倉庫兼用として佛壇を設けたと云う。

宮本師の來布と同時に單獨來布した金安三壽、佐藤行信師を土地の様子を知つてゐると云う理由で、水先案内役として正式開教使に任命した。佐藤師は山口縣井關村願久寺の出身で、開導教を卒業し、明治二十九年(一八九六年)九月に來布したのであつた。

(つづく)

童話十話 (六)

大正十年の年頭から東京朝日新聞は、新童話という欄を設けてその名の文藝家達の各作品



カット・小松 益喜

を載せ始めた。小川未明氏の名作とされる「赤いろうそく」と人魚」の作もそこに載ったのであるが、当時その新聞に関係深い漫画の大家、岡本一平氏の推挙によって私の作「みぎとみぎ」

のであり、私がその編集にあたるに及んで毎月の画稿をもらいに、芝田金光町の氏のお宅まで通ったのだが、そんなところから知り合って、かの千代史にもお目にかかった。文学について女史との対話の間に「わたしも童話を書きたいわ」など語って、ある日、女史は、それを二つ書いたからと私に見せ「へたな」を直してちょうだいといわれたのである。

私はいわれのとおり、その原稿を持ち帰り、そちちと宋を入れたから紙面が次々赤く染まった。それを急いで女史の手元に郵送した。すると間もなく一平氏の手紙が来て、

あれじゃ、君、女史がかわいそうだから、ほく、仲にはいった。ほの手入れをもう一度見つけたま。こんなとき時でいいから、と書いたあいに書かれてあった。
思えば、それは若輩のバカ正直なやり方で、ご夫妻に礼を欠いた次第であつたが、おふたりともに気にかげられたすすまなく、一平氏は

(き)のどけいといふものは、その人間の体験、ならびにその実感が語られることばのなかにあるもので、ちよとした話の端にもそれが出ようといふものである。
さて、こちら、かの千代史は私の童話に対して「星のうしろに美しい」などたたりをきたしたが、その時の言が島崎藤村先生から出たかのように、ある人たちは伝えている。それでは島崎先生に遠慮となるのであるから、事はささいなことながら、そのあやまりをここに正しておくのである。

おはかきが届いたのである。四、五人の若い諸君がわしたを聞かして時々集まる。よかつたら言も出かけてみませんか、といったような文面、このようなきかけを待て、やがて自分の童話集にのせて下さる、仕事にかかわる応援のおこしは、二をいたなうとができた。その二つをこちらからお願いを申したものではなく、先生から来たのであつた。

いにも恩人

man 15 196

浜田 広介

いわれたのである。
「君は、よく、大上段にあがった。その構えでいい。ちよちよと小才でやってもダメで、じつと二つ二つを握り下ればいい。握るだけ握れば水はしせんに出るんだ」
私はいまそれを忘れることなく、時々に取りだしている。人の心に住みつくこと、金

て少しばかりのつなかりを語っておきたい。私がきき早稲田先生のこと、雑誌「中央文壇」に小説として著作を投稿して、適合賞候補者の三名のなかに入られ、賞金等分の賞をもらつたことがある。その時の選考が先生、そんなことなら、もしかしたら、私の名を思い出されたものでもあつたか、ある日、ふいに先生からの

(童話作家、題字は筆者)

Mar 26 1969

部のうらやま

(25)

神天戸電

権 福 宣

星野至任さん (29)

「生存知のうちに、こころは天神さまの宮原道真公がご祭神でございましょう。寛公は五才のときにはもう立派な和歌をおつくりになって、大人さびっくりさせたとはいえなかつた。たゞですからそれで、むかしから天神さまといえは、でも『學問の神様』『チエの神様』ってことになっていゝんですね。ですから毎年就職、進学の時スンになると「私もぜひ天神さまのような、すばらしい知恵にあやかりたい」というわけで、子供づれの親「さん、学生さんのお参りが絶えません。さう

三月、四月なんか多い日は四、五百人もお見えになりますかね。それがみんな入学祈願や合格決定の報告のお礼参りの方ばかりです。完成したばかりの総朱塗りの拜殿、サイ銭箱の前で一心に手を合わす親子、その親子に一枚二百円の「おれ」を手渡しながら星野さんの話は続く。



入学、就職……願かけに

をはじめ、そりゃたくさんあるとは本所かいわいの氏神さまだんですが、いつの間にか鳥戸天神が願かけのメッカみたいになつちやまして……。むかしはこの鳥戸天神も本所宰府とか、東宰府天満宮なんて呼ばれた時代があったんさうで、もとも

さう、おかげさまで今日のように入派な拜殿や太鼓橋ができました。そんなわけで、そりゃなかに方は大せいお見えになって、お礼参りをなさいます。だが、最近

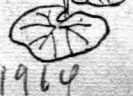
は入学試験や就職試験に失敗した方たちもかなりお見えになりますね。まあ本来は失敗した方の気持からすれば「神さまなんていいかげんに」っていうのもいたし方ないんではないか……。どうして、どうして私ども神職の立場からみても、近ごろのお子さんの根性っていうのも、そりゃたいしたもんでね。ボクが失敗したのは努力が足りなかつたからだ。どうかボクの勉強に、もう一度勇気と力をつけてくださいな。むかしの人よりよっぽど細り切っているというか神と人の関係なんかについても実に合理的に理解をしているうです。ええ、いくら神さまだって、なまけ者や他人まかせの一方的なお願いには、力をおかしにならないのは当たり前です。からね。

(次回は大更替)

mm 31

ハワイに於ける

仙教の揺籃時代



1964

山本芳雄



(十)

宮本師がハワイに留信使との間で協議したその結論は、一、本山は布哇布教監督権を確保すること、二、開教使の選擇及び任免権は本山にあること、三、自稱僧侶、自任開教使は傳道に従事することを得ず、四、寺院經營及び僧侶派遣の費用並びにその生活は

一、信徒側にて責任を持つこと
 二、寺院建築等の物質的保護は本山の實情に鑑み、爲す能わず。信徒により獨立自給であること。
 三、但し、この寺院に本山の任命を受けたる開教使を駐在せしめることを要す
 四、布哇の各布教場は自今眞宗本派本願寺出張所の名義を用い、本山所屬のこと
 五、以上の申合せが成立した。(何だか童話の「サルとカニ」の話を思い出させるほどに手前ミソの感じがしないでもない)

いでもない)更に宮本師はホノルル市及びヒロ市に在留の信徒代表より嘆願書を提出させる運びとなり、代表者は連名を以て之に署名した。(嘆願書の全文は布哇開教史中にあるが、その内容は布哇の佛教徒の事情が幾分薄弱にして誇張されたところがあり、單獨來布の僧侶攻撃に集注している點、宗教を欲求する布哇信徒の心情とはかけはなれているところに疑義があり、宮本師自身の筆なるが如き印象も受けるが、しかし名文ではある)

- △ホノルル代表
- | | | |
|------------|---------------|-----------|
| 廣島縣安藝郡仁保島村 | 菅 保平 | 森本龜太郎 |
| 村上徳二郎 | 玉堂 菊松 | 錦田直太郎 |
| 廣島縣安藝郡地御前村 | 橋本 米吉 | 渡邊市次郎 |
| 廣島縣安藝郡瀬戸村 | 廣島縣佐伯郡五日市村 | 吉見 靜夫 |
| 廣島縣福岡市上綱町 | 新原 助次 | 中尾友太郎 |
| 福岡縣筑上郡要角田村 | 熊本縣上益城郡伊豆堅甚太郎 | (以上十六名) |
| 山口縣玖珂郡麻里村 | 山口縣大島郡森堅村 | 丸市庄次郎 |
| 山口縣大島郡 | 河合 行助 | 廣島縣三次郡三近町 |
| (御調郡)三原町 | 廣島縣廣島市東新開 | 煙力 力藏 |

廣島縣安藝郡戸坂村 角田 林平 西村春太郎 鹿兒島縣鹿兒島郡上法琅 永山常次郎 (以上八名)

宮本師は同年九月、これを携えて歸山したと、今から六十二年前に藤井玄漢氏が發行した「新布哇」と云う信用出来る本に書かれてあるが、不思議な事には六月五日に嘆願書に署名して同年の七月(日付けなし)には、既に本山當局からその許可が菅保平氏(代表)宛として來ている。そして同年十月には正式開教使第一號山田將爲師が來布と云う手廻しの程にも感心させられる。(當時、飛行機は勿論なく、船便も現在の如き早いスピードではなかつた點に注意すべきである)

(つづく)

童話十話

(七)

本の童話のなかに「竜の目の涙」と題する作がある。いつのことか、そう古くはない過去の



カット・小松 益喜

日に、映画俳優、石原裕次郎氏が中国の童話を語るとして、ラジオの時間に「竜の目の涙」とおりの話を放送されたとか、私の気づかないことであったが、そのことで高崎市在住の友人、

幼稚園長、中島 勉とゆきとを与えるなうと書かれたうきとを研六氏からお知らせがあり、おもしろいものが目につく、映像がてんてん生まれて印象が強く出ようと思え直して、あきらめを替えたのである。

この町の男の子が誕生日の喜びのとき、憎まれもの山の竜を抱きかかき竜を迎えて

し涙を流してしまい、新しい世の子供のために喜びを与えようとのテーマには、一つの善から次の善が生まれるという、東西両洋のたれにもわかる道理がすわっているたれである。平凡な道理であるが、それには、抽象的ないい方では、ひとにいても説得の力が弱い。童話は、それを、子供たちにもうなずかせ、さだには、

限である。もし、異を好む人があって、童話を拘束されまいとして、ここに真の悪魔をこしらえ、世の人たち、けたもの、鳥や魚どもまで次々たまして、うまい物をふんだんに食べ、安楽な暮らしをうと続けとおして、しまいに天国まで上っていくって、天門の番人たちがそぞろたまして天国のふもとを果たしたという、なんともそれをおもしろく、おかしい話の傑作を書いたしよう。そうすれば、その出来はえを自慢して、作者は、きつというたう。

竜の目の涙

浜田 広 介

介

mar 17 1969

「これ」を説明するたうたう、おとも感ださせてやうとして具体化を説明するたうたう、学であり、それによつて作のたうたう、訴えかけて感動を極すように努めるのである。そんなたうたうに感動するか。それについては人それぞれに高低の差があるたうたう、ひとの心はそのままだに万人の心とされる人間共通の心の線が考えられる。その線を目標として、そこに童話の理想主義は打ちたてられる。

だが、私はそれに答える。

「なるほど、それは傑作だつた。だが、それは童話ではなく、ほかの何かの語である。」

極端なたとえ話をかりに設けては、童話における信をこのようにいたしたものであ

る。童話における心の土、精神をこころは

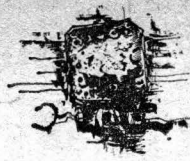
はよいのであるか。それについては、もうた

以上いふ必要はないたうたう。

(童話作家、龍手は筆者)

建築家十話 (七)

終戦とともに、日本に新しい時代が始まった。新しき日本は建設されなければならぬ



カット・若松光一郎

が、この新たな日本は古い日本に深く基礎を
持ちながら誕生する必要がある。日本文化には
世界に知られずにいる尊い珠玉が存在してい
る。その価値ある宝を失うてはならない。フニ
ニックスがいづもその灰から生まれかわるのと
同じように、この日本由来の宝が新しい日本に

平和が与えられる象徴となることを熱望するも
のである。(下略)

フーゴ・ラッサル

これは広島の世界平和記
念聖堂の建立のために、そ
の発願者であるラッサル神
父が聖堂の懸賞競技設計図
集に寄せられた序文の一節
である。

神父は自ら広島教会

で原爆を体験され、その悲惨な状態を目撃し
て、世界平和と慰霊のために聖堂の建立を発願
され、戦後帰化第一号となられた人である。

「世界平和の礎にその生命を捧げ」けた
人々を記念するため旧広島カトリック聖堂跡
に本教会は新しくこの聖堂建築を計画した。
これは懸賞競技の趣旨である。

私ははからずも今井兼次、伴野三千良、森忠
一の諸氏とともに、聖堂の設計を担当すること

清新な姿で復活
しなければなら
ない。(中略)こ
の聖堂が神の恩
恵(おんちゅう)
と世界の真なる

になり、私の事務所の近藤正志君が助手として
参加した。構造は内藤多仲先生が担当され、現
場監督は長谷川善積氏、工事は清水建設が当
り、広島支店の菊地辰也氏が施工主任となつて
仕事を始めた。戦後五年目ぐらいであったと思
う。

私はこの設計に当たりドイツの建築家ポル
・ボナツの手法にならぬ、それに日本の風格

聖堂の建築

村野藤吾

を与えるように意図したが、結果はそれを十分
に表わすことができなかった。しかし、ここで
私は思わざる幸福に恵まれることになった。そ
れはラッサル神父を知ったことである。

建物の規模は、五階建の建築がはいれる、こ
いな会堂の天井の高さであることを想像すれば
概略のことはわかると思う。鐘楼は高さ百五十
尺の塔になり、ドームの上にはフニニックスを
つけた。そのことは伝統があり、自由に材

料を集めることができないので、非常に苦心し
たが、それよりも物価騰貴には悩んだ。神父は
あの長身も、小さなバラックに起居して建築の
ために専念し、世界中を回って会衆の募金に努
められ、また日本でもこの企に協力する人も
多く、募金は相当の額に達したが、いかにせ
ん、当時の情勢としては、予期のこの募金は
できなかったようである。

する工事も終わつたあつた。奇蹟されたも
ののうちに実現につはなものである。なかで
もウィーン市奇蹟のスマンド・クラスとアテナ
ウアー前西独首相のガラス・モザイクなどは
ことなもので、いずれも日本の建築界にとり、
貴重な資料となるものはかりである。

この間神父は、文芸とお
り東奔西走して世界の友に
呼びかけては物心両面の援
助を仰がれ、よく神父の
故国ドイツからの援助は長
く続いたものであった。な
かには、祭壇のために地上
百尺のドームを寄贈したい
と申し出る外人もあつて、一時は途切れがちな
工事も、ようやく十八年に終わり、高松宮総
裁が臨場され、また各国から関係者が集ま
つて、盛大な落成式を挙げた。彼(い)ん工後
も各方面から建築に必要なものが次々に寄贈さ
れ、今井教授の原案で故西三郎先生の原型
による大彫刻が正面に飾られた。各国からの寄
贈はその後も続き、昨年一階のスマンド・クラ
スの完成をもってひとまず約十年にわたる工

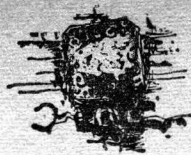
長期にわたる神父の苦心についてはわれわれ
は多くを知ることができないが、幾度か工事は
中絶のうき目にあつたことからして、大方の想
像はつくとと思う。あの長身の神父が三等車のす
みの方へ、身体を「L」の字に折つて眠つてお
られるのを幾度か見かけた。その姿は痛ましく
も哀れで、それを見て私も感動のあまり頭
が下がる思いであつた。神父はいまでも板張り
の上に畳を敷いて寝ておられるであつた。神を
好み参拝してカトリックとの関係を研究してお
られると聞く。私に何か頼み事もあると頼ま
(ひょうひょう)として来たり、私が忙しく
てできない場合は幾度も足を運ぶといふ調子で
ある。いつか工事も終わらうとするころ、神父
から墨豆(はっこ) ああかなと語句が
贈られた。

神父、神の奉仕は人々と共に在り
神等と共に在り

(芸術院全員、筆手は筆者)

建築家十話 (八)

一九六二年十月某日、私たちは車を駆って南郊に出た。労働銀行が投資したという勤労者の



カット・若松光一郎

アパートとN劇場に使用する大理石のモザイクを研究することがおもな目的であった。このアパートについては、以前の旅行で大体のことはわかってはいたが、それでもまだ詳しく知らねとて、ここがあったので、もっと詳細なことを知りた

っていなかったが、ただ、このアパートについて私の興味のある点をいえば、普通の高層アパートではなく、たゞし空

中核部が、家族単位になって組み合わされているように思われるところが、私の興味を引いたのである。何十という世帯がハトの巣のように、きちんとおさまっているのは、ほんとうに住まいになるかどうが、街造りに都合がよくて、も、生きた人間造りに都合がよいとは限らない。そこで旅行のついでに、もう一度、その勤労者住宅を見てみたいと思ったのである。

いくつアパートでも、一代きり、いや、結婚当座のものばかりでなくて、事情によって、二代も三代も同じところに住まないとは限らない。当座のしどけた社会事情で、やむを

えないところもあるが、少なからず、住まいといつ以上、たとえ二日の労働力か、ただ回復されるだけの仕組みでなく、何かあったか味のあつものに考えられないものか。その点疑問なので、勤労者の実際の住まいを見たいと思つた。場所は配置しないが、ある職長のアパートを見せてもらった。あまり大きくはなかったが、一室だけは、また仕上げないで物置に使

村野藤

ローマの一日

吾

mar 31 1964

ソリーニ時代を代表しているような、この建物に興味があった。建物の回りには、大きな石の彫刻が立ち並んでいた。高い石壁をのぼって、パラッツォ・コンクレッシ（国際会議場）の方を見ると、街路はなほほのどきとなつたが、南国の花壇には、また美しい花が咲いていた。

やがて私たちは、彫刻のあるところを歩いて行った。一瞬、私たちの足は止まったと思つた。横を向くと、相違した若い男女が、ひとかたなりとなつてゐるのを見た。真昼の生きた彫刻は、周囲に私たちのいることには頓着（とんちやく）しなかつた。そこには、何か非常

であつて、いずれ金がまたたら仕上げると思つていた。私はこれなら自分の「家」になると思つた。さて、車はさらに別な方向に走って行つた。やがて、新しく建てられた官庁街のようになつて、通りぬけて、パラッツォ・シビルタ（国民会館）の前で止まった。私は、新しい建物にも興味があったが、それよりも、ひとこころの

確となり、文化も家庭も国も、そのうえに築かれてゐるのではないかと、いつか（いつか）に、それをよく理解するかどうか、段になると迷つた。

石の彫刻は力強く、まるでムッソリーニそのものゝやうであつた。すると、美形の女神がその中心のところに彫形の落書きをせられてゐるのを見、私たちは愕然（がくぜん）と止んだ。この国の光榮ある（レニスムの末裔）まじい（まじい）たちのなかに、さう、このさうなバカ者がゐるのかと思つた。三カニガしく、私にも何か、かわりあいでもあるのかと思つた。それこそ、手に手をおおふやうな気持ちで走りぬけ、再び玄關のところで回つた。

ふた、私の視線を、さうしたものがあった。はつきりとして、味を再び皮膚の緊張は、まさにもなクレコの彫刻だつた。私は、救われたやうな気分になつた。クレコは、さういふ、た。教養のありさうな女性だの、運命が、ほんとにクレコだ、あな、あな、さういふ、さういふ、道の人で、さういふ。それには、なんとも答えないで、車をスタジアムの方向に走らせた。

（芸術院会員、藤野は筆名）

とない人生を感じて大切に生きてきた私たちとしてはどうにもやりきれない気持ちですよ。

(次回は「草加せんべい」)

第五十回直木賞の和田芳恵氏は授賞式(五日)にこんなあいさつをした。〈昔卅年といふが私は四十
年かかて認められた。そしていま世間の恩をすなおに考えることができたようになった。甘えず、
自分らしい新境地を開きたいと思つてゐるが、うまくいかないと思ひますのでよろしくお願ひしま
す。世間の恩ということには、この人らしい味があった。翌日「世間の恩」というテーマで書いてはし
い」と奥さんに頼んだ。原稿をいたなく約束の日には和田氏から電話があった。「世間の恩について書
けとのことだが、どういう意味でしょう。」というのである。あなたは授賞式でいわれた。だか
らお願いした、といつたら「す、かりあがつてしまひ何を話しか覚えがなひです。教えていた
きありがとうございます。今夜書きます。」——和田さんは敬虔でこの「世間の恩」をまとめられた。

この世の中には、生まれたとき
から頭脳や体質にめぐまれ、ま
た、資産もあつて教養のある家庭
においたち、順調な生涯を終える
人も、たまにはある。しかし、多
くの人は、こつこつと世の中に
生まれてきたくはなかつたと思
ふことの多い日を過して、晩年
を迎えるのではなかつたか。
私が、いま六十才に近くなつ
て、自分はいつから生きてきたの
だらうと考へてみると、小学校の
四年生のときからである。

私の父は、その当時としては新
しい村の消費組合をつくり、その
責任者であつたが、ある日、突然
に姿をくらましてしまった。組合
費の使いこみのためであつた。
私は④さんという村の呉服屋さ
んが書いた回状を持つて、組合員
のよろこをまわり、私の家に集ま
つてもらった。「丸十さんのじい

世間の恩

和田 芳恵



第五十回直木賞の授賞式で
あいさつする和田芳恵氏

母から、もう、食べてゆゑることが
できないといわれ、小さな子供た
ちは、たれかにくれてやるより仕
方ないといふと聞かされたので、こ
れでどうやら米をかうことができ
ると、登校前に村の新聞配達をし
て、小学校を終えた。やがて、二
つ年下の弟も手伝うようになつ
た。登校時間に間にあつたために、
駅の線路を突きつて、山のふも

から、思ひなすてつけないとは
かりのよであつた。渡る世間に
鬼はないといふのは、逆にいうと
多くの鬼が住む世間といふことな
のである。
私は、中学三年のとき、仲間で
謄写版刷りの「クロバ」を名づ
けた同人雑誌を出した。
この道でも十年打ちこめば、ど
うやら、その仕事で一人前になれ
るはずなのに、文学の道はけわし
いから、素質のない私に四十年は
たつていた。

こんどの直木賞の授賞式の会場
には、中学から大学までの面倒を
みてくれた佐藤正男さん、私の書
いたものを最初に活字にしてくれ
た和木清三郎さんなどの老いた顔
がまじつていた。

私は、もつ、すなおな気持ちにな
つていて、苦しみと密着してわか
ちがたくなつていた世間の恩だけ
を大きく感じたのであつた。世間
の恩は、この世の苦しみを背負つ
た人間が、やがて、自分で勝手に
思ひあたることなのかもしれない。
(作末)

北海道人文部出身、昭和六年中
大法学部卒。「日本小説」発刊
後は日大、共立女子大講師のほ
かは文筆一本できた。五十七
才。

さま」と、私が親しんでいた老人
は、村の顔役のひとりだつた。広
いおでこの上には必要なきは老
頭をさけていた。
「芳、お前がやる気があつたら、
新聞の権利をくれてやろう」
と、その席で丸十さんはいつて
くれた。そのころ「北海タイム
ス」「小樽新聞」「函館新聞」の
ち、私の父の住所がはつきりす
るまで、事をあらたないよ様に
話してくれた。そのつらさに、私
たが、たてて私にくれた。私は、

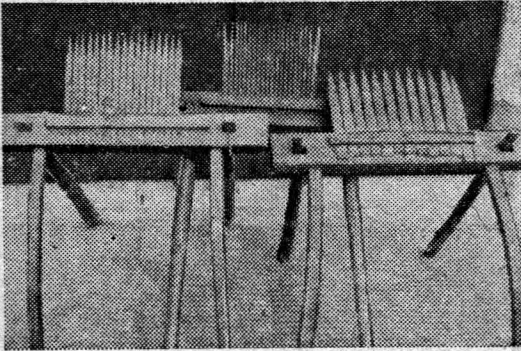
との飯場へ行くとき、停車中の長
い貨物列車の下をくぐらなければ
ならなかつたが、大きな車輪の下
をもぐる弟に、氣をつけると声を
かけてから、私は橋のある家なみ
の多い国道筋へ走つた。
私は、親たちにほめられもした
が、村の子供たちとちがつた生き
方だつたから、こつこつと世の中
の中に投げたされて生きており、
そのつらい矢もつてにたつてきた



こんな原始的な「はし」を使っ
て稲をこぎまわすという方法は、
いつのまにやら行なわれていたのだ
でしょうか。年代ははっきりしてい
ません。その点について有名な
井原西鶴が貞享五年（一六八八
年）すなわちいまから一七五年前
『日本永代蔵』という物語を書
いています。その中の「豆一粒

稲こぎ機

—その2—



・木から稲こぎせんば・麦こぎせんば・竹せんば

の光り筆」のころに大和の朝日の
里に住んでいる川端の九介とい

人が、唐箕とか、千石通とか、い
ろいろ便利なものを考えたが、中

でもとがった竹を何本か並べて
「後家倒し」という稲扱器（いね
こぎき）を作り出し、たいへん世
人に喜ばれ、大もうけをしたと書
いてあります。この後家倒しは千
歯のことです。

ところで川端の九介という人が
いつごろの時代の人か明記してな
いので、たとえば稲扱き千歯をこ
の九介が発明したとしても、その時
代をはっきり知ることができませ
ん。一步ゆすって九介という人が
西鶴の時代の人であるということ
にしますと、長さ三十センチばかりの
竹や鉄の先をとがらし、その十数
本を木に並べて打ちこんでこの千
歯は、一応徳川時代の中期ごろに
発明されたことになります。しか
し私はこのことについて二つの疑
問を持つのです。というのはスキ
や馬グワは相当古くから考案され

ており、また建築などほそでに大
和朝時代から奈良時代にかけて法
隆寺や東大寺など数々の精巧な大
建造物が造り出されているのに、
稲扱きに使う簡単な千歯が、江戸
時代の中期ごろまで考え出されな
かった、というところがうも信じ
られないのです。私はもっと古く
はら千歯というものはあったので
はないかと思えます。

もう一つ、川端の九介のころに
「鉄のツメを並べて細く（こまこ
らこ）という土を砕くものを考え
た」と書いてあります。これは三
穂の「てまきり」というグワのこ
とであるのか、土を砕く「ほりグ
ワ」のことであるのかははっきりし
ませんが、弘願の法然上人の絵伝
中にも馬グワの絵がありますし、
千歯は見るとでは馬グワをさか
まにしたようなものです。

都のうちと

(17)

あるようです。

『日光結構陽明門』といわれ
るように日光の自然と人工の美
は、日本人なら知らないものは
ないほど有名です。しかし、あ
るようです。

日光東照宮
禰 宣
や じま きよふみ
矢島 清文さん (50)

mar 11 1964
でも、一般庶民は拝見
とか見物という名目
でしか見ることがで
きず、宗教的研究は
もちろん、建造物の
鑑賞や批判が自由に
できなかったからで
す。そのうえ明治



ては、善美無比と絶賛 人が戦後みえて「私の説明が
する人と、わび」や 主観的であつたために、その先
「まじ」にとほしい俗 入観がタワトにああいう結論を
悪なものとなす人と 出させたのでしよう。いま考え
あります。けなす説 ると全く申しわけないことをし

耳でしかに見聞してはたなく
際外交の絶好の機会です。で
も、案内いかんによつてはふた
たびこのような誤りを繰り返
さないとも限りません。だから
その衝に当る方々は、対象に
ついて個人的、感情的に好きき
らいはあつても、日本のため
に、偏見や主観におぼれず、す
ぐれたものをすぐれたものとし
て正しく公正な案内をしてもら
いたいものです。それだけの研
究と教養とを身につけてはい
と願わずにいられません。

やるかたない胸中

さらにそのことは、軽妙秀逸な
のと名聲の高さのため「結構」
といふことは持つ「組立て
る」という字義のとおり理解
されないうらみがありますね。

日光結構を組立てている日光の
歴史や東照宮の由緒、善美豪華
な社殿建造物のすくれた価値が
よく知られていないのうちに
昔から東照宮の建造物につい

は、昭和九年に米日したドイツ
の著名な建築評論家フルノー
・タウトが、東照宮と同時代
に建てられた桂離宮と比べて
で痛くなるほどでした。な
くゆきわたりました。しかし、
そのときタウトを案内したとい

ある外人が「はじめから奈良
や京都に行つても、日本建築古
来の『わび』や『さび』はよく
わからないが、東照宮建築に取
り入れられた前代のすくれた建
築様式、宗教的概念、自然との
調和などをみてゆくと、比較的
やさしく『わび』『さび』には
いることができる。そういう意
味からも東照宮は日本のすくれ
た国立建築博物館だ」といっ
たことがありますが、まことに
いいえて妙と感心していま
す。

(次回は錦ヶ浦)

建築家十話 (一)

大工は自分の家を建てるものではないという
K棟梁(とうりょう)の語とは、少しわけが違



カット・若松光一郎

うので、自分の家のことについていうのは気が引けるのだが、なんとか、早く家を建てることは、第一、経済が許さなかったせいもあるが、とにかく、K棟梁の語と似たような気持もあって、なかなか建てる気にもなれず、延び延びに

保の奥にかけ、あのへんの古い民家には出来のいいのが多く、このへん一帯にかけて、富有な過去がしのばれた。しかし、いざ買おうという段になると、大き過ぎたり、そうでなければ、なにか、いわくがついていたりした。いつもは、ひとかたの科学者ぶったりしていても、自分のものとなれば、家相なの、わずかなところにも気になったり、故事求歴なる怪案(せん

とあって、五十才を過ぎてから、あわてて建てる気持になった。戦中のことだから、住宅のようなものは建てられなくなってきたので、そのころは、いなかの家を買って建てるのが流行のようになっていた。私も、そんなことでもしないと、とても建てられないので、大和や河内のいなかを歩いて、売の家を見て回った。ここに、道明寺から大

そのうち、戦争も激しくなるし、娘の婚期も近づいたので、いつまでも借家住まいもどうか

少なかった。

このようにして、たかさんの売の家を見たり聞べたりしていくうちに、私は、こんなことを感じた。いったい、家を売るなんとは、よくよくのことにはちがいがなく、売の家の全部が全部、古いものはかりかといつて、それでもなかった。割合新しいものもあった。長く続い

ようなどころか、いつてみれば、デザインのポイントのあるものが多いように思った。私は、デザインと売の家との間に、なにか、私に関係でもあるかのように思えて、(裸(りつ))然とした気持になったとである。

そのうちに、私の友人が、河内の国分、手ごつたところがあるから見ないかと知らせてきたので、見ることにした。村の名家の隠居家だ。老人が先年なくな

売 り 家

村野 藤吾



た家だ。だが、相場に手を出したとか村から湖州に行った者がもうけて建てたが失敗したとか、おまよ、売りに出すほどの家だから、少しくらの、いわくつきは我慢するつもりでいたはずなのに、いざとなると、気乗りがしなかった。というのは、そんな建物に限って、必要もないのにバカでかい梁(はり)がかけてあったり、屋根が太き過ぎたりして、とにかく建物の妻壁にはかおりがあった。

母屋おもやば、厚い茅葺(かやぶき)で、お寺にあるような大黒柱が、薄暗い天井をささえていた。私は、広い土間を走りぬけて、裏庭に出た。白壁塗りの土蔵がいくつも並んでいて、このころは、この家の過去を物語るようではあったが、どこどころ、壁が落ちたところがあったりして、時流に押し流されていく姿が、ありありと感じられた。父祖伝来の「家」の重荷を、どう、処理しようかという話を聞くと、なに、なんだか、藤村の小説「家」のことが連想されたりして、私も、主人と同じような困惑を感ぜずにはいられなかった。しかし、私は、この家の主人の処置を、当然だと思った。正直なところ、私はたかさんの売の家を見たが、先刻、坂下からこの家を見ただけでよくわかった。私の懇望は主人の心を解いたものか、あなたに引き取ってもらうのだから喜んで放しなさいといわれた。建坪二十五坪、一倉三式百四(なり)。

(芸術院会員、題字は筆者)

童話十話

(五)

思いがけない三重民の手紙を受けて大いに喜び、勇みたるのであるが、四股しこばか



カット・小松 益喜

りを踏み、これならという作品が書きあがらない。承知の返事はもとよりあげたにちがいないが、氏からは別に催促もなかったまことに過にし

て、児童雑誌「良友」の編集者となり、作品を毎月載せることとなった。「良友」はゴドモ社の発行、その編集と編集とは、中村勇太郎氏の（いまも健在）の努力によつていたもので、氏

ら、革新の気は高いとも思えなかつたおぼえがある。生憎なことではあったが、そんなふうな勇気をし、そのころに大学をおさ、春秋社に勤め「トルストイ全集」の校正に従いながら、トルストイの童話を読んだ。それは童話というよりも童話の

物語であり、徳を説く話であつて、私は、こころも深く感動した。

やがて、その年の秋おそく春秋社に了解を得て、児童雑誌「良友」の編集者となり、作品を毎月載せることとなった。「良友」はゴドモ社の発行、その編集と編集とは、中村勇太郎氏の（いまも健在）の努力によつていたもので、氏



浜田 広介

童話には作品を一度もお目にかけなかった。お見せしたなら氏から示教を得られるところもあつたろうに、そのことなしに終つたのである。

「良友」誌に載せた童話に「むく鳥の夢」がある。大正八年十一月の作、感傷の多分な作だが、母への思慕がこの作におのずから出たといえよう。青春時代の心のすみにはまたその思

があるが、碑の白石は子どもがたやすく腰をちりして休めるように作つてほしいと思つてゐる。山の隅の子ともであつたと、北の、東の、また西の子ともであつたと、この子どもにも童話によつて呼びかけたゐるのである。もうひとつ「むく鳥の夢」の作を読んでゐる。いふまでも、子どもがおとなになつて、その碑のそばを通るなら、くたんの文句をたぶん読んでくれるらう。そして、何かを—何かではない。この世の母を思つてくれることである。そうあるように願いたい。

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

また、こころに申しさうたい。郷里の親しい人たちが私の古稀（こき）の記念に童話碑を建ててやうと事を進めて、五月に建てるという。碑面には「むく鳥の夢のかあさん白い鳥さめて見るか葉の上の白い

（童話作家、穂手は筆名）

考方十佐 (九)

「将功成りて万骨枯」ということわざがある。つまり一人の大将が輝かしい功名を立



カット・菊地 辰幸

い。そのかわり、私が責任をとって切腹しようということではなかったらうか。

戦国時代「高松城の水攻め」として有名な秀吉と毛利家との戦いにおいて、高松城を守る毛利の部将、清水宗治が、切腹するかわりに城兵の命を助けるという条件で講和に応じ、自ら船で出て切腹したという

史実は、武將としての心構えがどんなものであったかというのを、よく物語っているといえよう。このような事例は、枚挙にいとまがないが、いわば、こういう責任感というか、兵の命を助けるために自分は死ぬのだという心意氣を持つというところから、昔の武將の真骨頂があったのではないだろうか。

しかし、こういう一面はあるとはいっても、一方、昔の武將はどんな心構えをもって事にしたのだろうか。いよいよ本合戦とな

て、戦い利あらず、窮地に陥ったというときに「兵たちの命は二つ助けてもらいた

な心意氣というものは、武士道を越えた、われわれ日本人の伝統的精神ではないかと思う。いわば日本民族の心意氣というものではないかと思うのである。

戦国時代を通じて、われわれ日本民族に受け継がれている「責任者としての道義」というものを感したのであった。

かつてわが国は、明治維新に開国へ踏みきって以来、まったくの短時間でめざましい発展をとげたのであったが、このような驚異的發展をもたらした背景として、私はやはりこの日本の伝統的精神というものを思ふがごとく、できな

日本人の心意氣

松 下 幸 之 助

際、つぎのようにいわれたという。

「責任はすべて自分にある。どうか国民を責めないでほしい」

当時は内閣でも軍部でも、ともに「陛下は責任はないのだ」ということを強く申し入れていたようであるが、それには、陛下のこの深いお心には、マッカーサー元帥も大きな感銘をうけたというのである。そして私はここに、日本の伝統的精神というか、深い言から

心意氣が大切なのである。これは一つの部、あるいは一つの課の長となる人にとっても、しかりである。要するに最高責任者としての立場にある人は、大事に統して部下のために死ぬのだというくらい的心構えを持ち、同時に部下としては、最を死なせてはならないと一致団結して事にあたると。これにいわば日本人としてのすぐれた精神があつたかと思ふのである。

今日とは昔と異なつて、社会は大きく変転している。しかし、事の道理というものは、昔も今も、相通じる面が多いのではないだろうか。自らの仕事、自らの使命、自らの責任に對しては、つきりとした信念のもとに、昔の武將と同様、そこに命をかけるという心意氣を持つてのぞむというところ、一國の首相としても、一社の社長としても、一店の店主としても、この基本の心構えが大事な点には変わりはない。

やはり一社の社長としては、会社の大小にかかわらず、またいかなる事情があるにせよ、事があれば昔の武將と同じように、社員のために自分が命をかけて責任をとるのだ、ということ

「将功成りて万骨枯」——これもまた、たしかに現実の姿であらう。しかし、そうだからこそ、將の立場にある人は、責任を自覺するといふか、兵の命を救うために切腹するといふ、昔の武將と同じような心意氣を必要とする由縁がある。つまり、命をかけるほどに徹底した責任感が望まれるのである。

もし、こういう心意氣を持たぬ最高責任者があつたれば、その人はしせんは人を使うことはできないであらう。これは、いわば責任者としての道義なのである。そして、將がこのような心意氣を懷してこそ、万骨も枯はれようというのだ。万骨も枯はれぬといふべし、ということになりはしないか。

(松下電器産業会長、題字は筆者)

(五)

小学校の二、三年生のころ、福岡県の勾金（まがりかね）尋常小学校の分教場に通った時代があった。その時の受持のK先生は代用教員



カッター・藤本東一良

であつたようで、後に行橋の師範学校に入学さ
れ、私も父の転任で刈田(かんた)に小学校に変わ
つた。K先生は私に特別に目をかけてくださ
つたとみえて、それから毎月当時の少年雑誌「日

った。あとで考えてみると、よくあんなに毎月欠かさず送っていただけたとまったく感謝して

にはこの雑誌に掲載さ

れている冒険小説を学
芸会で話したりしたこ

ともあった。もちろん
一、二回先生の郷里A

村のお宅をたずねたこ
ともあった。しかし大

正第六年第五高等学校入学直前にお目にかかった
きりで、東大卒業後もすいぶん長い間、ごさ
たになった。ところがまたま、昭和八年の春、

福岡で電気三学会連合大会というのがあって、九州へ出かける機会を得たので、大会後K先生をおたずねしようと思い、前もって手紙でご連絡した。ところがその時いつもとちがって、返

本少年」を送つてくださったの

で、いこの間に
か翌月の雑誌が

来るのを楽しみに待つようにな

よくあんなに毎月
まったく感謝して

事がなかったので、ちょっと不審には思ったが、大して気にもせず、福岡へ向け出発した。

大会も予定どおり終わったので、さっそくK先生をおたすねすべくA村へ行ってみた。とこ

るが先生はついせんだって、S村へ引っ越され、その小学校長になられたということであ

った。幸いそう遠い所でもないの、教わった
とおり、国鉄でS駅へ行き、村の郵便局で詳

電報

古賀逸策

Mar 1
1968

か、どうにもならない。郵便局でも電報配達のために待機している係員の人がいるにはいるが、公務以外の用件で、勝手に外出させるわけにはいかないという。また、なにをいふのだ、それは、実は東京からは電報が送られてきたところで、何かいい知恵はある、ききんかと食ひ下がついていっしょに、ひいひいおかしに、おし

万二K先生の所へよそから電報がきたら、い

までも配達するのですか、と聞いたら、もちろんだという。それでは少々手間はかかるが私は福岡の友人に長文の電報を打って、折り返してK先生に電報を打ってもらうよう依頼しよ

うと計無し、頼信紙を要求した。この決意をみると郵便局ではじめて説明してくれたとは、わざわざそんなことをしなくても、この郵便局で、私が先生あに電報を出せば、これをすくなく配達しなければならぬなどというのである。私はこの奇抜な解決に感謝するところを感じたことは、これこそ全く新しい「無

「歐陽通儒、われわれ無類通信工學を専攻する者たちの考え及ぶ大發明が実在していたといふことである。お陰で私は郵便局でゴム張を借り、この配運係の人に「チャウチン」を持って案内をされ、ようやく先生のお宅になつた。た。もう先生、夫妻のお喜びは一過りではなへ、翌朝はわれわれ海客を待たせようとしていたのだといふことがわかつて、私もおなすねになつたと思ふ。

私はこの村にフシオのある家があった。一軒もないことを知ったので、帰京後たちちに受信機をお掛けし、放送局の友人に依頼して取り付けの面倒をみてもらった。ところが、K先生からお手紙が来て、せっかく、いいものをもらったから、毎朝の天気予報を聞いて、旗を上げ、村中に知らせているのだから、さすがにK先生だと感じ入った。

残念なことにはK先生は老年になられた。小学校時代に卒業生がきまこて歌った「阿けは尊しわが師の恩」の一句がほんとにわかる。ううん、気がする。

(東大名譽教授・工博、題字は筆者)

民族の新天地を求めて米國に渡つた日本人の数は、過去百年間に數十万人を越えたかも知れない。又南米諸國に行つた日本人は、過去五十年間に二、三十万と見る事が出来る。日米戦争の一原因に排日移民法をあげることが出来るが、その理由の一つに日本人が同化しないといふ非難であつた。日米戦争の結果、日本人は同化するどころでなく忠誠にして勇敢なる米國市民として賞讃されるに至り、南米諸國でも日本人移民は仲々優秀で大いに歓迎するといふ事になつて來た。米國でもジョンソン大統領が移民法の修正を行ない、日本人のコーナー移民の割当てを五千人にひき上げる

かも知れないという氣運になつて來ている。ところが昨年一年間に南米に渡つた移民は僅か千八百人足らずといふ事で、大阪商船の移民船三隻はこの度改装して貨物船にするとの事である。日本移民を大

赤信号の出した移民問題

本社東京支局長

村山 有

いに歓迎しようとしていたバ
ラガイ、アルゼンチン等の諸
國はもはや日本移民に期待出
來ないからドイツ、イタリ
移民に切り換える政策に出
ている。
日本の各都市は工業化が進み
人口は益々集中して來て大産

論戦後に於ける日本の工業の

異常な發展という事もあるが
他方に戦後の産兒制限が徹底
し過ぎて出生率が極度に低下
した事も大きな原因と見てよ
い。
戦後、ドイツ、イタリ、英
佛等は米國はいうまでもなく
南米、豪州諸國に多數の移民
を年々送り出している事は如
何に彼等の民族意識が旺盛で
あるか驚くべきものがある。
それに引きかえ、日本は工業
こそ盛んになつたとはいつて
も産業は萎縮し、三、四年後
には人口も下降線を辿つて行
くといふので、この狭い國土
に日本人が何の感激もなく露
をちぢめて、生きて行こうと
いうのは全く情ない事である
もし米國が將來コーナー移民

の割当の門戸を開くという事
になると、それは多少海外に
出る者は増加するかも知れな
いが、年間僅か千数百人足ら
ずの人間が海外に移住して行
く様な事では日本の海外移住
政策の前途も暗い。
戦後に於て日本の海外移住思
想は殆んど壊滅したといつて
良い、何故ならば滿州、支那
朝鮮、台灣その他南方諸國に
發展していた幾百万人かの同
胞が日本に追ひ歸されて來て
余りにもみじめな生活をして
いたために海外に行く事はお
そろしいという印象が深く植
えつけられて終つた。これも
戦後の世相といふかも知れぬ
が寂しい事である。

仙教の搖籃時代

山本芳雄



(五)

明治二十四年（一八九一年）正月二十日、カラカ
ウア王はサンフランシスコ
に於て客死し、王妹リリオ
カラニが王位を繼承した。
この年、ヒロ市の日本人
キリスト教會は商部次郎牧
師の三十九年の傳道が實を結

び、千六百弗を以て念佛堂
におくれること二カ年の後
ヒロ・キリスト教會堂が新
築落成した。

正月に七十二名の會員が十二月の暮には百十六に膨脹しているが、當時としてこれは容易な事ではなかつたに相違ない。

明治二十五年（一八九二年）
ホノルル港が正式に開港される事となり、アヘン

常習者には鑑札を要すると言ふ法律が制定されたが、これは主として支那社會に當られたものであつて日本人には關係ないが、其の頃のハワイが想像されよう。ハワイに於ける日系人移民にキリスト教の傳道をする目的を以て美以教會派の美以貫一牧師が、明治二十年（一八八九年）九月サンフランシスコから來布したこれより先、布哇傳道會社の書記ハイド博士が時の總領事、安藤太郎氏に通譯の勞を願つて神の福音を傳へていた。又、清水泰三氏を招いて六九月間各島に巡回説教をセントラルユニオン教會の經費でなしていたが

布哇^{フワ}日本人傳道の嚆矢者は
 美山^{ミヤマ}牧師となつてゐる。曜^{ヨウ}
 日^{ニチ}師^シの佛教^{ブツク}開教^{カイキョウ}と偶然^{コウゼン}にも
 同年となつてゐるのは、佛^{ブツ}
 教^{キョウ}で言う因縁^{インエン}か、キリスト
 教^{キリシトキョウ}で言う神の攝理^{セツリ}か、逆縁^{ギャクエン}
 の兩師^{リウシ}が異^イの空^{カラ}で佛耶^{ブツヤ}の
 立場^{テイチャ}から一時にスタートし
 たのは事實である。しかし
 美山^{ミヤマ}師^シはサンフランシスコ
 美^ミ以^イ教會^{キョウ}から派遣^{ヘンセン}されたの
 に對し、曜^{ヨウ}日^{ニチ}師^シは京都^{キョウト}・本^{ホン}
 山^{ヤマ}のバツクがなかつた。日^{ニチ}
 系^{ケイ}人^{ニン}移^イ民^{ミン}の殆^{タイ}んど全部^{ケンブ}が田^タ
 舎^{シャ}から來た傳統^{ケンロウ}による佛^{ブツ}教^{キョウ}
 徒^テで、徳川^{トクワン}幕府^{バクフ}の政策^{セイサク}によ
 る耶^ヤ蘇^ソ教^{キョウ}嫌^{ケン}に洗腦^{センノウ}されて
 いただけに、その點^{テン}前者^{コウジ}に
 は不利^{フイリ}、後^コ者^{シャ}には有利^{リョリ}と言^イ
 う理由^{リョウユ}で出發^{シュツパツ}は五分と五分

の立場であつた。走り始めてみると地の利は美山師側にあつた。六十七年前（一八二〇年）キリスト教傳道團がボストンより來布して、ハワイ國をキリスト色に塗りつぶしている。政府の役員も移民を雇傭している砂糖耕地の耕主を始め、幹部も經濟機關もその他あらゆる社會はキリスト教信者により固められていた。それは米大陸のどの都市にも見られない程に強いキリスト教的地盤であつた。安藤總領事は家族及び館員まで率いて教會に通い、明治二十一年（一八八八年）には安藤氏自身十名の他の日本人と共に洗禮を受けた。（つづく）

(~ ~ ~)

mar 25
1960
ハワイに於ける
仙教の搖籃時代
山本芳雄



(七)

一八九四年五月三十日、
布哇國政府は共和制の憲法
大會議を開催し七月四日米
國獨立祭を期してその發布
式を舉行し、ドール氏が第
一代の大統領として就任し
た(この政府は米布合併を
目標としたもので、その主
力はプロテスタント派とも

言える)
日本では日清戦争が始ま
り、母國の盛衰は外人雜居
の中にあつては、その輕重
を示し、特に支那人は先に
移住しただけに日本人を見
下し排斥睥睨の傾向があつ
た。この戦争に於ける本國
の勝敗は直ちに自己の勝敗
に連なる運命と日支人相方
の喧擾は致る所に起つた。
開戦以來、連戦連勝する度
に、日本人移民は興奮歡喜
やるかたなく、明治二十八
年(一八九五年)日本の勝

利と決定するに至るやホノ
ルル及びヒロ兩市の日本人
在留民は後世までも傳えん
と欲する一大祝捷會を開い
た。(ヒロ市の祝勝會委員
の幹部十二名の中には桑原
覺成師の名があり、ホノル
ル祝勝會幹部の中にはキリ
スト教牧師も加わつてい
た)
この年四月、キリスト教
の明治四年(一八七一年)
以來二十年間、日本に於て
傳道をしてきたギユリツク
師が、布哇の日本人傳道部
長として就職した。師は日
本語を解得し、日本事情に
精通していた。更に八月に
は後に今村監督の好敵手と
なつた有名な奥村多喜衛牧
師が來布したので、キリス
ト教側の一大勢力が加わつ

た事になる。
六月十三日入港の三池丸
を最終として日系人労働者
移民はその數二萬九千三十
二人の多きに達し、官約移
民の幕を閉じたが、これよ
り移民會社と労働者の私約
移民時代となる。
明治二十八年(一八九五
年)一月六日の夜より王朝
回復の内亂が起り、一大警
報は全ホノルル市民を驚か
した。ダイヤモンド・ヘツ
ドやマノア、パロロは勤王
の兵がたてこもり、王政復
古の策をめぐらしたが敗れ
リリオカラニ女王は十六日
遂に捕われの身となつてイ
オラニ宮殿に幽閉されたが
後、王權の棄却を條件に許
された。
これよりリリオカラニは

布哇に於ける第一貴婦人と
認められ(今日州知事の官
邸となつてゐるのは、その
住居)全布哇の尊敬のシン
ボルとなつた。
この事變の時、エワの日
本人が王朝方に味方して、
ホノルルに進軍中との風評
が立つや岡部牧師はヒロカ
ら持ち歸つた栗毛の愛馬に
跨り、銃を肩にして國民軍
に参加したと言ふ。當時政
府軍とはキリスト教徒の變
型であつたからでもある。
この時、日本人の自重は
實に賢明な態度であつた。
若し少しでも疑いを残して
いたならば、將來の佛教傳
播には大きな支障をきたし
たであらうと想像される。

(つづく)

ハワイに於ける 仙教の搖籃時代

山本芳雄



(八)

京都の本山がねむつてい
る間にキリスト教では明治
二十一年(一九八八年)岡
部次郎牧師が桑港よりヒロ
市に來り、更に翌二十二年
(一九八九)沙本貞吉牧
師がカワイ島コアラに駐在
し(この人はクアキニ病院

産みの親)そしてマウイ島
パイアには高取三郎牧師が
ハワイ島パアウハウに三谷
雅之助牧師、オアフ島エワ
に小早川關次郎牧師とそれ
く配置され、佛教徒を一
のみにせんとする態勢が徐
々になされていた。又、美
山師が辭して桑港に歸るや
長谷川哲之助牧師が來布さ
れるなど、續々とキリスト
教牧師が到來するのを知つ
た曜日師は、矢も楯もたま
らず機を飛ばして、本山に

かまわず故國から知人或は
移民の郷里の寺僧などを布
哇に誘致した。
このような状態にあつて
來布する僧侶の良否を選擇
することは難事中的難事で
あると言わねばならなかつ
た。現在、英語開教使(僧
侶)の要求急なる時その人
格、頭腦等の優劣を選擇す
る事が仲々にむづかしいと
同然の事でもあらう。
布哇本派本願寺の發行に
よる諸書は、正式開教前の
僧を様々な言葉もちいて
愚弄し、或は攻撃している
一面があるが、布哇日本人
發展史や、布哇五十年史を
發行した森田榮氏は「移民
の總てが佛教を渴仰し、彼

等の來布は同胞に喜々亦驚
うるに物なき有様なり。彼
等の失態は止むを得ず、開
墾殖民時代は何處も同じで
ある事は歴史の示す所であ
る」と評している。
移民の大部分は無學文盲
の若人であつたが純情だつ
た。(彼等の少年時代は田
舎には學校がなかつた)郷
里への便りの讀書も僧侶の
仕事の一部であつた。一
日十時間、月二十六日間の
働きて、九弗と言へば一日
三十一仙弱にすぎないのに
牛馬の如く酷使されていた
耕主の大部分は米大陸に住
む、生れながらのキリスト
教徒とは比較にならぬ程の
キリスト教的零團氣の中に

育つた人達であつた。
キリスト教牧師の傳道は
容易でなく、佛教僧侶の布
教とは話にならない程の辛
酸を舐めたが、一面又、有
利な條件下にあつて、この
背景に保護されたからの傳
道であつた。
佛教側は種々の場合、便利
が悪く、しかも彼等の屬す
る本山からは物質的には勿
論のこと、精神的にも援助
が得られず、相當な苦心を
重ねた事は想像に難くな
い。この時にあつて「御本
山の使僧」と言う方便を用
いてキリスト教に轉向しよ
うとする者を喰ひ止めた事
が詐偽、奇謀と言へるだろ
うか？
(つづく)

Mar 24 1964
 ハワイに於ける
 仙教の搖籃時代
 山本芳雄



(六)

曙日師は江戸に行くにも水盆と言う時代に郷里から何千里もへだてた布哇に當時の僧侶としては調達に苦しむ程の額を自辨で渡航來り、あてもない先途に身を晒し、止むにやまれぬ布

教欲は如來業とでも言おうか、近頃の僧侶にはこの心意氣は理解しにくいのではなからうか。

明治二十六年(一八九三年)正月、布哇國政府に革命が起り王政は廢止されて臨時共和政府が樹立した。政務執行委員長ドール氏以下、キング、ジョニス、スシスの四氏は總てアメリカ人だった。四カ年間、ヒロの念佛堂に

駐在し、佛事を営んでいた蒲生行也師はホノルルに布教中であつた桑原覺成師の來任を乞い、自身は歸國した。

布哇佛教の濫觴は斯くして眞宗本願寺の信者によつて先鞭をつけられ、單獨來布の僧侶によつて地盤が築かれて行つた。而も本山の援助一切なしに。その上佛教徒が最も當時必要とした日本國總領事館の力添や誠意のなき状態の下にあつて。(明治の初年、日本政府發給の旅券の中に「十カ年海外旅行を許す」とか「佛教以外の宗門に入るべ

からず」の條があるのに) 明治二十七年(一八九四年)淨土宗が再來した。山口縣柳井津瑞相寺住職白石堯海師が東京に於ける宗門の高職にあつて堀内靜宗師(淨土教報記者)と相談り、淨土宗布哇宣教會なるものを組織して松尾定諦師を派遣し布哇の實狀を視察せしめ、次いで岡部學應師を開教使として特派したのを以て淨土宗傳來の嚆矢としている。(本願寺の正式開教より三カ年早い

が、併し門信徒の活動は何ら記録に見當らず、ために宗旨の傳來は眞宗より九年後れていると見る)

岡部師は先づマウイ島よりハワイ島を順次視察し、ヒロ及びハカラウに滞在すること數カ月、其の後ハマクラ、パウハウに移り、明治二十九年(一八九六年)

遂にハマクラ佛教會堂の落成を見るに至つた。(コハラ、ハマクラ方面のみに淨土宗の勢力が、本願寺よりもあつたのは岡部師の布教が、こゝを中心に行われた爲であらう。明治二十六年(一八九三年)神田重英牧師がコハラに來任した時には本願寺系の素人僧侶が佛事を営んでいたと述べている。(つづく)

建築家十話 (二)

河内の国分で求めた家は、建ってから、およそ百年くらいのことであった。戦争最中の



カット・若松光一郎

ことである。

建物の古さや形などから考えれば、そのへんには経ていゝなうと思つた。それにしても、少し説みが合わないのは、老人二人の隠居家だから、長命にしたいからで、違ふのではないか

し、第一、どこかに気品があつたので、買う気が、さすがに材木の本場に近いせいか、小屋組みや台所のあたりにかけては、かなりせいたくな材料が使つてあつた。

人が住めるほどの小屋裏には分厚い土をのせ「むしろ」なども敷いてあつたところからみると、そこには、人が寝たり新(た)きき(き)なども置いたのだと思ふ。私は座敷から土間に降りてみた。その民家にもあるような、大きな梁(はり)が、かすかに「そり」を打つて、広い台所の天井を二分している形、その空間はすばらしい構成となつていた。私は、家内に、僕はこの梁がほしさに、この家を買ったやうなものだね、といつて笑つた。

と思つた。もしかすると、その前から建つていたのかもしれない。ともかく、手ごとの広さだ

間もなく、解体がはじまつた。百年の風雪に耐えてきた妻壁は、土煙をたてて落ちていつた。あたかも、解剖をする時の医者に似た冷静さで、ついさきまでの私とは別人のようになつて、このすぐれた民家の末路を見守つてゐた。多分私は、私とは別な一人の建築家として、これから建つとするとする私の家に、立ち向かつてゐるのであつた。長いもや(母屋)は二

はじめた。しかし、私はこの建物を、ほんとうに自分のものにするには、この家にもつわる長い間の挿話(こうわ)と美しい追憶とをたち切るほかはないと思つた。人および一人の建築家としての私は、このような極端(ごくたん)じつこの上、自分の「家」を建てることになつた。

さく私はどのようにして改造しようかと思つた。まず経済のこと、一

普請往来

村野藤吾

吾

mar 22 1969

介の建築家にも夢があり、それを平(てんびん)にかけたらした。結局、外郭はなるべく残すようにして、内部を洋風に改造し、狭いながら茶の間と寝室を(襖(ふすま)を)わけて、新しく建て増すこととした。ともかく、家はできあがることになったものの、少し住みなれていくにつれ、経済のことまで、ひかえ目(ひかえめ)たが、それも長くは続かなかつた。そのうち、いい大工が見つかったので雇つたにして、不調などから直していった。そうなるや、家内の意図などに頓着(とんちやく)とんち。くはしなかつた。この建築家は、村野とは別人のようになつた。

つにぶち切れ、柱や梁が天井にぶち切れ、残骸(ざんがい)のようになつて散乱し、あの魅力的な大梁も無残な格好をしてころがっていた。典型的な「河内造り」は、わずかに数日にして、土煙とともに百年の寿命を閉じていった。すると、美しい建物の映像が、たとへば、人の一生にも似た追憶と愛憎とに包まれて、建築家村野とは別に、私の心なかで葛藤(かつぽん)かたうを

て、少し費用がたまると、またその職人を雇つてはきれときれに普請を続けた。四、五年も続いたかと思ふが、その大工は、戦後のほげしい職場にも生きていけなくなつたと見えて、そのうち姿を見せなくなつてしまつた。このようにして私は、それから、三人の大工を雇つては手直しを続けていった。妻壁に大きな穴をあけて入口を造り、柱も壁も天井もさんざんに切り開き、手直しを加えて昔日の面影は残さなかつた。このようにして長い時間と努力とが「私の作品」となるために費やされた。しかし、あの魅力的な美しい大きな梁は、また昔のままの姿で、私達の居間に残されて、私はついに、この大梁には、一指も加へることができなかった。もしかすると、私は、この美しい梁の陰にかくれて、卑怯(ひきう)のきうにも建築家としての虚構を築こうとしていたのではないか。

十数年にわたる私の普請も、そのころ終つたにしたいと思ふ。

(五術院会員、昭和は筆名)

昔一といつてもこんどの戦争までは、昨今のようにはレジャーを旅で楽しむというふうはあまりみられず、村の人たちが旅に出るという、たいへんは神仏への信心から参拝に行くというのが主であつた。この参拝旅行のために一種のクラブともみられる講仲間をつくり、年々に交代で参拝する講の代表者の旅の費用は、仲間うちで積み立てるといふいわゆる「代参講」にも仕組まれていたものである。

「金毘羅講」もその一つで、四國を中心にして広く分布し、ここ中国・近畿地方には多く行なわれていた。正・五・九月の十日の晩には、順繰りの当屋(ごまの)家に仲間が集まり、食事をともにして信仰と親睦をあたためる。そして春三、四月(ごまの)にもなる。

金毘羅信仰

まつ おか とし お
松岡利夫



mar 10 1964

代参者が仲間に見送られて、讃岐の象の頭に似ているいまの地に止まられたので、山号を象頭山と名づけたことも伝えられている。そして明治になって神仏混交が禁じられたので、祭神を大物主神と崇徳天皇として、金刀比羅宮と呼ぶようになった。

は暗夜に船の行先がわからなくなるとき、「金毘羅大権現」と口にしながら念じたころが、海上のひびくことが「とあるくくなり、それを自明に船をよせ行く」と無事に帰ることができた。農村の人たちのそれに、

「奉納金毘羅大権現」と書いたノボリを立てて浦々から海に流せたらしく、海はタルは必ず讃岐の岸べに流れつくと思はれている。こうして海の人たちの信仰に比金毘羅とてんぶらとは何か因縁あるものと思ひ込んでいた思ひ出がある。それが一煮の簡単な調理法で、少しきつた春に向かうきょう十日はまた一層参拝者でにぎわつてであつた。

でも足をはきというふにちがひはなかつたのであつた。こうして信仰からの金毘羅参りも、しだいに物見遊山へと傾いていった。昨今の四国路への遊覧旅行の発達の素地も、案外、金毘羅参り―金毘羅信仰からつちかわれていったともいえない。とはいふのである。

いまも金毘羅参りは、年間を通じて三百万から四百万人にも及ぶといふ。月々の十日は例祭日、陽春に向かうきょう十日はまた一層参拝者でにぎわつてであつた。

(山口大学教授・民俗学)

☆ ☆ ☆

ハワイに於ける

仙教の搖籃時代



山本芳雄



(十四)

而して九月、甲見師は半
カ年布哇滞在の後、本山に
状況報告を兼ねて一旦歸朝
する事になった。
命を受けた山田師は留守
中八方奔走して、フォス
ター女史、木村齋次氏等の
援助を受けフォート街とフ

オート・レインの角、メ
リーアーチ夫人所有の屋敷
(スクール街とベニヤード
中間ワイキキ側)一萬二千
五百五十平方呎を眞宗本願
寺布哇出張所本部の敷地と
して五千五百弗(この數字
は間違いかも知れぬが、記
録の通りしておく。恐ら
く五百弗ではなかつたらう
か)にて買収する約束を果
したのは十二月の初旬の頃
だった。
明治三十二年(一八九九

年)二月、里見師は開教使
今村恵猛師を伴つて歸布
した(今村師はこの時三十
二歳であつた。慶應義塾の
文科を卒業後、中学校の教
諭であつた)
今村師がホノルルに在任
することになつたので、山
田將爲師をカワイ島のケア
リアへ布教に轉任した。
三月六日カイウラニ王女
(芳紀二十四歳)薨せらる
里見、今村の兩師は、全布
哇の佛教徒を代表してその
葬儀に参列した。かつて明
治十四年(一八八一年)カ
ラカウア王世界周遊のみぎ
り、日本の皇華を訪問され
明治天皇に謁した時、その

王嗣たるべき王妃カイウラ
ニ親王と山階宮定麿親王
(後の東伏見宮殿下依仁親
王との御縁組を懇請せられ
たと云う秘事のヒロイン)
一(王女はカラカウア王妹
とイギリス人との間に生れ
た方)一
本山は正式布教開始と稱
して布教事業のため、單獨
布教使の殘した遺産を受繼
いで、續々と開教使を布哇
に派遣した。そして彼等の
事を賣僧、無責任自稱僧侶
自任布教使、野狐と呼ぼす
ことを許した。今日でも過
去に於て本願寺の發行した
多くの書物の中に散見する
ことが出来る。

なるほど確に愚僧がいた
事は事實である。しかし全
部が賣僧ではなかつた。本
山の派遣した正式認可の開
教使の中にも賣僧がいたこ
とを私は知っているが、し
かしこゝでは書くまい。こ
の際、正式開教使以前の僧
侶の全部が野狐でなかつた
事を知つて頂き、彼等が布
哇佛教の發展に貢獻された
事を認められるならば、こ
の稿も無駄ではなかつたと
思うのである。
明治三十二年(一八九九
年)九月、全僧徒が集合し
て地馴らしに始まり工事が
着手された。

(つづく)

ハワイに於ける 仙教の搖籃時代

山本芳雄



(十五)

天川棟梁には山口縣人、大工棟梁には山口縣人、の工事の規模構造は正面三十六呎、奥行六十呎、向拜は正面十二呎、前出九呎に造く、柱地盤より地廻り格造の高さ二十五呎十インチ梁上羽より台掌棟まで立水

にて十七呎、その上に二呎の箱棟を造り、地盤より箱棟までの總高は四十四呎十インチ、堂内は上下二層に造り、上層は専ら布教場に下層は學校教場に充てられた。この構造は堅牢を旨として建築されたもので、地盤に於ては深さ數呎に堀下げ、セメントを以て石垣を築き上げ、外に庫裡及び貸家を併せて建築、算額は二萬弗として工事を進めたが本堂だけでも二萬弗以上の

入費を必要としたため、信徒は涙ぐましい非常な盡力をなし、各島へ寄附、募集員を遣し、漸く一萬五千七百二十五弗を募財し、更に二度目の勸募を府下に求めて竣工するを得、同年十二月七日本堂が落成するに至つた。

然るに十二月十二日、ホルル市に黒死病(ペスト)が発生し、翌明治三十三年(一九〇〇年)ペスト病は更に猖獗した。その對策として、この間各處のペスト流行地は道路を遮斷し、焼却していたが、一月二十日ベレタニア街とヌアヌ街(今のリバティー劇場附近)にあつた一キャンブに患者が発生するに及んで消防隊が火を放ち、これを焼棄せよとした所、強い東風にのつた火は忽ち猛火と化しマウナケア、リバー、スミス、ベレタニア、キング、ホテル、ケカウリケ、クタイと東洋人の住居する下町の大部分は焼野原となつてしまつた。(日本人が後、バラマ方面とカカアコ方面に分れて住居するに至つたのは、この火事以來と云う)布教場の有力な信者木村齋次、檜山錦光、小林卯之助、菅保平らは皆、災害者となり布哇未曾有の慘狀となり日本人被害者のみで三千五百八十九名の多きに至つた。(全被害者七千

余人)里見監督は直ちに佛教徒のみにて其愛會を組織し、この救済に奔走したため建築は暫らくおあづけ状態となつた。市中の大勢は殆んど死市の如き感を呈し、新堂に入りするものは誰一人もなかつた。こうして建築事務は行詰まりをみせ、報恩講の法要も勤修できず、罹災者の生活物資は窮乏を極めた。二月、新本堂の側に假厨房を建築し、三月七日ここに移轉したが、同時に里見監督は在布二九年の後歸朝した。

(つづく)

ハワイに於ける 仙教の搖籃時代

apr 6
1969

山本芳雄



(十三)

甲見師の赴任以來、狹隘にして不便からず、布哇各島布教場を統一する本部としての威厳を欠くこの道場に痛く留意し、新築の義

を起さんとして甲見法師は布教出張所の役員を招集し、この事を訴えたところ元老格の木村齋次氏（この時ホノルルに住み、實業家として内外人社會の信用が厚かつた）は、甲見師の諮問機關として冒頭に激勵演説を試みた。曰く「年々歳々ホノルルに於ける同胞の人口激増の一途を進んでい

る今日、本願寺百年の計を立て將來に想いを走らせ、豪華な佛敎の殿堂を建設すべし。五萬弗の入費も嫌うべからずの覺悟してこの聖業に取組むべし。云々」と。『集まる者、その巨額に驚き、しばし言葉もなかりけり』と、日本人歴史家の藤井秀五郎氏は後年、大阪に於いて彼の發行していた『布哇と日本』と云う雑誌中の木村齋次略傳の項に書いてある。参考のため明治三十二年調査の日本人労働者賃金及び生活品の價格を見れば

白米一俵	四弗餘
醬油一丁	二弗
床屋一回	一弗
アヒナの洋服上下一組	十五仙
耕地契約月給（男）	一弗半
家賃（ホノルル）	一弗平均
一室	一弗五十仙内外
クイン病院（一日の入院料）	一弗五十仙
やがて敎團長格の菅保平（この頃の同胞間中の金満家にして卸商）を會計とし	
て本願寺創立當時の參謀、小林卯之助（小林ホテル初代）川原正夫（全島に十何カ所の支店を持つ豪商）王堂菊松（菅氏と共に有力卸商）の諸氏は、信者の志氣を鼓舞して一氣に集まれる者を一致賛成に踏み切らせ	

煙にまいて反論の余地をあたえぬと云う木村氏の腹藏を讀みとり、この提議に滿腔の賛意を表するや滿場一致して出張所本部建設を決した。（この時に出席した者は總て建築委員となり、役員として粉骨碎身の決意を固め、初志の目的に忠實なる事を誓つた。これ今日の本願寺の礎となつたのである。（尚、建築委員の名は布哇開敎史に詳なればこれを省く）
時に明治三十一年（一八九八年）六月であつた。
（つづく）

ハワイに於ける 仙教の播種時代

apr 9 1964 山 本芳雄



(十二)

その後、京都の本山は、布哇の眞宗西本願寺布教の初代監督として里見法蘭師(福井縣人)を任命し、師は明治三十一年(一八九八年)正月二十四日、王政が廢され、新しく生れた布哇共和國政府大統領ドール氏治政の下に、布哇に赴任さ

れた。この頃になると官約移民の大部分は耕地労働の條約満期となり、風土にも親しみ、落着きを見せ、私約移民と交替して(耕地に残留する者もかなりいたが)ホルルやヒロの都市に集中しつつあつた。里見師と云う人は郡司大尉と共に北海道の絶島に航した程の壯士風の人物で、ウラジオストク、台灣などの開教経験もあり法門戰場出入の宿將であつたと云

われている。三月には國崎法蘭師が來布、マウイ島ワイルクの地に赴任、四月には内田知家師が來布してハワイ島ホノム耕地に赴任した。(この人達は今村監督よりも先に來布した點に注意)四月十一日、米國はキユーバ島の問題から發火したスペインとの戰端を開始するに及び、フィリッピン群島を占領した結果、布哇は米國艦隊の戰略的中繼根據地となり、米國カラーは必然的に濃くなつて行つた。この年の八月十二日、遂に米布合併式が舉行せられ、ドール大統領は改めて縣知事となり、同時に契約移民の制度は全部廢止され

るに及び邦人は總て自由の民となつた。而してカリフォルニア州及びカナダに轉航する者も日に日に多くなつて行つた。日本人は佛教徒であるから大陸轉航は、即ち佛教のアメリカ大陸渡りを意味するものでもある。又、ホルル市及びヒロ市に於ける佛教の數は、ウナギ上りに上つて行つた。從つて布教本部の風格も漸次整つて來た。笑話がある。一八二〇年

キリスト教が傳來して、布哇主人に天なる神を仰ぐことを教えて以來七十八年、下を向いた時は既に自身を立てる地は米國の領地となつていた」と。

本山よりはキリスト教の方が役者が一枚上手のように考へるが、或は私の考へが少しひがんでゐるのかも知れない。しかし、宗教家はこのような歴史的事實をもつと別の眼で見るべきではなからうか。里見監督がホルルに赴任された頃はフォート街クワイ街の突當りにあるクレグホーン氏(クレグホーン氏はカイウラニ親王の父なるが如し)の所有する家を賃借りにして、ユンマ街から移轉し、某布教使本山特派の使僧と虚偽の門標を掲げていたが、本山から宮本視察員の來布により、悪事が發覺して逃亡した。

—かれは年をとっていた。メ
キシコ灣流に小船をうかべ、ひ
とりの魚をとって日をおくって
いたが、一尾も釣れない日が八
十四日もつづいた。はじめの四
十日はひとりの少年がついてい
た。しかし一尾も釣れない日が
四十日もつづくと、少年の両親
は、もう老人がすっかりサラオ
になってしまったのだといっ
た。サラオとはスペイン語で最
悪の事態を意味することだ。
これは、昨年、二連発銃で自殺
したヘミンクウェーの、最高傑作
といわれる「老人と海」の冒頭の
一節である。ヘミンクウェーの死
は六十二才であったが、この作品
を書いた時は、まだ五十三才であ
った。「老人と海」は「サラオに
なっちゃった」と見放されなが
ら、おれはまた大丈夫だ、ただ連
日見放されているだけ、きつと今
こそはと、海にいとどいく老
人、たったひとりの戦いを描い
ている。

年をとっても日常の競争場裏から
脱落したくない、なにもかも終わ
ってしまえば、どんな美男も及ば
ぬきれいな遺骸(がい)になってや
る、力んでいたヘミンクウェー
の、これは未来の自画像であった
かもしれない。が「すっかりサラ
オになってしまった」と自覚した
ヘミンクウェーは、今日こそはと
出かけてはいかず、愛用の獵銃で
みずからの生命を断った。

人生が一大闘技場であったミ
ンクウェーにとって、戦いから
見放された老人であるとは、
耐えられぬことだったのであろ
う。しかし、人生はただ戦であ
るとだけ厚きのだろうか。
人はいつかは「すっかりサラオ
になっちゃった」といわれる
ようになる。六十才からか、七十
才からか、それは人によって違っ
た。

だろ。昨年度文壇の収穫の一つ
である川端康成の「眠れる美女」
は、六十七才の男が主人公であ
る。老いのみにくさの極みを求め
て、眠れる美女の家を訪れる男は
—かなしさを含んださびしさ
に落ちこんだ。かなしさとかさ
びしさとかいふよりも、老年の

すっかりサラオになってしまう
じめさが遠くないという思いは、
意外に多くの中年男女の切実な感
情となっているにちがいない。
さきごろ毎日新聞に連載された
石川達三作「夢の終りの時」を
はじめ、現在連載中の井上靖作
「城碧」あるいは源氏鶏太作
の準備期間、そして老年時代は
みとまとうとする。こうして、
少年時代は、大人の動き盛りの時
とを憎んで、がん固に闘技場に踏
みこみつづける。こうして、
少年時代は、大人の動き盛りの時
とを憎んで、がん固に闘技場に踏
みこみつづける。こうして、

いわれた人間の寿命も、今日で
は男六十五、女七十となり、なお
延びる傾向にあるというが、これ
はかならずしも動き盛りの期間が
長くなったというわけではなく、
むしろ老年期が長くなったこと
を意味するのであろう。この長い老
年期を、過去への思い出だけに生

老年をたのしむべし

進 藤 純 孝



進藤 純孝氏

きつれるものか。

「停年退職」(朝日)など、迫
る老年の凍りつくようなさび
なさを底流にした作品が目立つ
が、ますます露骨になってい
る。も、けつして偶然ではない。
少年は未来の夢に、老年は過去の
たしかに、人生が一大闘技場
であるかのような現代では、競争
場から脱落することは、最悪の
事態である。

「老人は愛むる」(国士社)の
著者、小林文成は、非常に長く
なった老年期を有意義にし、し
かも楽し生きぬこうとするい
となみの場としての老人クラ
ブ、老人学級つりを提唱して
いる。ここでは、特がえて役

に立つという、新生の目標が途
べられていくが、根本は若い者
に負けぬという力みではない。
谷崎潤一郎の最近の傑作「痴癪老
人日記」は、七十九才の老人が主
人公である。この老人は動くだ
けの人生には疲れ、その限りでは
いつ死んでもいいという気がして
いるが、死ぬ瞬間まで、たた性欲
と食欲を楽しもうという痴癪老人
なのである。少年には、未来への
夢ばかりでなく、今日の楽しみが
あるように、老人にも、過去への
思い出ばかりでなく、今日の喜び
のあることを、この作品は教えて
いる。

(評論家)

いよいよ米國の好意で短農青年が渡米するようになると各所で醜い争いが展開された。先づ最大の功労者である川崎氏に対し、農園の設備や労働條件が悪いと騒ぎ、踏んだり蹴ったりした。心労の余り川崎氏は病床につく有様となり三上氏ははねのけられ奇妙な結果になつて終まつた。それというのも日本國內で外務省の移住事務に農林省關係がのり込んできて、實質的に発言權を持ち、大藏省關係まで割り込んで來て、てんやわんやの大騒ぎとなつたことは多くの人々の記憶にまだ残る所である。日本政府としても日本の青年を加州の農場に入れようと考へ、莫大な犠牲を拂つて日米兩國をとんで歩いたバ

イオニヤである川崎氏に対して、一体どれだけの感謝をしたことであらうか。またパイオニヤを助け、奮闘した三上正岡兩氏に対しても、どれほどの感謝をしたことであらうか。もし農林省關係が割り込んで來て醜い暗闘をしなかつ

日本移民五千か

本社東京支局長 村山 有

たならば、もつと米國關係者にも好感を興えることができただであらう。外國の事情を知らない官僚がどれだけのことができるか否かといふことははや試験済みである。それなのになお且つ官僚の古手が

大手を振つてゐることは醜惡の限りである。歴代の外務省移住局長が大きな抱負と夢をもつて努力してきたにもかかわらず、最後の段階でいつも實質的效果を上げ得ないことは外務省の弱味というよりも、移民行政の突

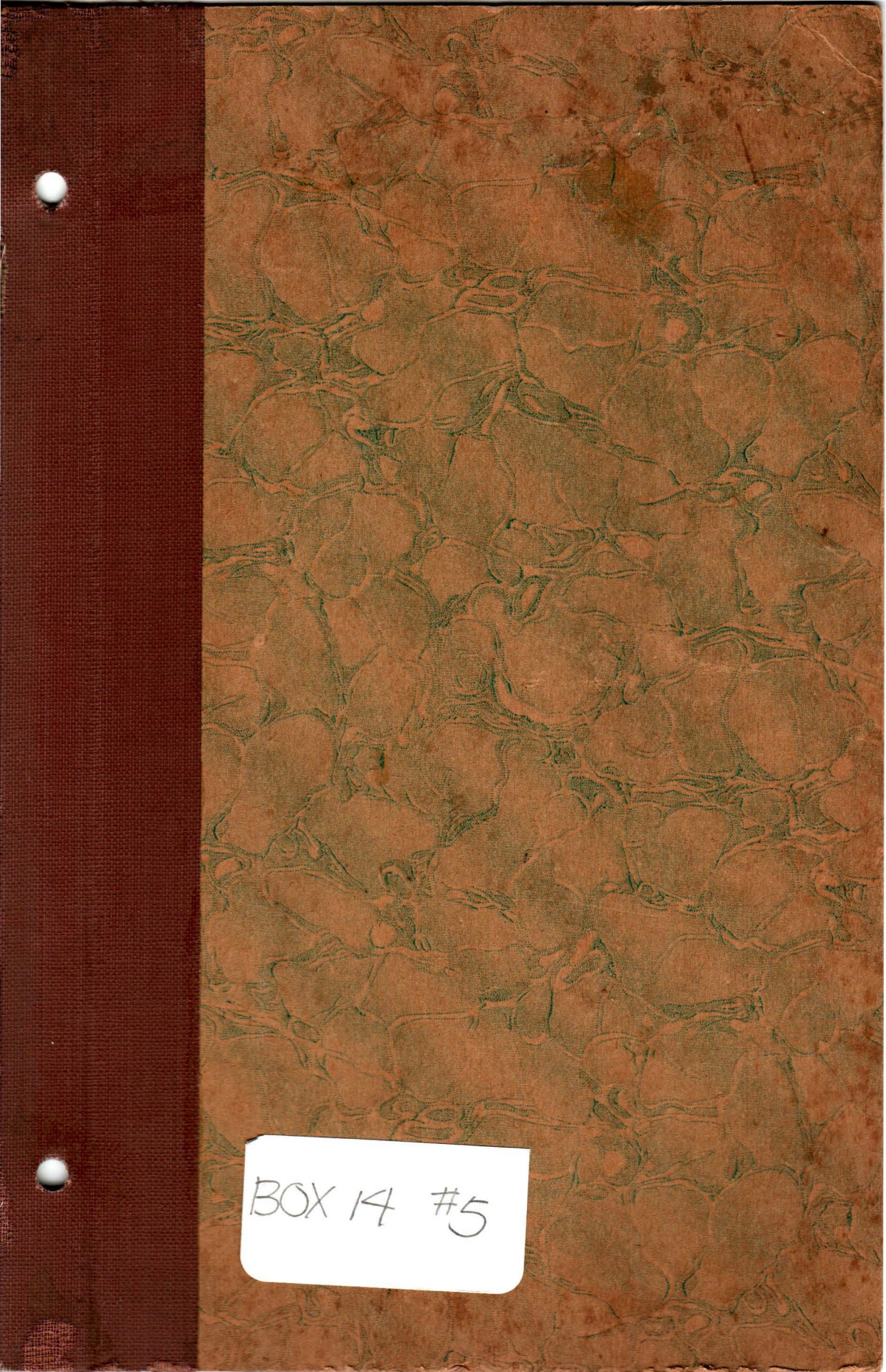
現段階に於て一應成功しており、そして内務官僚を中心として移住事業で立派に仕事が出来てゐるであらうし、またその期待もしているが、もし米國の移民法が修正されて、米國の移民法が修正されて、米國に渡る日本の移民が五千となつた場合どうなるかといふことである。

現在の二十三億の血税を使つて果して予定の四千人の移民が出て行くか否か？ しかし米國の場合だと希望者が殺到して來るだらう。米國政府の求むる所は米國開拓のために必要とする技術者であるから日本は技術移民の養成に迫られるであらう。現在のように赤旗を振つて仕事をせずにい

る者が米國に行くとなると先方ではおどろくであらう。日本人は一應勤勉にして優秀といふことになつてゐるから、本氣になつてやろうと思えばどんなことでも立派にできる筈である。

何はともあれ日本として眞誠に移住行政を考えなくてはならぬ時である。いつまでも官僚の縄張り争いと政治家の政争のみに供されるようでは、日本の移民の海外発展は到底望めなく夢に終るかも知れない。移民行政が失敗に終らないようもつと關係者に眞誠になつて取り組んで貰いたい。そして海外の實情に精通して適切なる方法を講じて貰いたい。



The image shows the front cover of a book. The main cover material is marbled paper with a pattern of swirling, organic shapes in shades of brown, tan, and green. To the left is a dark brown, textured spine. Two white circular punch holes are visible on the spine. A small, white, rectangular label with rounded corners is attached to the bottom of the cover. The label has the text "BOX 14 #5" written in black ink.

BOX 14 #5

